

令和 4 年度

シラバス

学校法人 福岡医療学院
福岡医療専門学校

理学療法科

令和4年度 福岡医療専門学校 理学療法科 シラバス 目次

教育方針		P 1
教育課程編成・実施の方針		P 1
1年生履修科目		P 3
2年生履修科目		P40
3年生履修科目		P78
4年生履修科目		P90

No.	科目名	単位数	時間
1	キャリアデザイン	2単位	30時間
2	スポーツ健康科学	2単位	60時間
3	社会学	1単位	15時間
4	社会学	1単位	15時間
5	生物	2単位	30時間
6	表現法	2単位	30時間
7	解剖学Ⅰ	2単位	60時間
8	解剖学Ⅱ	2単位	60時間
9	生理学Ⅰ	2単位	60時間
10	生理学Ⅱ	2単位	60時間
11	運動学Ⅰ	2単位	60時間
12	人間発達	1単位	30時間
13	リハビリテーション概論	1単位	30時間
14	リハビリテーション医学	1単位	30時間
15	理学療法概論	2単位	30時間
16	早期実践演習	1単位	30時間
17	理学療法評価学Ⅰ	1単位	30時間
18	理学療法評価学Ⅱ	1単位	30時間
19	運動療法学Ⅰ	1単位	30時間
20	地域リハビリテーション	1単位	30時間
21	見学実習Ⅰ（早期）	1単位	40時間

科目名	キャリアデザイン						理学療法科		
学年	1	分野	基礎	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	後期
評価 担当	滝沢 哲也				担当 教員	滝沢 哲也			
科目 概要	本科目では、自分の強みを知り、キャリアとは何かを理解し、キャリアをデザインすることの必要性について考える。 グループディスカッションや先輩・卒業生の話を通して、様々なキャリアの在り方を知ることにより、キャリアデザインを能動的に考える機会を提供する。卒業後の仕事生活を見据えて、学生生活の過ごし方などを自ら考えて、選択し、判断して行動ができるようになることを目標とする。								
到達 目標	①キャリアとは何か、キャリアデザインとは何かについて理解する。 ②日本型雇用の特徴と今後の変化について理解する。 ③実現したいキャリアデザインを踏まえて、学生生活の過ごし方を描くことができる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	概論			キャリアとは、キャリアデザインとは何か			講義	滝沢	
2	キャリアを考える 1			先輩を知る①			講義・演習	滝沢	
3	キャリアを考える 2			自分について何を知っているか			演習	滝沢	
4	キャリアを考える 3			先輩を知る②			講義・演習	滝沢	
5	キャリアを考える 4			専門学校生活の「節目」は何か			演習	滝沢	
6	キャリアを考える 5			「キャリアを考える」のまとめ			講義	滝沢	
7	日本型雇用とキャリア 1			人生の「節目」は何か			講義・演習	滝沢	
8	日本型雇用とキャリア 2			日本型雇用、就職活動を知る			講義	滝沢	
9	日本型雇用とキャリア 3			卒業生を知る			講義・演習	滝沢	
10	日本型雇用とキャリア 4			就職活動を知る			講義・演習	滝沢	
11	日本型雇用とキャリア 5			履歴書・自己紹介書①			演習	滝沢	
12	日本型雇用とキャリア 6			履歴書・自己紹介書②			演習	滝沢	
13	生涯キャリア発達 1			生涯学習とは			講義・演習	滝沢	
14	生涯キャリア発達 2			キャリア・トラジッション・モデル			演習	滝沢	
15	キャリアデザイン総括			キャリアデザインのまとめ			講義	滝沢	
評価方法									
評価指標		課題	小テスト	演習への 参加状況	-	-	-	合計	
評価割合 (%)		50%	40%	10%	-	-	-	100	
教科書	なし								
教材・参考図書		講義毎に必要な教材を紹介・配付する。							
オフィスアワー		火曜日 14：00－16：00							
履修上の 注意点	・演習では、小人数に分かれて意見交換、ディスカッションを行うので、積極的に参加することが望まれる。								

科目名	スポーツ健康科学					理学療法科			
学年	1	分野	基礎	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	前期・後期
評価 担当	田中 七郎、當眞 裕樹				担当 教員	田中 七郎、當眞 裕樹			
科目 概要	スポーツは性別や年齢、障がいの有無などに関係なく、すべての人々が運動を楽しみとして求めることによって成立してきた人類共通の文化であるといえる。また、スポーツを通じ得られる倫理観や道徳心は医療人として必須であり、他者を尊重し寄り添おうとする態度にもつながると推考される。 本講義では生涯にわたりスポーツを楽しみ、体力および健康の保持増進を図る目的で、主に生涯スポーツ種目を配置する。また、講義をとおして集団の中での個の役割を自覚すること、他者との関わりから社会性を育むことを主眼とする。								
到達 目標	健全な心身を育成し、礼節をわきまえた人格を形成する。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	オリエンテーション			授業を行うに当たっての心構え			講義	當眞	
2	体力づくり 1 生活に必要な基礎体力を養う			持久力・スピード・筋力の 3 要素を高める			講義 実技	當眞	
3	体力づくり 2 生活に必要な基礎体力を養う			持久力・スピード・筋力の 3 要素を高める講義			実技	當眞	
4	体力づくり 3 生活に必要な基礎体力を養う			持久力・スピード・筋力の 3 要素を高める			講義 実技	當眞	
5	シッティングバレーボール 1			パス・レシーブ・トス・スパイク・ブロッキング・サービス			講義 実技	當眞	
6	シッティングバレーボール 2			チームの現状から戦略を立て			講義 実技	當眞	
7	シッティングバレーボール 3			ゲームを通じて、勝敗を競う過程や結果を求める楽しさ、喜びが味わえるようにする。			講義 実技	當眞	
8	アルティメット 1			ディスクの操作方法について (基本的な技術を身につけよう)			講義 実技	當眞	
9	アルティメット 2			スロー1) バックハンドスロー スロー2) フォアハンドスロー			講義 実技	當眞	
10	アルティメット 3			スロー3) アップサイドダウンスロー スロー4) スクーバスロー			講義 実技	當眞	
11	アルティメット 4			キャッチング 動作中のスロー			講義 実技	當眞	
12	アルティメット 5			ゲーム (アルティメット)			講義 実技	當眞	
13	バレーボール 1			バレーボールには様々な楽しさがある。 自分たちの現状をみつめ可能性を求めて、一人一人の力を集結した素晴らしいチームづくりに挑戦する			講義 実技	當眞	
14	バレーボール 2			パス・レシーブ・トス・スパイク・ブロッキング・サービスの機能を各チームで練習し修得する。			講義 実技	當眞	

15	バレーボール 3	パス・レシーブ・トス・スパイク・ブロッキング・サービスの機能を各チームで練習し修得する。	講義 実技	當眞			
16	第一ラジオ体操及びストレッチ体操 1	ラジオ体操 1～13(1)	講義 実技	當眞			
17	第一ラジオ体操及びストレッチ体操 2	ラジオ体操 1～13(2)	講義 実技	當眞			
18	第一ラジオ体操及びストレッチ体操 3	ラジオ体操 1～13(3)	講義 実技	當眞			
19	第一ラジオ体操及びストレッチ体操 4	ストレッチ体操の基本 25(1)	講義 実技	當眞			
20	第一ラジオ体操及びストレッチ体操 5	ストレッチ体操の基本 25(2)	講義 実技	當眞			
21	第一ラジオ体操及びストレッチ体操 6	ストレッチ体操の基本 25(3)	講義 実技	當眞			
22	マット運動 1	マット運動	講義 実技	當眞			
23	マット運動 2	マット運動	講義 実技	當眞			
24	マット運動 3	前転・後転・開脚前転・開脚後転・バランスジャンプ・倒立	講義 実技	當眞			
25	マット運動 4	前転・後転・開脚前転・開脚後転・バランスジャンプ・倒立	講義 実技	當眞			
26	集団行動 1	1) 姿勢 1. 気をつけの姿勢、2. 休めの姿勢	講義 実技	當眞			
27	集団行動 2	2) 方向変換 1. 右(左)への方向転換、 2. 後ろへの方向変換、3. 腰を下ろして休む姿勢	講義 実技	當眞			
28	集団行動 3	3) 集合、整頓、番号、解散 1. 縦隊の集合と整頓 2. 横隊の集合と整頓、番号	講義 実技	當眞			
29	集団行動 4	4) 列の増減 1. 2 列横隊から 4 列横隊 2. 4 列横隊から 2 列横隊	講義 実技	當眞			
30	集団行動 5	3. 2 列横隊から 3 列横隊 4. 3 列横隊から 2 列横隊、5. 礼	講義 実技	當眞			
評価方法							
評価指標	中間試験 (実技含む)	期末試験 (実技含む)	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	50	50	-	-	-	-	100
教科書	実技関連資料を配布する。						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	講義前後。その他は講義時に確認すること。						
履修上の 注意点	積極的に取り組むこと。 その他注意事項は、初回授業時に説明をする。						

科目名	社会学						理学療法科		
学年	1	分野	基礎	単位数	1 単位	時間数	15 時間	期間	前期
評価 担当	下迫 勇夫			担当 教員	下迫 勇夫				
科目 概要	本授業では、「近代」を成立させる必須条件、すなわち①領土②国民③統治機構をそれぞれ紹介しながら、ヨーロッパで成立した近代国家の史的展開を熟考したいと考えている。 本講義で紹介する事例は、up to date な時事問題を取り上げ政治、経済、社会それぞれの側面から紹介していく予定である。 将来医療機関に携わる皆さん一人ひとりの思考が深まるように講義を展開していきたい。								
到達 目標	1. 人間社会に起こるさまざまな社会事象がどのような原因で起こりどんな結果をもたらすかを解明し、社会の構成員として自らのあり方を考えさせる。その上で、豊かな知識や正しい判断力、態度を身につける。 2. 社会学の学びを通して、豊かな人間性と高い倫理観を身につける。 3. 社会事象の原因等を学び、科学的・論理的思考の基盤や多様性の理解する。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	世界史からの教訓			民族紛争、繰り返された戦争と反省、ヨーロッパ世界とアジア・アフリカ			講義	下迫	
2	世界の紛争地域 1			ローマ帝国とユダヤ王国、パレスチナ問題			講義	下迫	
3	世界の紛争地域 2			アフガニスタン問題、			講義	下迫	
4	世界の紛争地域 3			チベット問題			講義	下迫	
5	世界史の概観 1			人類の誕生と進化、化石の年代、古代			講義	下迫	
6	世界史の概観 2			ゲルマン民族の大移動、ヨーロッパ近代国家の誕生			講義	下迫	
7	世界史の概観 3			産業革命と植民地経済			講義	下迫	
8	国際経済のしくみ 1			ウルグアイラウンド、WTO			講義	下迫	
9	国際経済のしくみ 2			絶対的買収の意味、TPP			講義	下迫	
10	日本史の概観 1			古代史			講義	下迫	
11	日本史の概観 2			中世史			講義	下迫	
12	日本史の概観 3			近・現代史			講義	下迫	
13	参政権と政治参加 1			選挙の実際、政治の仕組み			講義	下迫	
14	参政権と政治参加 2			年代別投票率と政策			講義	下迫	
15	参政権と政治参加 3			憲法改正国民投票			講義	下迫	
評価方法									
評価指標			前期試験	後期試験	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)			50	50	-	-	-	-	100
教科書	必要に応じて資料を作成し配布する。								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		各講義の前後を活用すること。							
履修上の 注意点	中間試験は7回の講義終了後、期末試験後に行う。新聞を読む習慣を身につけること。また、講義の内容については、予習・復習を行い、授業に臨むこと。								

科目名	社会学						理学療法科		
学年	1	分野	基礎	単位数	1 単位	時間数	15 時間	期間	前期
評価 担当	田頭 洋一			担当 教員	田頭 洋一				
科目 概要	法治国家である以上、憲法を中心とした法体系の中で国民一人ひとりの生活が成立している。自然科学領域を学ぶ皆さんの日常もこの例に洩れない。この国家の成り立ちは、一般的には「国民国家」と呼ばれている。国民国家を成立させることこそが「近代」の必須条件である。 本授業では、「近代」を成立させる必須条件、すなわち①領土②国民③統治機構をそれぞれ紹介しながら、ヨーロッパで成立した近代国家の史的展開を熟考したいと考えている。 本講義で紹介する事例は、up to date な時事問題を取り上げ政治、経済、社会それぞれの側面から紹介していく予定である。 将来医療機関に携わる皆さん一人ひとりの思考が深まるように講義を展開していきたい。								
到達 目標	1. 人間社会に起こるさまざまな社会事象がどのような原因で起こりどんな結果をもたらすかを解明し、社会の構成員として自らのあり方を考えさせる。その上で、豊かな知識や正しい判断力、態度を身につける。 2. 社会学の学びを通して、豊かな人間性と高い倫理観を身につけ、対象となる人々と信頼関係を築くことを養う。 3. 社会事象の原因等を学ぶことにより、科学的・論理的思考の基盤や多様性の理解、他者との協調・協働できる能力を養う。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	社会学オリエンテーション			社会学オリエンテーション、哲学者アドルノからのメッセージ			講義	田頭	
2	社会集団と制度的文化			社会集団（家族・集団・組織）、政治形態の変遷			講義	田頭	
3	日本の政治 1			モンテスキュー以後の政治、立法府国会			講義	田頭	
4	日本の政治 2			内閣と行政、司法の仕組み、			講義	田頭	
5	日本の政治 3			我が国における三権分立			講義	田頭	
6	日本国憲法			法規と社会、憲法前文の理念			講義	田頭	
7	日本国憲法			我が国の法体系			講義	田頭	
8	世界の中の日本文化			大陸文化の導入、産業革命以後の文化と教育			講義	田頭	
9	我が国の産業と資源			資源の現状、工業の発展と課題、GDP と GNP			講義	田頭	
10	国際社会			貿易管理の状況、ドルとユーロ、円			講義	田頭	
11	精神的文化 1			世界宗教の現状、仏教			講義	田頭	
12	精神的文化 2			キリスト教			講義	田頭	
13	精神的文化 3			イスラム教と原理主義、道徳と監修			講義	田頭	
14	国際社会			国際連合の仕組みと働き			講義	田頭	
15	国際社会			平和維持活動			講義	田頭	
評価方法									
評価指標		前期試験	後期試験	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)		50	50	-	-	-	-	100	
教科書	必要に応じて資料を作成し配布する。								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		各講義の前後。							
履修上の 注意点	中間試験は 7 回の講義終了後、期末試験後に行う。新聞を読む習慣を身につけること。また、講義の内容については、予習・復習を行い、授業に臨むこと。								

科目名	生物					理学療法科					
学年	1	分野	基礎	単位数	2 単位		時間数	30 時間		期間	前期・後期
評価 担当	田淵 弘太郎				担当 教員	田淵 弘太郎					
科目 概要	生物学で取り扱う『生物』は動物をはじめ植物等多種多様な生物が存在している。これら生物には一見すると共通する特徴・機能などは内容に見えるが生物には共通する決まりのようなものがある。 また豊かな人間性を養うと共に、保健・医療・福祉分野の課題に対して、多職種と連携を図り協働するために、ヒトが様々な刺激に対し反応することや、各種臓器が連携するために必要な神経について知る必要があるため、それに対して詳細な講義行う。 本講義では生物としてヒトを取り扱い、科学的・論理的思考の基盤に、専門科目への理解の足掛かりとなる内容を講義する。										
到達 目標	1. 生物の定義を理解し生物か否かを判断できる。また人体の機能がホメオスタシスに集約されることを理解し説明できる。 2. 神経系の基本的特徴機能について理解し説明できる。また、神経系の種類を分類し反射について理解する。										
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員		
1	人体を構成する要素			原子・分子・細胞・組織・器官など				講義	田淵		
2	ホメオスタシス①			内部環境				講義	田淵		
3	ホメオスタシス②			ホメオスタシス				講義	田淵		
4	からだの科学的構成①			原子の構造				講義	田淵		
5	からだの科学的構成②			体液の分類と組成①				講義	田淵		
6	からだの科学的構成③			体液の分類と組成②				講義	田淵		
7	からだの科学的構成④			体液の分類と組成③				講義	田淵		
8	からだの科学的構成⑤			栄養素の種類（5 大栄養素）①				講義	田淵		
9	からだの科学的構成⑥			栄養素の種類（5 大栄養素）②				講義	田淵		
10	からだの科学的構成⑦			糖質の種類と構成元素				講義	田淵		
11	からだの科学的構成⑧			蛋白質の種類と構成元素				講義	田淵		
12	からだの科学的構成⑨			蛋白質の機能				講義	田淵		
13	からだの科学的構成⑩			脂質の種類と構成元素				講義	田淵		
14	からだの科学的構成⑪			栄養素の代謝①				講義	田淵		
15	からだの科学的構成⑫			栄養素の代謝②				講義	田淵		
16	神経系の基本的機能①			神経細胞の形態				講義	田淵		
17	神経系の基本的機能②			静止膜電位				講義	田淵		
18	神経系の基本的機能③			活動電位				講義	田淵		
19	神経系の基本的機能④			閾刺激				講義	田淵		
20	神経系の基本的機能⑤			全か無かの法則				講義	田淵		
21	神経系の基本的機能⑥			不応期				講義	田淵		
22	神経系の基本的機能⑦			イオンチャネル①				講義	田淵		
23	神経系の基本的機能⑧			イオンチャネル②				講義	田淵		

24	神経系の基本的機能⑨	興奮の伝導	講義	田淵			
25	神経系の基本的機能⑩	複合活動電位	講義	田淵			
26	神経系の基本的機能⑪	興奮の伝達	講義	田淵			
27	神経系の基本的機能⑫	興奮の伝達	講義	田淵			
28	神経系の機能①	神経系の成り立ち	講義	田淵			
29	神経系の機能②	反射と反射弓①	講義	田淵			
30	神経系の機能②	反射と反射弓②	講義	田淵			
評価方法							
評価指標	前期試験	後期試験	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	50	50	-	-	-	-	100
教科書	大地陸男『生理学テキスト（第8版）』文光堂，（2017年）5,000円						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	講義の前後。その他は講義時に確認すること。						
履修上の 注意点	生物で講義する内容は生理学に通じることが多いため、講義はしっかり受講すること。神経系を学んでいく上で、授業内容を理解するには生理学・解剖学の知識も必要になる。次回の講義内容は案内するので、毎時間ごとに1時間程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。 また、教科書を用いて講義を行うが、講義内容から試験問題を作成するため、ノート作成に力を入れること。						

科目名	表現法						理学療法科		
学年	1	分野	基礎	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	前期
評価 担当	竹下 政雄			担当 教員	竹下 政雄				
科目 概要	他者に対し自分の思いを表出する唯一の手段が対話である。従って自分の思いを正確にかつ的確に表出する方法を体得していなければ、他者に誤解されるばかりか他者を傷つけることさえ考えられる。このような自己表現の唯一の手段であるコミュニケーションを体系的に学んでいく。また、より具体的に、皆さんが必ず遭遇するであろう就職活動の際に必要なとされる技法、あるいは医療施設内における対話技法など、想定されるであろう場面を設定しながらを具体的に紹介していく。								
到達 目標	1. 相互理解に基づいた人間関係の構築に関わる表現についての理解及び認識を深める。 2. 話し言葉による国語の適切な使い方や敬語の効果的な使い方ができるようになる。 3. 目的と相手に応じた書き言葉（手紙、履歴書の送り状、レポート、解説文）による表現ができるようになる。 4. 効果的な対話ができる態度や能力を身に付ける。 5. 小集団（5人程度）による課題解決型学習をとおして、主体性および協調性を身に付ける。								
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員
1	あいさつ			見学実習開始時及び終了時のあいさつの仕方				講義	竹下
2	礼状の書き方			見学実習先への礼状作成				講義	竹下
3	返信用はがき 1			返信用はがき作成				講義	竹下
4	手紙の作成 1			演習の反省 近況報告の作成				講義	竹下
5	手紙の作成 2			近況報告の作成 敬語の誤例の収集				講義	竹下
6	公文書の書式の理解と作成			公文書の書式 履歴書送り状の作成				講義	竹下
7	敬語 1			敬語の種類(尊敬語 謙譲語Ⅰ)				講義	竹下
8	敬語 2			敬語の種類、敬語の語例と訂正 敬語の一覧表作成				講義	竹下
9	レポートの作成 1			序文 欠文 丁寧語 美化語				講義	竹下
10	レポートの作成 2			尊敬語 謙譲語Ⅰ 謙譲語Ⅱ レポートの提出				講義	竹下
11	電話			電話のかけ方・受け方 電話のメモの取り方				講義	竹下
12	資料収集の視点			レポート作成準備				講義	竹下
13	おかしい日本語			日常生活上 対 上司 対 患者（良好なコミュニケーション）				講義	竹下
14	レポート作成 3			日常生活上 対 上司				講義	竹下
15	レポート作成 4			対 患者 対 上司				講義	竹下
評価方法									
評価指標			前期試験	後期試験	－	－	－	合計	
評価割合(%)			50%	50%	－	－	－	100	
教科書	教科書は配布せず、学習プリントを適宜配付する。								
教材・参考図書		講義の中で適宜紹介する。							
オフィスアワー		講義の前後を活用すること							
履修上の 注意点	課題の提出期日に遅れず提出すること。								

科目名	解剖学Ⅰ					理学療法科			
学年	1	分野	専門基礎	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	前期・後期
評価 担当	大谷 崇仁・北河 憲雄			担当 教員	大谷 崇仁・北河 憲雄				
科目 概要	本講義は、ヒトの身体の構造及び機能を体系的に学んでいく。皆さんが専門領域とする理学療法は、身体の構造及び機能を熟知することを基礎的条件としている。また一方で、「即戦力」を目指すためにも非常に重要な領域です。 対象者の健康状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践するために、解剖の基礎となる、骨筋系、脈管系、体表解剖を身体の特徴を紹介しながら、皆さんの理解が深まるように進めていきます。								
到達 目標	1. 骨の基本構造を理解し、人体を構成する主な骨を説明できる。 2. 筋の起始停止を理解し、人体を構成する主な筋を説明できる。 3. 血管やリンパ系の基本構造を理解し、人体を構成する主な脈管を説明できる。 4. 体表から触知できる構造と各種の映像診断方法を理解し、人体の体表を構成する主な構造および各映像診断方法の原理を説明できる。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	概説（1A 意義と分類）		解剖の意義、分類、用語				講義	大谷・北河	
2	骨格系各論 1		脊柱				講義	大谷・北河	
3	骨格系各論 2		胸郭				講義	大谷・北河	
4	骨格系各論 3		上肢骨、関節				講義	大谷・北河	
5	骨格系各論 4		下肢骨、関節				講義	大谷・北河	
6	骨格系各論 5		頭蓋				講義	大谷・北河	
7	筋系 1		骨格筋				講義	大谷・北河	
8	筋系 2		頭部の筋				講義	大谷・北河	
9	筋系 3		頸部の筋				講義	大谷・北河	
10	筋系 4		胸部の筋				講義	大谷・北河	
11	筋系 5		呼吸運動				講義	大谷・北河	
12	筋系 6		腹部の筋				講義	大谷・北河	
13	筋系 7		背部の筋				講義	大谷・北河	
14	筋系 8		上肢の筋①				講義	大谷・北河	
15	筋系 9		上肢の筋②				講義	大谷・北河	
16	筋系 10		下肢の筋①				講義	大谷・北河	
17	筋系 11		下肢の筋②				講義	大谷・北河	
18	脈管系 1		体循環と肺循環				講義	大谷・北河	
19	脈管系 2		心臓、心臓の弁				講義	大谷・北河	
20	脈管系 3		心臓壁の構造				講義	大谷・北河	
21	脈管系 4		心臓の脈管、心膜				講義	大谷・北河	
22	脈管系 5		心脈管系、動脈系				講義	大谷・北河	
23	脈管系 6		静脈系				講義	大谷・北河	

24	脈管系 7	胎児循環	講義	大谷・北河			
25	脈管系 8	リンパ節の構造	講義	大谷・北河			
26	体表解剖 1	体表区分、骨格系、	講義	大谷・北河			
27	体表解剖 2	筋系、脈管系	講義	大谷・北河			
28	体表解剖 3	神経系、目耳鼻口、外皮	講義	大谷・北河			
29	概説（1E 人体の区分）1	人体の区分線	講義	大谷・北河			
30	概説（1E 人体の区分）2	人体の区分線	講義	大谷・北河			
評価方法							
評価指標	前期試験	後期試験	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	50	50	-	-	-	-	100
教科書	全国柔道整復学校協会『解剖学（第 2 版）』医歯薬出版株式会社，（2008 年）7,800 円						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	各講義の前後。						
履修上の 注意点	講義では皆さんが初めて聞く専門用語が出てくるため、講義前に教科書を読んで予習をすること。また、講義後にノートと教科書を見比べて、しっかり復習をすること。						

科目名	解剖学Ⅱ						理学療法科			
学年	1	分野	専門基礎	単位数	2 単位		時間数	60 時間	期間	前期・後期
評価 担当	畠山 雄次				担当 教員	畠山 雄次				
科目 概要	解剖学Ⅱでは、人体を構成する内臓系や神経系が身体の中のどの部位にあるのか、各器官の形態・構造およびその機能と各器官が果たす役割について学ぶ。特に神経系は、一人ひとりが熟知すべき重要な領域である。 対象者の健康状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践していくために、神経・筋接合部のメカニズムを理解することは重要である。この領域に関する研究が今現在の程度まで進められているのか、最新の情報を紹介しながら、理解を深めていく。									
到達 目標	1. 身体組織の構造と機能及び心身の発達などを系統立てて理解し、その役割を説明できる。 2. 内臓系、神経系の構造・形態およびその機能について理解し、説明できる。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	組織 1			解剖学の意義、分類、用語等				講義	畠山	
2	組織 2			骨の役割、分類、構造、発生と成長				講義	畠山	
3	組織 3			神経組織、ニューロン、神経細胞の種類、支持組織				講義	畠山	
4	組織 4			人体の発生、生殖細胞、性染色体と性の決定、受精卵の分割とその後の発生				講義	畠山	
5	内分泌系 1			内分泌の働き				講義	畠山	
6	内分泌系 2			内分泌器				講義	畠山	
7	内臓系 1			消化器の働き				講義	畠山	
8	内臓系 2			消化器系器官				講義	畠山	
9	内臓系 3			呼吸器の働き				講義	畠山	
10	内臓系 4			呼吸器系器官				講義	畠山	
11	内臓系 5			泌尿器の働き				講義	畠山	
12	内臓系 6			泌尿器系器官				講義	畠山	
13	内臓系 7			生殖器の働き				講義	畠山	
14	内臓系 8			男性生殖器				講義	畠山	
15	内臓系 9			女性生殖器				講義	畠山	
16	神経系 1			灰白質、白質と神経節、根、脳室系				講義	畠山	
17	神経系 2			髄膜と脳脊髄液、脳				講義	畠山	
18	神経系 3			脊髄前根と後根、脊髄内部構造				講義	畠山	
19	神経系 4			伝導路①				講義	畠山	
20	神経系 5			伝導路②				講義	畠山	
21	神経系 6			反射路等				講義	畠山	
22	神経系 7			末梢神経				講義	畠山	
23	神経系 8			脳神経				講義	畠山	
24	神経系 9			脊髄神経				講義	畠山	

25	神経系 10	自律神経	講義	畠山			
26	感覚器 1	外皮、眼球	講義	畠山			
27	感覚器 2	眼球付属器、聴覚器及び平衡器	講義	畠山			
28	感覚器 3	味覚器、臭覚器	講義	畠山			
29	映像解剖 1	診断用 X 線、CT, MRI など	講義	畠山			
30	映像解剖 2	診断用 X 線、CT, MRI など	講義	畠山			
評価方法							
評価指標	前期試験	後期試験	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	50	50	-	-	-	-	100
教科書	全国柔道整復学校協会『解剖学（第 2 版）』医歯薬出版株式会社，（2008 年）7,800 円						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	各講義の前後。						
履修上の 注意点	講義では初めて聞く専門用語が出てくるため、講義前に教科書を読んで予習をすること。また、講義後にノートと教科書を見比べて、しっかり復習をすること。						

科目名	生理学 I					理学療法科				
学年	1	分野	専門基礎	単位数	2 単位		時間数	60 時間	期間	前期・後期
評価 担当	塩川 光一郎			担当 教員	鍛冶屋 浩					
科目 概要	人体は約 60 兆個という膨大な数の細胞を基本単位として構成されている。各器官の機能はそれぞれの組織を構成する細胞の特有な機能が基本となる。 対象者の健康状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践していくために、正常な生命維持を行うために必要な人体の構造と機能を細胞レベルから理解し、またその役割や組織間の連携について詳しく学習する。									
到達 目標	1. 細胞の形態、特徴、機能について理解し説明できる。 2. 血球の形態、特徴、機能について理解し説明できる。 3. 呼吸循環器系の形態、特徴、機能について理解し説明できる。 4. 消化管の形態、特徴、機能について理解し説明できる。 5. 腎臓の形態、特徴、機能について理解し説明できる。 6. 運動の生理について理解し説明できる。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	生理学の基礎 1			細胞の環境				講義	塩川	
2	生理学の基礎 2			細胞の構造と構造機能相関				講義	塩川	
3	生理学の基礎 3			細胞膜を通過する物質移動				講義	塩川	
4	生理学の基礎 4			細胞機能調節のメカニズム、遅い時間経過の調節				講義	塩川	
5	体液			血漿及び血漿タンパク質				講義	塩川	
6	血液 1			赤血球、白血球				講義	塩川	
7	血液 2			血液型				講義	塩川	
8	血液 3			血小板による止血				講義	塩川	
9	血液 4			血液凝固				講義	塩川	
10	心臓・循環 1			心臓の構造、興奮伝播と自動性、自律神経による調節				講義	塩川	
11	心臓・循環 2			心臓の異常電気活動、心電図、心臓の収縮など				講義	塩川	
12	心臓・循環 3			全身各部の血流量、動脈血圧など				講義	塩川	
13	心臓・循環 4			微小循環、血管平滑筋など				講義	塩川	
14	心臓・循環 5			特殊部位の循環				講義	塩川	
15	心臓・循環 6			循環系の障害例				講義	塩川	
16	呼吸 1			肺の構造、呼吸運動				講義	塩川	
17	呼吸 2			呼吸力学、肺のガス交換				講義	塩川	
18	呼吸 3			換気と血流の適合、呼吸運動の調節				講義	塩川	
19	消化と吸収 1			消化管の構造と支配神経、消化管のペプチド性修飾物質				講義	塩川	
20	消化と吸収 2			消化管の運動				講義	塩川	
21	消化と吸収 3			消化液の分泌				講義	塩川	
22	消化と吸収 4			栄養素の分解と吸収				講義	塩川	

23	腎機能 1	腎臓の機能的構造、糸球体濾過	講義	塩川			
24	腎機能 2	クリアランスによる腎機能評価	講義	塩川			
25	腎機能 3	尿細管再吸収等	講義	塩川			
26	腎機能 4	尿の濃縮と希釈、排尿など	講義	塩川			
27	酸・塩基平衡	緩衝作用、細胞内 pH 等	講義	塩川			
28	日常の生理学 1	栄養素の代謝、エネルギー代謝	講義	塩川			
29	日常の生理学 2	体温、サーカディアンリズム	講義	塩川			
30	日常の生理学 3	運動と筋収縮、運動時の人体機能	講義	塩川			
評価方法							
評価指標	前期試験	後期試験	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	50	50	-	-	-	-	100
教科書	大地陸男『生理学テキスト（第 8 版）』文光堂，（2017 年）5,000 円						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	各講義の前後。						
履修上の 注意点	講義では初めて聞く専門用語が出てくるため、講義前に教科書を読んで予習をすること。また、講義後にノートと教科書を見比べて、しっかり復習をすること。						

科目名	生理学Ⅱ					理学療法科			
学年	1	分野	専門基礎	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	前期・後期
評価 担当	岡本 順子			担当 教員	岡本 順子				
科目 概要	本講義では、人体の構造と機能について学ぶ。人体の約 60 兆個という膨大な数の細胞には、それぞれ個別の役割を担い、必要なタイミングで必要な分の仕事を行うことで、人（個体）の生命を維持している。対象者の健康状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践していくために、正常な生命維持を行うために必要な人体の構造と機能を細胞レベルから理解し、またその役割や組織間の連携について詳しく学習する。								
到達 目標	1. 内分泌系の種類、作用機序について理解する。 2. 細胞機能の基礎について学び、興奮伝導について理解する。 3. 骨格筋の収縮、シナプス伝達についての特性を理解する。 4. 神経系、感覚系の機能を系統別に理解する。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	内分泌の機能 1		ホルモン、生合成と放出、作用機序				講義	岡本	
2	内分泌の機能 2		視床下部、下垂体				講義	岡本	
3	内分泌の機能 3		松果体、副腎髄質と皮質				講義	岡本	
4	内分泌の機能 4		甲状腺、膵臓の内分泌機能				講義	岡本	
5	内分泌の機能 5		カルシウム代謝の調節、性ホルモン				講義	岡本	
6	生殖 1		性の分化と発達				講義	岡本	
7	生殖 2		乳汁分泌 等				講義	岡本	
8	細胞の興奮発生と興奮伝導 1		刺激と興奮、膜電位				講義	岡本	
9	細胞の興奮発生と興奮伝導 2		興奮発生およびイオンチャネル、興奮伝導				講義	岡本	
10	骨格筋の収縮 1		骨格筋の種類と構造、筋収縮				講義	岡本	
11	骨格筋の収縮 2		興奮収縮連関、筋収縮力学等				講義	岡本	
12	シナプス伝達 1		神経筋伝達、中枢神経系のシナプス伝達				講義	岡本	
13	シナプス伝達 2		神経伝達物質、中枢のシナプス伝達等				講義	岡本	
14	自律神経系 1		自律神経系の構成と作用				講義	岡本	
15	自律神経系 2		自律神経系の受容体				講義	岡本	
16	運動系 1		脊髄				講義	岡本	
17	運動系 2		脳幹、小脳、				講義	岡本	
18	運動系 3		大脳基底核、大脳皮質				講義	岡本	
19	感覚総論		感覚の強度				講義	岡本	
20	体性感覚 1		体性感覚と受容器				講義	岡本	
21	体性感覚 2		伝導路、中継核				講義	岡本	
22	体性感覚 3		大脳皮質の体性感覚野、痛覚等				講義	岡本	
23	味覚・嗅覚		それぞれの特徴及び受容体等				講義	岡本	

24	聴覚・前庭感覚	音受容、聴覚の中樞、前庭感覚	講義	岡本			
25	視覚 1	眼球の光学系、網膜の光受容	講義	岡本			
26	視覚 2	視覚の中樞神経機序、眼球運動等	講義	岡本			
27	脳の統合機能 1	大脳皮質の構造と機能、	講義	岡本			
28	脳の統合機能 2	大脳辺縁系と視床下部	講義	岡本			
29	脳の統合機能 3	脳の情動、脳波等	講義	岡本			
30	脳の統合機能 4	覚醒と睡眠、学習、記憶	講義	岡本			
評価方法							
評価指標	前期試験	後期試験	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	50	50	-	-	-	-	100
教科書	大地陸男『生理学テキスト（第 8 版）』文光堂，（2017 年）5,000 円						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	各講義の前後。						
履修上の 注意点	講義では初めて聞く専門用語が出てくるため、講義前に教科書を読んで予習をすること。また、講義後にノートと教科書を見比べて、しっかり復習をすること。						

科目名	運動学 I					理学療法科			
学年	1	分野	専門基礎	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	前期・後期
評価 担当	重松 直人			担当 教員	重松 直人				
科目 概要	運動学は人間の運動の科学、運動を研究する学問などと定義される。運動学は解剖学、生理学、物理学、心理学、社会学などの多くの学問体系を統合した上に成り立っている。また、基礎となる科学領域の発展は目覚ましいものがある。1 年次の運動学 I ではまず、人間の身体運動を理解するために必要な人体の構造と機能、力学について学ぶ。								
到達 目標	1. 力学の基本的専門用語を理解し、説明ができる。 2. 筋骨格系の基本的構造・機能を説明できる。 3. 上肢の構造・機能と関節運動との関係が説明できる。 4. 下肢の構造・機能と関節運動との関係が説明できる。 5. 頸部・体幹の構造・機能と関節運動との関係が説明できる。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	運動学とは		導入・定義・歴史				講義	重松	
2	生体力学の基礎 1		身体運動と力学、身体運動の面と軸				講義	重松	
3	生体力学の基礎 2		運動学的分析、円運動				講義	重松	
4	生体力学の基礎 3		筋力と重力、モーメント				講義	重松	
5	生体力学の基礎 4		運動法則、仕事とエネルギー				講義	重松	
6	生体力学の基礎 5		身体とてこ				講義	重松	
7	生体の構造と機能 1		骨の構造と機能				講義	重松	
8	生体の構造と機能 2		関節の構造と機能、関節の分類				講義	重松	
9	生体の構造と機能 3		関節の構造と機能、関節運動の表し方				講義	重松	
10	生体の構造と機能 4		腱および靱帯の構造と機能、骨格筋の構造				講義	重松	
11	生体の構造と機能 5		筋繊維の種類、運動単位				講義	重松	
12	生体の構造と機能 6		筋収縮の様態、筋肥大と筋萎縮				講義	重松	
13	四肢と体幹の運動 1		上肢帯・肩関節 1				講義	重松	
14	四肢と体幹の運動 2		上肢帯・肩関節 2				講義	重松	
15	四肢と体幹の運動 3		上肢帯・肩関節 3				講義	重松	
16	四肢と体幹の運動 4		肘関節・前腕 1				講義	重松	
17	四肢と体幹の運動 5		肘関節・前腕 2				講義	重松	
18	四肢と体幹の運動 6		肘関節・前腕 3				講義	重松	
19	四肢と体幹の運動 7		手関節・手の運動 1				講義	重松	
20	四肢と体幹の運動 8		手関節・手の運動 2				講義	重松	
21	四肢と体幹の運動 9		手関節・手の運動 3				講義	重松	
22	四肢と体幹の運動 10		下肢帯・股関節 1				講義	重松	
23	四肢と体幹の運動 11		下肢帯・股関節 2				講義	重松	
24	四肢と体幹の運動 11		下肢帯・股関節 3				講義	重松	

25	四肢と体幹の運動 11	膝関節 1	講義	重松			
26	四肢と体幹の運動 11	膝関節 2	講義	重松			
27	四肢と体幹の運動 11	膝関節 3	講義	重松			
28	四肢と体幹の運動 12	足関節・足部 1	講義	重松			
29	四肢と体幹の運動 13	足関節・足部 2	講義	重松			
30	四肢と体幹の運動 14	足関節・足部 3	講義	重松			
評価方法							
評価指標	前期試験	後期試験	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	50	50	-	-	-	-	100
教科書	中村隆一『基礎運動学（第 6 版）』医歯薬出版株式会社，（2003 年）6,800 円						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	月曜日・火曜日の 16：00～18：00						
履修上の 注意点	中間試験は 7 回の講義終了後、期末試験後に行う。教科書上だけでなく、骨模型や人体で確認することを通してイメージしていくことを図り、常に疑問を持つことに留意する。 また運動学を学習するうえで解剖学・生理学を十分理解する必要があるため、しっかり予習・復習を行い、授業に臨むこと。						

科目名	人間発達学						理学療法科			
学年	1	分野	専門基礎	単位数	1 単位		時間数	30 時間	期間	前期・後期
評価 担当	中村 正恵			担当 教員	中村 正恵					
科目 概要	本講義では、胎児期から新生児期、乳児期、学童期に至るまでの身体的な発達、精神的な発達をそれぞれの時期に則してその特徴を紹介していく。 発達のメカニズム及び反射・反応は、こどものリハビリテーションを熟考するうえで必須の知識となる。 臨床現場における基礎的思考を養うとともに、対象者の状態を包括的にとらえた理学療法が実践できることへの礎となることを目的とする。									
到達 目標	1. 発達に関する定義、区分、原則を理解し、説明できる。 2. 反射反応を理解し、説明ができる。 3. 全身運動、上肢の運動発達について月齢ごとの特徴を説明できる。 4. 幼児期以降の発達について特徴を述べることができる。 5. 発達スクリーニングや新生児評価について理解し、その特徴を説明できる。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	発達とは 1			導入、成長、成熟と発達				講義	中村	
2	発達とは 2			発達段階、発達区分				講義	中村	
3	運動発達 1			運動発達の一般的原則				講義	中村	
4	運動発達 2			中枢神経系の発達と運動発達				講義	中村	
5	胎児および幼児の運動発達 1			胎児期の運動				講義	中村	
6	胎児および幼児の運動発達 2			脊髄レベルの反射と反応①（屈筋逃避反射・交叉性伸張反射・陽性支持反射・自動歩行）				講義	中村	
7	胎児および幼児の運動発達 3			脊髄レベルの反射と反応②（手掌・足底把握反射・ガラント反射・パビンスキー反射・台のせ反射）				講義	中村	
8	胎児および幼児の運動発達 4			脳幹下部レベルの反射と反応①（口唇探索反射・吸啜反射・モロー反射）				講義	中村	
9	胎児および幼児の運動発達 5			脳幹下部レベルの反射と反応②（ATNR・TLR・STNR）				講義	中村	
10	胎児および幼児の運動発達 6			中脳レベルの反射と反応（ランドウ反応・立ち直り反応）				講義	中村	
11	胎児および幼児の運動発達 7			大脳皮質レベルの反射と反応①（視覚性立ち直り反応・保護伸張反応）				講義	中村	
12	胎児および幼児の運動発達 8			大脳皮質レベルの反射と反応②（傾斜反応・背屈反応・ステッピング反応・ホッピング反応）				講義	中村	
13	胎児および幼児の運動発達 9			全身運動（背臥位）新生児～7 か月				講義	中村	
14	胎児および幼児の運動発達 10			全身運動（腹臥位）①新生児～6 ヶ月				講義	中村	
15	胎児および幼児の運動発達 11			全身運動（腹臥位）②6 ヶ月～1 歳頃				講義	中村	
16	胎児および幼児の運動発達 12			全身運動（座位）①新生児～6 ヶ月				講義	中村	
17	胎児および幼児の運動発達 13			全身運動（座位）②6 ヶ月～1 歳頃				講義	中村	

18	胎児および幼児の運動発達 14	全身運動（立位）①新生児～6 ヶ月	講義	中村			
19	胎児および幼児の運動発達 15	全身運動（立位）②6 ヶ月～1 歳頃	講義	中村			
20	胎児および幼児の運動発達 16	小児の歩行の特徴	講義	中村			
21	胎児および幼児の運動発達 17	小児期の起き上がり立ち上がりの特徴、上肢機能の役割	講義	中村			
22	胎児および幼児の運動発達 18	上肢機能の発達（リーチ動作、握り、つまみ、操作など）	講義	中村			
23	胎児および幼児の運動発達 19	遊び・食事・排泄・更衣の発達	講義	中村			
24	ADL の発達 1	感覚・知覚・言語・社会性の発達	講義	中村			
25	新生児期の評価	新生児期の評価	講義	中村			
26	幼児期以降の発達とスクリーニング 1	遠城寺式乳幼児分析的発達検査表	講義	中村			
27	幼児期以降の発達とスクリーニング 2	日本版デンバー式発達スクリーニング検査	講義	中村			
28	幼児期以降の発達とスクリーニング 3	遠城寺式乳幼児分析的発達検査表、日本版デンバー式発達スクリーニング検査の演習	講義・演習	中村			
29	心理社会的発達 1	乳児期～学童期	講義	中村			
30	心理社会的発達 2	思春期・青年期～成熟期	講義	中村			
評価方法							
評価指標	前期試験	後期試験	小テスト		－	－	合計
評価割合 (%)	40	40	20		－	－	100
教科書	藪中 良彦他『小児理学療法学』メジカルビュー社、4,800 円						
教材・参考図書	適宜、資料を配布する。						
オフィスアワー	火曜日、金曜日 16：00～17：00						
履修上の 注意点	・各授業の確認問題や演習課題を適宜提示するので、積極的に取り組むことが望まれる。						

科目名	リハビリテーション概論					理学療法科				
学年	1 年	分野	専門基礎	単位数	1 単位		時間数	30 時間	期間	前期
評価 担当	田原 典嗣			担当 教員	田原 典嗣					
科目 概要	リハビリテーションとは何か？その本質を体系的に学び、医療、福祉、保健について包括的に理解することを目的とする。また、リハビリテーションの奥深さに触れ、豊かな人間性と高い倫理観を身につけ、疑義を楽しむ能動的学習の礎を築く。									
到達 目標	1. リハビリテーションの歴史的背景とその基本を理解する。 2. リハビリテーションにおける理学療法士の役割について理解する。 3. 障害に対する考え方とその意義を通して、明日の理学療法士に求められる存在価値を探究し続ける力を養う。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	リハビリテーション概論概要			リハビリテーションの理念と歴史				講義	田原	
2	医療、保健、社会福祉			リハビリテーション領域と医療、保険、社会福祉の関わり方				講義	田原	
3	リハマインド			リハビリテーションマインドの重要性と障害を診る心				講義	田原	
4	廃用症候群			廃用症候群と二次的合併症				講義	田原	
5	回復期リハビリテーション			回復期リハビリテーションについて				講義	田原	
6	生活期リハビリテーション			介護保険の概要と介護予防				講義	田原	
7	まとめ			1～6 回のまとめ				演習	田原	
8	疾病と障害の関係 1			国際障害分類（ICIDH）について				講義	田原	
9	疾病と障害の関係 2			国際生活機能分類（ICF）について				講義	田原	
10	リハビリテーション科医			リハビリテーション科医の役割				講義	田原	
11	理学療法とは			理学療法と理学療法士について				講義	田原	
12	作業療法とは			作業療法と作業療法士について				講義	田原	
13	言語聴覚療法とは			言語聴覚療法と言語聴覚士について				講義	田原	
14	まとめ			8～13 回まとめ				演習	田原	
15	リハビリテーションと看護			リハビリテーション看護の役割				講義	田原	
16	チーム医療			各種コメディカル領域の職種について				講義	田原	
17	理学療法評価			理学療法評価の重要性と障害の帰結予測				講義	田原	
18	機能評価 1			機能評価の重要性とその進め方				講義	田原	
19	機能評価 2			障害の帰結予測				講義	田原	
20	能力障害 1			能力障害の評価意義とその進め方				講義	田原	
21	能力障害 2			ADL 評価について				講義	田原	
22	まとめ			15～21 回まとめ				演習	田原	
23	歩行 1			歩行の基礎知識				講義	田原	
24	歩行 2			歩行分析と異常歩行				講義	田原	
25	装具			装具の目的と各種装具について				講義	田原	

26	義肢	義手と義足について	講義	田原			
27	車椅子	車椅子の選択と各種車椅子について	講義	田原			
28	医療、社会福祉と法律	医療保険制度と各種法律	講義	田原			
29	まとめ	23～28 回まとめ	演習	田原			
30	地域リハビリテーション	自立支援と就労支援及び地域包括ケアシステムについて	講義	田原			
評価方法							
評価指標		中間試験	期末試験	-	-	-	合計
評価割合 (%)		50	50	-	-	-	100
教科書	椿原彰夫『PT・OT・ST・ナースを目指す人のための リハビリテーション総論（第3版）』診断と治療社，（2017年）3,600 円						
教材・参考図書		適宜紹介する。					
オフィスアワー		毎週木曜日の 8:50～12：00					
履修上の 注意点	講義によっては事例を多用し、問題提起を促すことにより、能動的かつ積極的な思考を引き出す。よって、生徒には多くの失敗を経験することを期待する。						

科目名	リハビリテーション医学						理学療法科		
学年	1 年	分野	専門基礎	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	後期
評価 担当	深堀 辰彦				担当 教員	深堀 辰彦			
科目 概要	臨床現場では、対象者の健康状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践することが求められる。リハビリテーション医療を実践する上で必要なリハビリテーション医学の基本的な考え方を身に付けるために、リハビリテーション医療の流れや様々な障害に対しての医学的な基礎知識を理解すると共にリハビリテーションに必要な専門的知識を習得する。 また、変化し続ける保健・医療・福祉に貢献する能力をつけるべく、保健・医療・福祉分野の課題に対して、多職種と連携を図り協働し、専門職業人として生涯にわたり研さんし続けるための基本的な考え方についても学ぶ。								
到達 目標	1. リハビリテーション医療の流れを説明できる。 2. 様々な障害を医学的に説明できる。 3. 疾患と障害との関連を説明できる。								
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員
1	関節可動域と筋力			関節の制限・種類・測定・訓練、筋力低下の種類・評価・筋力増強訓練の実際				講義	深堀
2	運動麻痺と運動学習理論			運動麻痺の発生機序、中枢性麻痺回復の原理、ニューロリハビリテーション、運動学習と効果的な運動学習の計画・技術				講義	深堀
3	異常歩行、失語症			主な異常歩行、失語症の診断と分類				講義	深堀
4	失認と失行			失認・失行の症状と評価、リハビリテーション				講義	深堀
5	高次脳機能障害、排泄障害			主な高次脳機能障害と原因疾患、排泄障害の理解				講義	深堀
6	痙縮、高齢化と介護予防			痙縮の理解・評価・対応・具体的な治療法、老化の種類と悪循環・高齢化への対策				講義	深堀
7	脳卒中			疾患の理解、急性期リハの目的、回復期リハの目的、具体的アプローチ、自宅復帰への地域連携				講義	深堀
8	パーキンソン症候群と脊髄小脳変性症			疾患についての理解、臨床症状、障害評価、治療とリハビリテーション				講義	深堀
9	多発性硬化症と神経・筋疾患			疾患についての理解、多発性硬化症と神経・筋疾患（進行性筋ジストロフィー、多発性筋炎、ギランバレー症候群、筋萎縮性硬化症）の臨床症状と評価				講義	深堀
10	脊髄損傷と外傷性脳損傷			疾患の理解・症状・機能障害の評価、リハビリテーションプログラム、外傷性脳損傷に特徴的な高次脳機能障害				講義	深堀
11	四肢切断、運動器疾患			疾患の理解、切断の分類と義肢・切断者の機能評価、運動器疾患に特徴的な障害、一般的治療の流れ、リハビリテーションの要点				講義	深堀
12	関節リウマチと慢性疼痛			疾患の理解、感覚・痛みの概念、体性感覚の受容器・伝導路、一般的治療の流れ、リハビリテーションの要点、よくみられる合併症				講義	深堀
13	脳性麻痺、心筋梗塞と虚血性心疾患			脳性麻痺の定義・分類・原因、心筋梗塞と虚血性心疾患の理解・検査・二次的合併症とその治療				講義	深堀
14	呼吸器疾患、悪性腫瘍			呼吸器リハビリテーションの概念・評価・治療手技、悪性腫瘍の理解・疫学と治療原則・がんリハビリテーションの基本的考え方				講義	深堀

15	生活習慣病、これまでの総括	生活習慣病についての理解、糖尿病・脂質代謝・高血圧・虚血性心疾患と運動療法、本講義で学んだことの総括	講義	深堀			
評価方法							
評価指標	中間試験	期末試験	小テスト	-	-	-	合計
評価割合 (%)	40	40	20	-	-	-	100
教科書	椿原彰夫『PT・OT・ST・ナースを目指す人のための リハビリテーション総論（第3版）』診断と治療社、(2017年) 3,600 円						
教材・参考図書	必要に応じて適宜プリントを配布する。						
オフィスアワー	各講義の前後を活用すること。						
履修上の 注意点	幅広い範囲の講義となるため、各講義後にしっかりと復習しておく事 中間試験は 8 回の講義終了後、期末試験は 15 回の講義終了後に行う。基礎的な部分については各自学習すること。また、講義の内容については、予習・復習を行い、授業に臨むこと。						

科目名	理学療法概論					理学療法科			
学年	1	分野	専門	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	前・後期
評価 担当	坂口 文宏、田中 和範、山本 拓史			担当 教員	坂口 文宏、田中 和範、山本 拓史				
科目 概要	リハビリテーション医療の発達に伴い、理学療法の範疇は拡大し、対象疾患、理学療法手技、職域、法律制度などといった要因が存在する。このような理学療法を取り巻く状況を理解し、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践することと多職種と連携を図り協働することが求められる。理学療法の全体像を学び、理学療法の専門的知識や実践的技能を段階的に習得し、専門職業人として生涯にわたり研さんし続ける礎を築く。								
到達 目標	1. 理学療法の歴史を理解し、理学療法を取り巻く組織、法律や制度について理解する。 2. 理学療法士を目指すうえで必要な知識やその分野に求められる倫理について理解する。 3. 理学療法発展のための教育および研究および研究等について理解する。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	理学療法 1			理学療法の定義、日本の理学療法の定義			講義	坂口・田中	
2	リハビリテーションとハビ テーション 1			リハビリテーション、リハビリテーションの分野			講義	坂口・田中	
3	リハビリテーションとハビ テーション 2			ハビリテーション、ノーマライゼーション			講義	坂口・田中	
4	理学療法士及び作業療法士法 1			PT・OT 法における理学療法、作業療法、理学療法士 免許、業務など			講義	坂口・田中	
5	理学療法士及び作業療法士法 2			秘密を守る義務、名称独占と業務独占			講義	坂口・田中	
6	職域と労働対価 1			理学療法士の領域①			講義	坂口・田中	
7	職域と労働対価 2			理学療法士の領域②			講義	坂口・田中	
8	職域と労働対価 3			理学療法士の労働対価①			講義	坂口・田中	
9	職域と労働対価 4			理学療法士の労働対価②			講義	坂口・田中	
10	職能団体と協働職種			理学療法士の組織、理学療法士の協働職種			講義	坂口・田中	
11	理学療法士の卒前・卒後教育 1			学生教育			講義	坂口・田中	
12	理学療法士の卒前・卒後教育 2			生涯学習、研究			講義	坂口・田中	
13	世界の理学療法			世界理学療法連盟、アメリカの理学療法、各国の理 学療法			講義	坂口・田中	
14	日本の理学療法の課題 1			診療報酬制度における理学療法士の課題			講義	坂口・田中	
15	日本の理学療法の課題 2			理学療法士の専門性、理学療法士の職域の拡大			講義	坂口・田中	
16	国際疾病分類（ICD）と国際 障害分類（ICIDH） 1			国際疾病分類（ICD）、障害、障害モデル			講義	坂口・田中	
17	国際疾病分類（ICD）と国際 障害分類（ICIDH） 2			機能障害、能力障害、社会的不利			講義	坂口・田中	
18	国際疾病分類（ICD）と国際 障害分類（ICIDH） 3			各障害レベルの関係性、ICIDH の功績と課題			講義	坂口・田中	
19	国際生活機能分類（ICF）			ICIDH から ICF への発展、国際生活機能分類（ICF）			講義	坂口・田中	
20	理学療法評価と治療、理学療 法士に求められる要素 1			理学療法評価			講義	坂口・田中	

21	理学療法評価と治療、理学療法士に求められる要素 2	評価手順	講義	坂口・田中			
22	理学療法評価と治療、理学療法士に求められる要素 3	ADL、健康生成論	講義	坂口・田中			
23	理学療法評価と治療、理学療法士に求められる要素 4	評価に基づいた治療実施、再評価と記録報告	講義	坂口・田中			
24	理学療法評価と治療、理学療法士に求められる要素 5	現代医学におけるパラダイム、運動療法	講義	坂口・田中			
25	理学療法評価と治療、理学療法士に求められる要素 6	物理療法、動作トレーニング	講義	坂口・田中			
26	理学療法評価と治療、理学療法士に求められる要素 7	義肢装具学、医療事故	講義	坂口・田中			
27	理学療法評価と治療、理学療法士に求められる要素 8	理学療法士に求められる 3 つの領域、理学療法士として要求される認知領域	講義	坂口・田中			
28	理学療法評価と治療、理学療法士に求められる要素 9	理学療法士として要求される情意領域、理学療法士として要求される精神運動領域	講義	坂口・田中			
29	理学療法評価と治療、理学療法士に求められる要素 10	理学療法士に要求される倫理	講義	坂口・田中			
30	理学療法評価と治療、理学療法士に求められる要素 11	理学療法士としての志、日本人に影響を与えている思想、障害受容と幸福	講義	坂口・田中			
評価方法							
評価指標	中間試験	期末試験	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	50	50	-	-	-	-	100
教科書	庄本康治『PT・OT ビジュアルテキスト 理学療法概論（第 1 版）』羊土社，（2017 年）3,200 円						
教材・参考図書	必要に応じて適時配布する。						
オフィスアワー	各講義の前後。						
履修上の 注意点	講義をしっかり聞くこと。また、課題の提出期日に遅れず提出すること。						
専任教員の 実務経験	30 年の臨床経験があり、急性期から回復期・訪問等まで幅広い分野の専門知識に精通している。						

科目名	早期実践演習						理学療法科		
学年	1	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	前期
評価 担当	田原 典嗣、大塚 和宏			担当 教員	田原 典嗣、大塚 和宏				
科目 概要	臨床実習に向けた準備を行い、見学実習に備えるための知識・技術を身につける。また、医療職としての接 遇・態度などコミュニケーションについて学ぶ。								
到達 目標	1. 何のための実習なのかを理解し、適切な態度や接遇を身につけることができる。 2. 実習に向け歩行介助、車いす介助等が実施できる。 3. 見学実習で学んだこと得たことを共有し、学校生活を送るうえでの目標を明確にすることができる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	臨床実習に向けて			見学実習の意味、実習の目的			講義	田原、大塚	
2	臨床実習に向けて			実習に臨む姿勢や態度、接遇			講義	田原、大塚	
3	リハビリテーション支援機器			福祉機器と福祉用具、自助具等			講義	田原、大塚	
4	臨床実習演習 1			実技デモンストレーション（車椅子、歩行、階段昇 降介助）			実技	田原、大塚	
5	臨床実習演習 2			実技（車椅子、歩行、階段昇降介助）			実技	田原、大塚	
6	臨床実習演習 3			実技（車椅子、歩行、階段昇降介助）			実技	田原、大塚	
7	中間まとめ			1～6 回の授業範囲			演習	田原、大塚	
8	臨床実習演習 4			実技総復習			実技	田原、大塚	
9	臨床実習演習 5			実技総復習			実技	田原、大塚	
10	臨床実習演習まとめ			実技まとめ			演習	田原、大塚	
11	臨床実習演習まとめ			実技まとめ			演習	田原、大塚	
12	臨床実習対策			見学実習直前指導			講義	田原、大塚	
13	臨床実習まとめ 1			見学実習提出書類整理、反省			講義	田原、大塚	
14	臨床実習まとめ 2			見学実習についてのグループワーク、発表			演習	田原、大塚	
15	臨床実習まとめ 3			見学実習についてのグループワーク、発表			演習	田原、大塚	
評価方法									
評価指標		実技試験	出席・授業態 度等						合計
評価割合 (%)		60	40						100%
教科書	必要プリントを適宜配布する。								
教材・参考図書		橋元隆『理学療法テキストⅤ 日常生活活動（ADL）（第 2 版）』神陵文庫，（2007 年）4500 円							
オフィスアワー		月～金曜日 14：00～18：00							
履修上の 注意点	1. 学習形態は、一斉指導等とする。								

科目名	理学療法評価学Ⅰ						理学療法科		
学年	1	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	前期
評価 担当	藤井 和彦、深堀 辰彦				担当 教員	藤井 和彦、深堀 辰彦			
科目 概要	対象者の健康状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践するためには、まず対象者の身体の状態や動作能力、社会的背景などを知らなければ、適切な理学療法を行えない。ゆえに、『理学療法は評価で始まり評価で終わる』と言われるほど、的確に対象者を評価することは大変重要である。 本講義では、理学療法の専門的知識や実践的技能を段階的に習得するための理学療法評価の概要（総論）を解説すると共に、評価を構成する検査・測定のうち、形態測定、関節可動域測定、日常生活活動検査を実施できるよう実技演習を行っていく。								
到達 目標	1. 理学療法評価の構成と進め方が理解できる。 2. 各検査・測定を実施できる。								
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員
1	総論 1			導入、障害とは				講義	藤井・深堀
2	総論 2			評価の位置づけ、構成要素				講義	藤井・深堀
3	総論 3			評価の進め方 1				講義	藤井・深堀
4	総論 4			評価の進め方 2				講義	藤井・深堀
5	日常生活活動評価			日常生活活動評価について				講義	藤井・深堀
6	形態測定（講義）			形態測定について				講義	藤井・深堀
7	関節可動域測定（講義）			関節可動域測定について				講義	藤井・深堀
8	形態測定（実技）1			デモンストレーション、実技 1				実技	藤井・深堀
9	形態測定（実技）2			実技 2				実技	藤井・深堀
10	関節可動域測定（実技）1			デモンストレーション、実技 1				実技	藤井・深堀
11	関節可動域測定（実技）2			実技 2				実技	藤井・深堀
12	関節可動域測定（実技）3			実技 3				実技	藤井・深堀
13	自由課題（実技）1			自由課題を実技 1				実技	藤井・深堀
14	自由課題（実技）2			自由課題を実技 2				実技	藤井・深堀
15	自由課題（実技）3			自由課題を実技 3				実技	藤井・深堀
評価方法									
評価指標			定期試験	小テスト等	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)			80	20	-	-	-	-	100
教科書	千住秀明『理学療法テキストⅡ 理学療法評価法（第 3 版）』神陵文庫，（2011 年）4,500 円 椿原彰夫『PT・OT・ST・ナースを目指す人のための リハビリテーション総論』診断と治療社，3600 円								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		火曜日の 14:00～17:00（その他は講義後に確認すること）							

履修上の 注意点	理学療法評価は考え方が非常に理解しにくい部分があるため、講義は集中して受講すること。 また、実技のためにまずは覚えなないといけない項目が多く、日頃からその学習に取り組むこと。実技は、スムーズにできるように繰り返しの練習が必要である。
専任教員の 実務経験	23 年間、病院やクリニックで理学療法を行ってきた臨床経験から、中枢疾患・神経筋疾患・整形外科疾患の理学療法に対する知識に精通している。

科目名	理学療法評価学Ⅱ						理学療法科		
学年	1 年	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	後期
評価担当	田原 典嗣、重松 直人				担当教員	田原 典嗣、重松 直人			
科目概要	徒手筋力検査は臨床実習においても学生が経験する頻度の高い項目であり、対象者の状態を統合、解釈する上で重要な情報の 1 つとなる。ここでは実践的技能の段階的習得における初期段階ととらえ筋の位置・走行や作用について、さらには適切かつ再現性のある検査を習得することを目的として学んでいく。								
到達目標	1. 筋力検査の目的・意義を理解する。 2. 筋の起始停止を理解し、触診できるようになる。 3. 徒手筋力検査の実施方法が理解でき、検査を実施できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	徒手筋力テストの原理			段階づけシステム、段階を定める基準について 患者がテストに及ぼす影響、臨床現場での応用			実技	重松・田原	
2	上肢の筋力テスト 1			肩甲骨外転と上方回旋・肩甲骨挙上と内転肩甲骨内転と下制・肩甲骨内転と下方回旋及び下制			実技	重松・田原	
3	上肢の筋力テスト 2			肩関節屈曲（前方挙上を含む）、肩関節伸展、肩関節外転、肩関節水平外転と水平内転			実技	重松・田原	
4	上肢の筋力テスト			肩関節外旋・内旋、肘関節屈曲と伸展、前腕回外・回外、手関節屈曲・伸展			実技	重松・田原	
5	上肢の筋力テスト 4			指の中手指節関節屈曲、指の中手指節間関節および遠位指節関節の屈曲・伸展、指外転・内転母指			実技	重松・田原	
6	上肢の筋力テスト 5			中手指節間関節および遠位間関節の屈曲・伸展母指外転・内転、対立運動			実技	重松・田原	
7	下肢の筋力テスト 1			股関節屈曲・伸展			実技	重松・田原	
8	下肢の筋力テスト 2			股関節外転・内転外旋・内旋			実技	重松・田原	
9	下肢の筋力テスト 3			膝関節屈曲・伸展			実技	重松・田原	
10	下肢の筋力テスト 4			足関節底屈・背屈内がえし・外がえし足指の屈曲・伸展			実技	重松・田原	
11	頸筋のテスト 1			頸部伸展・複合伸展頸部屈曲・複合屈曲			実技	重松・田原	
12	頸筋のテスト 2			頸部回旋体幹伸展・骨盤挙上			実技	重松・田原	
13	体幹筋と骨盤底テスト 1			体幹屈曲・回旋			実技	重松・田原	
14	体幹筋と骨盤底テスト 2			安静な吸気・強制呼気運動・骨盤底			実技	重松・田原	
15	後期末まとめ			全範囲まとめ			演習	重松・田原	
評価方法									
評価指標		実技試験		筆記試験					合計
評価割合 (%)		50		50					100
教科書	千住秀明『理学療法テキストⅡ 理学療法評価法（第 3 版）』神陵文庫，（2011 年）4500 円 Dale Avers, Marybeth Brown『新・徒手筋力検査法（第 10 版）』協同医書出版社，（2020 年）7800 円								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		14:00～17:00（その他は講義後に確認しておくこと）							
履修上の 注意点	紙面上での理解ではなく積極的に実技を実施すること。また、筋の触診も実施するため、解剖学を十分に復習しておくこと。 基本実習着にて実施するが、状況により半袖・半ズボンを使用することがあるので準備しておくこと。								

専任教員の 実務経験	24年間、病院やクリニックで理学療法を実施してきた経験があり、運動器・評価・バイオメカニクスに対する知識に精通している。
---------------	--

科目名	運動療法学Ⅰ						理学療法科		
学年	1	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	前期
評価 担当	仲濱 毅、坂口 文宏			担当 教員	仲濱 毅、坂口 文宏				
科目 概要	運動療法とは、治療の手段として用いる運動のことを意味する。運動療法は理学療法の中核であり、近年その対象範囲は拡大傾向にある。この科目は運動療法学の総論と位置付け、対象者の健康状態に応じた、科学的根拠に基づいた運動療法を、基本的な専門的知識の理解と実践的技能を段階的に養うことを目的とし、障害と運動療法との関係について、基本的な内容を中心に学修していく。								
到達 目標	1. 運動療法を学習するにあたり必要な身体の名称・構造・機能を理解する。 2. 各種運動療法について、歴史、定義を説明できる。 3. 各種運動療法について、目的、対象を説明できる。 4. 各種運動療法について、その方法を説明かつ実施できる。 5. 運動療法に必要な筋骨格の理解を深める。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	運動療法の基礎 1			オリエンテーション、骨、関節、運動の基礎			講義	仲濱、坂口	
2	運動療法の基礎 2			基本的運動、分類（力源、筋収縮状態）			講義	仲濱、坂口	
3	運動療法の概観			歴史、概念（定義）、位置付け			講義	仲濱、坂口	
4	運動療法機器			機器の基本的考え方、目的、種類			講義	仲濱、坂口	
5	関節可動域運動 1			目的、種類、制限因子、関節の遊び、凹凸の法則、関節モビライゼーション			講義	仲濱、坂口	
6	関節可動域運動 2			関節可動域運動の実際と注意点（上肢）			実技	仲濱、坂口	
7	関節可動域運動 3			関節可動域運動の実際と注意点（下肢・体幹）			実技	仲濱、坂口	
8	関節可動域運動 4			筋骨格の機能解剖（触診）からのストレッチングの意義			実技	仲濱、坂口	
9	関節可動域運動 5			ストレッチングの実際			実技	仲濱、坂口	
10	筋力・筋持久力運動 1			目的・適応、筋力に影響する因子、一般的原則			講義	仲濱、坂口	
11	筋力・筋持久力運動 2			筋持久力、全身持久力、無酸素性作業閾値			実技	仲濱、坂口	
12	筋力・筋持久力運動 3			筋力・筋持久力運動の実際と注意点			講義	仲濱、坂口	
13	協調性回復運動			運動の協調性、障害、目的、原則、フレンケル体操、重り負荷			講義	仲濱、坂口	
14	全身調整運動			コンディショニング、目的、方法			講義	仲濱、坂口	
15	神経生理学的アプローチ			基本概念、生理学的基礎、諸家の紹介と理論			講義	仲濱、坂口	
評価方法									
評価指標		期末試験	課題	小テスト	授業態度			合計	
評価割合 (%)		50	20	20	10			100	
教科書	千住秀明『理学療法テキストⅢ 運動療法Ⅰ（第2版）』神陵文庫，（2005年）4,500円								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		水・金曜日の14：00～17：00（その他は講義後に確認すること）							

履修上の 注意点	運動療法学は理学療法士の臨床活動の核ともいえる科目である。この講義では運動療法に必要な基礎知識を確認しながら、伝統的運動療法の理解から近代の動向を含めた内容とする。 講義の円滑な理解のため、予習・復習することを強くお勧めする。
専任教員の 実務経験	10年間の病院における実務実績があります。持続的な地域支援を行う訪問リハビリの経験があります。

科目名	地域リハビリテーション						理学療法科		
学年	1 年	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	通年
評価 担当	大塚 和宏			担当 教員	大塚 和宏				
科目 概要	障がい児・者や高齢者が地域社会で自らの人生を主体的に生きることを支援するために医療、福祉、保健の動向を踏まえ、地域リハビリテーションに関わる諸制度を知り、地域において多職種と協働・連携できる能力、各制度上の理学療法士の役割及び業務内容を理解する。								
到達 目標	1. 社会保障制度（介護保険法、障害者総合支援法など）の理解と理学療法士の役割を知る。 2. 地域リハビリテーションの定義、活動理念、関連領域とシステム、さらに直接的サービスの現状と課題について理解する。 3. 障がい児・障がい者が自宅や地域で暮らすための環境整備方法を知る。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	地域理学療法概念と背景①			オリエンテーション 地域リハの広がりとその社会的背景			講義	大塚	
2	地域理学療法概念と背景②			障害児・者施策の推移（保護から自立へ）			講義	大塚	
3	地域理学療法概念と背景③			地域包括システムと地域連携			講義	大塚	
4	地域理学療法概念と背景④			生活者としての対象者			講義	大塚	
5	介護保険制度と理学療法①			介護保険制度、介護保険サービスとその評価			講義	大塚	
6	地域理学療法の展開①			行政における理学療法士の役割			講義	大塚	
7	地域理学療法の展開②			介護予防の展開			講義	大塚	
8	地域理学療法の展開③			介護保険下の入所・通所サービスの展開			講義	大塚	
9	地域理学療法の展開④			訪問における理学療法の展開 集団への対応			講義	大塚	
10	地域理学療法の展開⑤			入院・入所から在宅への準備			講義	大塚	
11	地域理学療法の展開⑥			成人障害者・小児支援施設の取り組み			講義	大塚	
12	地域理学療法リスクマネジメント			施設のリスクマネジメント 訪問のマネジメント、体力増進とリスク管理			講義	大塚	
13	QOLの増大に向けて①			障害者とスポーツ 小児理学療法：乳幼児			講義	大塚	
14	QOLの増大に向けて②			小児理学療法：学齢期 地域における健康増進			講義	大塚	
15	QOLの増大に向けて⑤			自主グループ活動への支援 まとめ			講義	大塚	
評価方法									
評価指標		中間試験	期末試験	小テスト	-	-	-	合計	
評価割合 (%)		40	40	20	-	-	-	100	
教科書	奈良勲『標準理学療法学 地域理学療法学（第4版）』医学書院，（2017 年）4,700 円								
教材・参考図書		その他適宜紹介する。							
オフィスアワー		木曜日の 8:50～12:00							

履修上の 注意点	講義に際しては事例を多用し、問題提起を促すことにより、能動的かつ積極的な思考を引き出す。よって、生徒には多くの失敗を経験することを期待する。 定期試験に関しては、到達目標をクリアし、自ら意味理解を図られること。中間試験は記述問題、期末試験は選択問題を主とする。 課題レポートについては、自らの考えを積極的に明文化できること。
-------------	---

科目名	見学実習Ⅰ（早期）						理学療法科		
学年	1 年	分野	専門	単位数	1 単位 (全 22 単位)	時間数	40 時間 (全 880 時間)	期間	前期
評価 担当	田原 典嗣、大塚 和宏			担当 教員	田原 典嗣、大塚 和宏				
科目 概要	見学実習Ⅰでは、実際の医療施設での見学実習を行う。実際の理学療法士の仕事の業務や他職種との連携を 目の当たりにし、チーム医療についてのイメージを身に着ける。また、社会人としてのマナーや接遇について、 実際の患者様やスタッフのやり取りを通して学ぶ。これから学習していく理学療法についてのモチベーション の向上とイメージを確立させる。								
到達 目標	1. 実際の医療施設における理学療法の外観を学び、理学療法士の業務について目で見て感じ学ぶ。 2. 医療の現場において様々な場面に適切な接遇で臨めるようになる。 3. 対象者様や病院スタッフの方とスムーズにコミュニケーションを取れるようになる。								
講義計画・講義内容									
1. 実習は同一の臨床実習施設において1週間行われる。 2. 内容は、各施設における実習指導者の指導・監督の下、患者と直接かかわっていく。他職職種とのかかわりや理学 療法士の業務における治療・評価のイメージをつける。 3. 安全管理、コミュニケーション論などで学んだ知識を実際の臨床現場で体験し、理解を深める。 3. 学内においては実習終了後に実習報告会（発表）を行う。									
評価方法									
評価指標		学内評価	-	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)		100	-	-	-	-	-	-	100
教科書	千住秀明『理学療法テキストⅡ 理学療法評価法（第3版）』神陵文庫，（2011 年）4500 円 田崎義昭『ベッドサイドの神経の診かた（第18版）』南山堂，（2016 年）7200 円								
教材・参考図書		配布した全ての教科書・参考書							
オフィスアワー		各指導教員に適宜確認すること。							
履修上の 注意点		1. 各実習施設に応じて準備すること。							

No.	科目名	単位数	時間
1	人間関係論	2単位	30時間
2	外国語	2単位	30時間
3	運動Ⅱ	1単位	30時間
4	精神医学Ⅰ	1単位	30時間
5	病理学Ⅰ	2単位	60時間
6	一般臨床医学Ⅰ	2単位	60時間
7	一般臨床医学Ⅱ	1単位	30時間
8	神経内科学	1単位	30時間
9	整形外科学	2単位	60時間
10	薬理学	1単位	30時間
11	臨床心理学	1単位	30時間
12	臨床運動学Ⅰ	1単位	30時間
13	理学療法評価学Ⅲ	1単位	30時間
14	理学療法評価学Ⅳ	1単位	30時間
15	運動療法学Ⅱ	1単位	30時間
16	理学療法技術論Ⅰ	1単位	30時間
17	理学療法技術論Ⅱ	1単位	30時間
18	理学療法技術論Ⅲ	1単位	30時間
19	物理療法学	1単位	30時間
20	日常生活活動学	1単位	30時間
21	ADL実践演習	1単位	30時間
22	義肢装具学	1単位	30時間
23	生活環境論	1単位	30時間
24	見学実習Ⅱ（ADL）	1単位	40時間

科目名	人間関係論					理学療法科			
学年	2	分野	基礎	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	前期
評価 担当	平早水 希			担当 教員	平早水 希				
科目 概要	本科目では、良好な人間関係の構築を目的に、人間関係の基礎的理論および人間関係をつくる理論や技法を学ぶ。さらに、演習を通して、自己理解および他者理解を深め、他者との協同について体験する。								
到達 目標	1 人間関係基礎論および人間関係をつくる理論や技法について理解する。 2 自己理解、他者理解を深める。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	概論		人間関係論とは				講義	平早水 希	
2	人間関係基礎論 1		人間関係の中の自己と他者				講義	平早水 希	
3	人間関係基礎論 2		自己理解				演習	平早水 希	
4	人間関係基礎論 3		自己理解				演習	平早水 希	
5	人間関係基礎論 4		対人関係と役割				講義	平早水 希	
6	人間関係基礎論 5		集団と個人				講義	平早水 希	
7	人間関係基礎論 6		他者理解・他者との協同				演習	平早水 希	
8	人間関係基礎論 7		他者理解・他者との協同				演習	平早水 希	
9	理論と技法 1		コーチング				演習	平早水 希	
10	理論と技法 2		アサーティブ - コミュニケーション				演習	平早水 希	
11	保健医療の人間関係 1		保健医療チームの人間関係				講義	平早水 希	
12	保健医療の人間関係 2		患者を支える人間関係				講義	平早水 希	
13	保健医療の人間関係 3		家族を含めた人間関係				講義	平早水 希	
14	保健医療の人間関係 4		地域をつくる人間関係				講義	平早水 希	
15	まとめ		セルフケアについて				講義	平早水 希	
評価方法									
評価指標		筆記試験	レポート・ 解説文	主体性・協調性		-	-	-	合計
評価割合 (%)		40	50	10		-	-	-	100
教科書	石川ひろの他『系統看護学講座 基礎分野 人間関係論（第3版）』医学書院，（2018 年）2200 円								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		授業の前後に確認すること。							
履修上の 注意点		演習を中心とした授業のため、評価においては授業態度を重視する。							

科目名	外国語					理学療法科				
学年	2	分野	基礎	単位数	2 単位		時間数	30 時間	期間	前期・後期
評価 担当	井原 恒治			担当 教員	井原 恒治					
科目 概要	理学療法士として、将来の仕事場である病院では、多くの医学英語および略語が使用されている。また、知識を広げるために、諸外国の論文も読めるようになることが求められる。また、国際化が進み、様々な国の人々の治療にあたることもある。 本講義では、医療現場で使えるより実践的な英会話をそれぞれの事例に即して進めていく。この具体的事例は、大きく分けると窓口での受付、電話での応対、主訴を聞く、検査の手順を説明する、会計を行う、などで必要なフレーズを学習していく。またその他に、教養英語についても単元の中で取り入れていきたい。 また後半では、総合英語から専門課程で学ぶ医療英語への橋渡しができるように、リハビリテーション領域で多く遭遇する疾患ごとに解説する。									
到達 目標	1. 一般的な医療用語やフレーズを適切に使用できる。 2. 医療現場での簡単な英会話を理解できる。 3. 専門基礎である外国語を通して、豊かな人間性と多様性を理解する。 4. 英語の基本的単語および文法を身につけ、英文を読み解くことができる。 5. リハビリテーション領域で使用する医学英語を身につける。 6. リハビリテーションに必要な英語での簡単なコミュニケーションがとれる。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	Lesson 1 At Reception①			新出単語、Listening、Speaking				講義	井原	
2	Lesson 1 At Reception②			会話文内容説明、Reading、Writing、 Dictation (書き取り練習)、用語ファイル				講義	井原	
3	テキスト+電話応対①			会話文内容説明、Speaking				講義	井原	
4	Lesson 2 Greetings①			新出単語、Listening、Speaking				講義	井原	
5	Lesson 2 Greetings②			会話文内容説明、Dictation、用語ファイル				講義	井原	
6	Lesson 3 Chest Pain①			新出単語、Listening、Speaking				講義	井原	
7	Lesson 3 Chest Pain②			会話文内容説明、Dictation、用語ファイル				講義	井原	
8	Lesson 7 Head Injury①			新出単語、Listening、Speaking				講義	井原	
9	Lesson 7 Head Injury②			会話文内容説明、Dictation、用語ファイル				講義	井原	
10	Lesson 10 Dizziness①			新出単語、Listening、Speaking				講義	井原	
11	Lesson 10 Dizziness②			会話文内容説明、Dictation、用語ファイル				講義	井原	
12	一般教養英語			英語の発音と表記のズレについて				講義	井原	
13	Lesson 3 Bill Payment①			新出単語、Listening、Speaking				講義	井原	
14	Lesson 3 Bill Payment②			会話文内容説明、Dictation、コラム（一般語と専門用語）				講義	井原	
15	Lesson 3 Bill Payment③			その他の会計窓口での表現 Useful Expressions				講義	井原	
16	Chapter1			Higher Brain dysfunction（高次脳機能障害）①				講義	井原	
17	Chapter1			Higher Brain dysfunction（高次脳機能障害）②				講義	井原	
18	Chapter1			Higher Brain dysfunction（高次脳機能障害）③				講義	井原	
19	Chapter3			Osteoporosis（骨粗鬆症）①				講義	井原	
20	Chapter3			Osteoporosis（骨粗鬆症）②				講義	井原	

21	Chapter3	Osteoporosis（骨粗鬆症）③	講義	井原			
22	Chapter3	Osteoporosis（骨粗鬆症）④	講義	井原			
23	Chapter6	Diabetes Mellitus（糖尿病）①	講義	井原			
24	Chapter6	Diabetes Mellitus（糖尿病）②	講義	井原			
25	Chapter6	Diabetes Mellitus（糖尿病）③	講義	井原			
26	Chapter6	Diabetes Mellitus（糖尿病）④	講義	井原			
27	Chapter9	Femoral Neck Fracture（大腿骨頸部骨折）①	講義	井原			
28	Chapter9	Femoral Neck Fracture（大腿骨頸部骨折）②	講義	井原			
29	Chapter9	Femoral Neck Fracture（大腿骨頸部骨折）③	講義	井原			
30	Chapter9	Femoral Neck Fracture（大腿骨頸部骨折）④	講義	井原			
評価方法							
評価指標	前期試験	後期試験	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	50	50	-	-	-	-	100
教科書	荒金房子他『 The Art of Healing』南雲堂，1,700 円						
教材・参考図書	仁木 久恵 / 森島 祐子 / Flaminia Miyamasu『そのまま使える医療英会話』医学書院，3500 円						
オフィスアワー	各講義の前後。						
履修上の 注意点	講義ごとに、次に進む範囲の文章の中から、わからない単語を調べておく等の予習をしておくこと。 英語が苦手な者は特に復習をしっかりと行うこと。 また小テストを適宜行うため、欠席した場合は、次の授業の予定（小テストの範囲）を各自責任持って他の受講者に確認するようにすること。						

科目名	運動学Ⅱ						理学療法科		
学年	2	分野	専門基礎	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	前期
評価 担当	藤井 和彦			担当 教員	藤井 和彦				
科目 概要	1 年次の運動学Ⅰでは人間の身体運動を理解するために必要な人体の構造と機能、力学について学んできた。2 年次の運動学Ⅱでは、各関節の構造・機能や神経生理学に基づく制御といった視点から「姿勢」、「歩行」及び「走行」について学んでいく。 理学療法の目的は、基本的動作能力の改善であり、帰するところ姿勢制御、歩行能力の向上にある。日常において移動手段の獲得は、対象者の QOL を飛躍的に向上させ、日常の質を向上させる。そのため、ここでは対象者の運動を理解し、理学療法を実践するために必要な基礎知識の習得を目的とする。								
到達 目標	1. 頸部・体幹の構造・機能と関節運動との関係が理解できる。 2. 姿勢保持のメカニズムが理解できる。 3. 歩行のメカニズムが理解できる。								
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員
1	四肢と体幹の運動 1			脊柱の骨格、頸椎の運動				講義	藤井
2	四肢と体幹の運動 2			胸椎と胸郭の運動				講義	藤井
3	四肢と体幹の運動 3			胸部の運動				講義	藤井
4	四肢と体幹の運動 4			腰椎の運動				講義	藤井
5	四肢と体幹の運動 5			顔面および頸部の運動				講義	藤井
6	姿勢 1			重心・立位姿勢の安定性 1				講義	藤井
7	姿勢 2			重心・立位姿勢の安定性 2				講義	藤井
8	姿勢 3			姿勢の記載と類型・立位姿勢 1				講義	藤井
9	姿勢 4			姿勢の記載と類型・立位姿勢 2				講義	藤井
10	姿勢 5			立位姿勢・立位姿勢の異常				講義	藤井
11	歩行と走行 1			歩行と運動学・歩行周期				講義	藤井
12	歩行と走行 2			運動学的分析・運動力学的分析				講義	藤井
13	歩行と走行 3			歩行時のエネルギー代謝				講義	藤井
14	歩行と走行 4			小児・高齢者の歩行・異常歩行				講義	藤井
15	歩行と走行 5			走行				講義	藤井
評価方法									
評価指標			定期試験	小テスト					合計
評価割合 (%)			80%	20%					100%
教科書	中村隆一『基礎運動学（第 6 版）』医歯薬出版株式会社，（2006 年）6,800 円								
教材・参考図書			適宜紹介する。						
オフィスアワー			各講義の前後を活用すること。						
履修上の 注意点		1. 日常より観察を心掛け、観察力を養うこと。 2. 実際にレポートなど紙面で提出することもあるので、パソコンを使えるようにすること。 3. 実際に姿勢・歩行分析を行うので、ショートパンツ、半袖のシャツを用意すること。							

科目名	精神医学Ⅰ					理学療法科			
学年	2	分野	専門基礎	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	後期
評価 担当	仲濱 毅			担当 教員	仲濱 毅、長 彰純				
科目 概要	1. 精神の病気が時と状況によっては誰にでも生じるもので、決して特殊なものではないことを学ぶ。 2. 精神医学の特色と身体医学との比較で学び、精神障害に関する概念について学ぶ。 3. 臨床における精神科領域の疾患の症状と治療を学ぶ。								
到達 目標	1. 精神医療の現状、精神障害の症状、精神科診断について理解する。 2. 精神障害を呈する各疾患について特徴を述べることができる。 3. 精神科医療における理学療法士の役割について理解する。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	精神医学とは		導入・国家試験説明				講義	仲濱	
2	脳器質性・症状性精神障害 1		定義・概論・各疾患概要				講義	仲濱	
3	脳器質性・症状性精神障害 2		代謝及び栄養障害・内分泌障害・臨床場面における特徴				講義	仲濱・長	
4	精神作用物質による精神および行動の障害 1		概論・各代表的な疾患				講義	仲濱	
5	精神作用物質による精神および行動の障害 2		薬物依存・家族の問題・治療と回復・臨床場面における特徴				講義	仲濱・長	
6	てんかん 1		概論				講義	仲濱	
7	てんかん 2		代表的なてんかん・各てんかん・臨床場面における特徴				講義	仲濱・長	
8	統合失調症 1		概要・代表的分類と予後				講義	仲濱	
9	統合失調症 2		病型と基本症状・病態・治療・臨床場面における特徴				講義	仲濱・長	
10	気分感情障害 1		概論				講義	仲濱	
11	気分感情障害 2		治療と援助・リハビリテーション・臨床場面における特徴				講義	仲濱・長	
12	神経症性障害 1		概論・各疾患概要				講義	仲濱	
13	神経症性障害 2		身体表現性障害・類似疾患・治療・臨床場面における特徴				講義	仲濱・長	
14	パーソナリティの障害		定義・概論・人格・行動の障害				講義	仲濱	
15	広汎性発達障害		定義・概要・特異的発達障害 臨床				講義	仲濱	
評価方法									
評価指標		中間試験	期末試験	小テスト					
評価割合 (%)		40%	40%	20%					
教科書	奈良勲『標準理学療法学・作業療法学 精神医学（第4版増補版）』医学書院，（2021 年）4,400 円								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		火曜日の 14：00～15：00							
履修上の 注意点	私語、携帯電話の使用を禁止する。								

科目名	病理学Ⅰ					理学療法科				
学年	2	分野	専門基礎	単位数	2 単位		時間数	60 時間	期間	前期・後期
評価 担当	大関 悟			担当 教員	大関 悟					
科目 概要	病理学は疾病の原因とその成り立ちを追求することにより、病気の本体を明らかにし、治療に直結する学問である。すなわち、医学・医療の最も基本的な学問であり、医療に携わる者の必須の学問と言える。 本講義では、卒後、リハビリテーションに携わるにあたって、疾病に直面するたびに常に病理学に立ち返り、疾病を深く理解したうえで、より良き医療の行える医療人となるようわかりやすく解説する。									
到達 目標	1. 各病因について理解できる。 2. 各病理学的変化について理解できる。 3. 理学療法と病理学との関連について理解できる。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	病理学の概要			導入、病理学の歴史				講義	大関	
2	病因論			外因（放射線障害）、内因				講義	大関	
3	退行性病変①			変性、委縮				講義	大関	
4	退行性病変②			壊死				講義	大関	
5	代謝異常①			蛋白質・アミノ酸代謝異常、脂質代謝異常				講義	大関	
6	代謝異常②			糖質代謝異常、無機物質代謝異常				講義	大関	
7	代謝異常③			色素代謝異常				講義	大関	
8	進行性病変①			肥大と過形成、化生、異形成				講義	大関	
9	進行性病変②			再生と創傷治癒				講義	大関	
10	循環障害①			体循環の機構				講義	大関	
11	循環障害②			全身循環障害				講義	大関	
12	循環障害③			局所循環障害				講義	大関	
13	免疫①			免疫の概念、免疫の成立				講義	大関	
14	免疫②・（老化）			免疫反応がもたらす傷害・疾患、移植 1				講義	大関	
15	免疫③・（老化）			免疫反応がもたらす傷害・疾患、移植 2				講義	大関	
16	炎症・感染症①			炎症①				講義	大関	
17	炎症・感染症②			炎症②				講義	大関	
18	炎症・感染症③			炎症③				講義	大関	
19	炎症・感染症④			感染症①				講義	大関	
20	炎症・感染症⑤			感染症②				講義	大関	
21	炎症・感染症⑥			感染症③				講義	大関	
22	腫瘍①			腫瘍とは、腫瘍の命名と分類				講義	大関	
23	腫瘍②			腫瘍の形態				講義	大関	
24	腫瘍③			悪性腫瘍の進展形式				講義	大関	
25	腫瘍④			悪性腫瘍の進行度				講義	大関	

26	腫瘍⑤	悪性腫瘍の統計	講義	大関			
27	腫瘍⑥	腫瘍発生の原因	講義	大関			
28	腫瘍⑦	発がんのメカニズム	講義	大関			
29	先天異常・奇形①	遺伝性疾患、染色体異常	講義	大関			
30	先天異常・奇形②	奇形、放射線障害	講義	大関			
評価方法							
評価指標	前期試験	後期試験	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	50	50	-	-	-	-	100
教科書	奈良勲『標準理学療法学・作業療法学 病理学（第4版）』医学書院，（2017年）4,600円						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	各講義の前後。						
履修上の 注意点	理解するには生理学の知識が必要である。講義前にその単元の生理について予習すること。また、復習をしっかり行うこと。						

科目名	一般臨床医学Ⅰ					理学療法科				
学年	2	分野	専門基礎	単位数	2 単位		時間数	60 時間	期間	前期
評価 担当	宇田津 明彦			担当 教員	宇田津 明彦					
科目 概要	理学療法士は身体障害を対象とし、近年では内部障害に対する理学療法は非常に重要度が高まっている。 また、運動器の障害を抱えている高齢者は、他に多くの内科疾患を併せ持つことは既知のとおりである。 本講義では、リハビリテーションに携わるにあたって必要な内部障害をわかりやすく解説する。 また、多くの臨床的な画像読影を含めることで、実践に活かせる知識としていく。									
到達 目標	1. 各疾患の原因について理解できる。 2. 各疾患の病態(症状)について理解できる。 3. 各疾患の基本的な検査・治療について理解できる。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	呼吸器疾患①			呼吸器感染症、COPD（慢性閉塞性肺疾患）				講義	宇田津	
2	呼吸器疾患②			アレルギー・免疫疾患、間質性肺炎				講義	宇田津	
3	呼吸器疾患③			その他の呼吸器疾患				講義	宇田津	
4	循環器疾患①			心不全、弁膜疾患				講義	宇田津	
5	循環器疾患②			先天性心疾患、動脈硬化				講義	宇田津	
6	循環器疾患③			心筋梗塞、狭心症				講義	宇田津	
7	循環器疾患③			高血圧、心筋症、その他				講義	宇田津	
8	血液・造血器疾患①			貧血、白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫など				講義	宇田津	
9	血液・造血器疾患②			出血性疾患、血栓性疾患				講義	宇田津	
10	感染症①			感染症へのアプローチ				講義	宇田津	
11	感染症②			細菌性感染症				講義	宇田津	
12	感染症③			ウイルス性感染症、その他				講義	宇田津	
13	自己免疫疾患			全身性自己免疫疾患				講義	宇田津	
14	アレルギー疾患等①			アレルギー疾患				講義	宇田津	
15	アレルギー疾患等②			免疫不全				講義	宇田津	
16	消化器疾患①			食道疾患、胃・十二指腸疾患				講義	宇田津	
17	消化器疾患②			小腸・大腸疾患				講義	宇田津	
18	肝胆膵疾患①			肝疾患				講義	宇田津	
19	肝胆膵疾患②			胆嚢・胆道疾患				講義	宇田津	
20	肝胆膵疾患③			膵疾患				講義	宇田津	
21	内分泌疾患①			視床下部・下垂体疾患				講義	宇田津	
22	内分泌疾患②			甲状腺・副甲状腺疾患				講義	宇田津	
23	内分泌疾患③			副腎疾患				講義	宇田津	
24	内分泌疾患④			性腺疾患、その他				講義	宇田津	
25	代謝・栄養疾患①			糖尿病				講義	宇田津	

26	代謝・栄養疾患②	その他	講義	宇田津			
27	腎・尿路疾患①	腎不全、糸球体疾患	講義	宇田津			
28	腎・尿路疾患②	腎障害、尿細管間質性疾患	講義	宇田津			
29	腎・尿路疾患③	泌尿器科領域の疾患	講義	宇田津			
30	腎・尿路疾患④	妊娠と腎、その他	講義	宇田津			
評価方法							
評価指標	中間試験	期末試験	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	50	50	-	-	-	-	100
教科書	井村裕夫『わかりやすい内科学（第4版）』文光堂，（2014年）9000円						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	各講義の前後。						
履修上の 注意点	理解するには生理学の知識が必要であるため、講義前にその単元の生理について予習すること。						

科目名	一般臨床医学Ⅱ						理学療法科			
学年	2	分野	専門基礎	単位数	1 単位		時間数	30 時間	期間	後期
評価 担当	坂口 文宏			担当 教員	坂口 文宏					
科目 概要	近年、リハビリテーション領域において心疾患のリハビリテーションの需要は高まっている。現場で心疾患患者に対する理学療法を行ううえで、心電図を読み取る力は病態を把握するだけでなく、リスク管理を行ううえでも非常に重要となる。 本科目では、対象者の状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践できることを目的に正常心電図の復習から始め、各心疾患の異常心電図を読み取る力を養う。									
到達 目標	1. 正常心電図について理解できる。 2. 各心疾患の病態と異常心電図を結び付けて理解できる。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	心電図①			正常心電図、左軸、右軸、偏位等				講義	坂口	
2	心電図②			時計方向回転、反時計方向回転、右胸心、早期再分極、非特異的 ST-T 変化、低電位差等				講義	坂口	
3	心電図③			洞性不整脈、移動性ペースメーカー、異所性調律異常、左房負荷、右房負荷、左室肥大、右室肥大、両室肥大等				講義	坂口	
4	心電図④			完全右脚ブロック、完全左脚ブロック、左脚前枝ブロック等				講義	坂口	
5	心電図⑤			左足後枝ブロック、2 束ブロック、3 束ブロック、洞機能不全症候群、除脈頻脈症候群、1 度房室ブロック等				講義	坂口	
6	心電図⑥			Wenckebach 型 2 度房室ブロック、MobitzⅡ型 2 度房室ブロック、2:1 型房室ブロック等、高度房室ブロック、発作性房室ブロック、3 度房室ブロック、等頻度性房室解離等				講義	坂口	
7	心電図⑦			心室補充収縮、心停止、心房期外収縮、非伝導性の心房期外収縮、変行伝導を伴う心房期外収縮、心室期外収縮、代償性間入性、2 段脈、3 段脈等				講義	坂口	
8	心電図⑧			2 連発ショートラン、RonT 型、副収縮、房室接合部調律、発作性心房細動、頻脈性心房細動等				講義	坂口	
9	心電図⑨			変行伝導を伴う心房細動等各種心房細動				講義	坂口	
10	心電図⑩			通常型心房細動等各種心房細動、異所性心房頻脈等				講義	坂口	
11	心電図⑪			P 波が QRS 波の直後にあるタイプ、P 波が QRS 波の前方にあるタイプ等				講義	坂口	
12	心電図⑫			右脚ブロック、左脚ブロック、多形性心室頻脈等				講義	坂口	
13	心電図⑬			心室細動発症早期、晩期、心静止、Brugada 症候群 coved 型、saddle back 型等				講義	坂口	
14	心電図⑭			労作性狭心症、急性前壁中隔梗塞、急性後壁梗塞、左冠動脈主幹部閉塞による急性心筋梗塞等				講義	坂口	
15	心電図⑮			ジギタリス効果、高カリウム血症、低カリウム血症、高カルシウム血症、低カルシウム血症、ペーシング不全、センシング不全、電極のつけ間違いなど				講義	坂口	
評価方法										

評価指標	中間試験	期末試験	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	50	50	-	-	-	-	100
教科書	山内豊明『心電図の見かた』照林社, 2100 円						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	各講義の前後に質問を受ける。						
履修上の 注意点	疾患を理解するうえで、心電図は重要な項目となる。ただ暗記するのではなく考え方を理解する必要がある。各講義後の復習を強く勧める。						

科目名	神経内科学						理学療法科			
学年	2	分野	専門基礎	単位数	1 単位		時間数	30 時間	期間	後期
評価 担当	中村 正恵				担当 教員	中村 正恵				
科目 概要	理学療法士は、主として QOL に何らかの支障をきたす方々を対象としている。本講義で取り上げる神経疾患は、この QOL を大きく損なう要因の 1 つとして推考できる。それゆえ理学療法士にとって神経疾患のリハビリテーションは、十分に理解する必要がある。 ここでは、多種多様な運動障害を呈する神経疾患を 1 つ 1 つ丁寧に解説していく予定である。本講義を通して一人ひとりが、神経生理学の基礎から各神経疾患における特徴まで、ある程度深い知識を得られるように板書を中心に進めていく。 また、多くの臨床的な画像読影を含めることで、実践に活かせる知識としていく。									
到達 目標	1. 神経生理学について理解できる。 2. 各疾患の原因・病態(症状)について理解できる。 3. 各疾患の基本的な検査・治療について理解できる。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	神経学①			神経とは（概論）				講義	中村	
2	神経学②			神経の種類				講義	中村	
3	神経学③			自律神経、神経障害				講義	中村	
4	神経学④			運動障害				講義	中村	
5	神経学⑤			感覚障害				講義	中村	
6	運動の調節とその異常①			錐体外路とは				講義	中村	
7	運動の調節とその異常②			錐体外路の制御、運動調節障害のみかた				講義	中村	
8	末梢神経系			脳神経				講義	中村	
9	症候論①			意識障害、脳死など				講義	中村	
10	症候論②			頭蓋内圧亢進、けいれん、髄膜刺激症状				講義	中村	
11	検査			各種検査について				講義	中村	
12	疾患各論①			脳血管障害①				講義	中村	
13	疾患各論②			脳腫瘍、神経変性疾患				講義	中村	
14	疾患各論③			脱髄性中枢性疾患				講義	中村	
15	疾患各論④			末梢神経障害、筋疾患				講義	中村	
16	神経学①			神経とは（概論）				講義	中村	
評価方法										
評価指標			中間試験	後期試験	小テスト	－	－	－	合計	
評価割合 (%)			40	40	20	－	－	－	100	
教科書	尾上 尚志他監修『病気がみえる vol.7 脳・神経（第 2 版）』メディックメディア，（2017 年）3900 円 山下敏彦『PT・OT のための画像のみかた（第 2 版）』金原出版，（2019 年）3,700 円									
教材・参考図書			適宜紹介する。							
オフィスアワー			各講義の前後。							
履修上の 注意点	理解しやすいよう授業を進める予定である。しっかりと復習を行うこと。									

科目名	整形外科科学					理学療法科			
学年	2	分野	専門基礎	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	前期・後期
評価 担当	田中 和範			担当 教員	田中 和範				
科目 概要	整形外科領域におけるリハビリテーションは、脳卒中リハビリテーションと並んで理学療法士にとって重要な領域であり、大きな役割を担っている。 本講義では、整形外科科学的診断学と治療法の基本から、理学療法士が関わることの多い疾患・外傷をメインにじっくりそしてわかりやすく紹介していく。 また、多くの臨床的な画像読影を含めることで、実践に活かせる知識としていく。								
到達 目標	1. 整形外科科学的診断・治療について理解できる。 2. 各疾患・外傷の成因・症状について理解できる。 3. 各疾患・外傷の基本的治療について理解できる。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	整形外科科学について		導入、歴史、リハビリテーションとの関わり合い				講義	田中	
2	整形外科科学的診断学①		診察の基本、救急時の診察				講義	田中	
3	整形外科科学的診断学②		検査法				講義	田中	
4	整形外科科学的治療法①		保存療法				講義	田中	
5	整形外科科学的治療法②		手術療法				講義	田中	
6	部位別の外傷と疾患①		軟部組織損傷①				講義	田中	
7	部位別の外傷と疾患②		軟部組織損傷②				講義	田中	
8	部位別の外傷と疾患③		骨・関節の損傷総論				講義	田中	
9	部位別の外傷と疾患④		肩関節および上腕				講義	田中	
10	部位別の外傷と疾患⑤		肘関節および前腕				講義	田中	
11	部位別の外傷と疾患⑥		手関節と手指				講義	田中	
12	部位別の外傷と疾患⑦		股関節および大腿①				講義	田中	
13	部位別の外傷と疾患⑧		股関節および大腿②				講義	田中	
14	部位別の外傷と疾患⑨		膝関節および下腿①				講義	田中	
15	部位別の外傷と疾患⑩		膝関節および下腿②				講義	田中	
16	部位別の外傷と疾患⑪		足関節と足部				講義	田中	
17	部位別の外傷と疾患⑫		脊椎・脊髄				講義	田中	
18	部位別の外傷と疾患⑬		骨盤				講義	田中	
19	全身性の疾患①		慢性関節疾患				講義	田中	
20	全身性の疾患②		リウマチとその類縁疾患				講義	田中	
21	全身性の疾患③		感染症				講義	田中	
22	全身性の疾患④		代謝・内分泌疾患				講義	田中	
23	全身性の疾患⑤		骨・軟部腫瘍				講義	田中	
24	全身性の疾患⑥		神経疾患				講義	田中	
25	全身性の疾患⑦		筋疾患				講義	田中	

26	全身性の疾患⑧	骨系統疾患	講義	田中			
27	全身性の疾患⑨	骨壊死性疾患および骨端症	講義	田中			
28	全身性の疾患⑩	四肢循環疾患	講義	田中			
29	全身性の疾患⑪	四肢切断および四肢欠損	講義	田中			
30	全身性の疾患⑫	慢性疼痛疾患、スポーツ整形外科	講義	田中			
評価方法							
評価指標	前期試験	後期試験	－	－	－	－	合計
評価割合 (%)	50	50	－	－	－	－	100
教科書	高橋邦泰『 整形外科学テキスト（改訂第4版）』南江堂，（2017年）5,300円 山下敏彦『 PT・OTのための画像のみかた（第2版）』金原出版，（2019年）3,700円						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	各講義の前後。						
履修上の 注意点	理解するには解剖学、特に筋・骨格系の解剖学の知識が必要である。講義ごとに簡単にはおさらいをするが、講義前に予習をすること。また、復習もしっかり行うこと。						

科目名	薬理学					理学療法科			
学年	2	分野	専門基礎	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	後期
評価 担当	桂木 猛			担当 教員	桂木 猛				
科目 概要	薬物治療とリハビリテーションは、相互に関連していることから、薬物に対する十分な知識を必要とする。将来理学療法士として、対象者が服用している薬物の的確な把握は、自らが進めるリハビリテーションに大きな影響を与えると予見できる。ここでは、理学療法を安全かつ確実に実践する能力を養うために必要な薬理学に関する知識を、人体の生理機能を復習しながら学んでいく。								
到達 目標	1. 薬物の投薬経路の差異、各種薬物の体内動態を説明できる。 2. 抗炎症薬、自律神経作用薬、中枢神経薬、抗高血圧薬などの作用機序、副作用を説明できる。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	総論 1 薬物治療		薬の基本的な役割を理解する				講義	桂木	
2	総論 2 薬物作用		薬理作用の基本的な考えを理解する				講義	桂木	
3	総論 3 薬物動態		薬物の体内での動態を理解する				講義	桂木	
4	総論 4 薬効・副作用		薬物の作用機序や副作用などを理解する				講義	桂木	
5	各論 1 抗アレルギー薬		抗アレルギー薬について理解する				講義	桂木	
6	各論 2 抗炎症薬		抗炎症薬の作用機序・副作用を理解する①				講義	桂木	
7	各論 3 抗炎症薬		抗炎症薬の作用機序・副作用を理解する②				講義	桂木	
8	各論 3 末梢神経薬		自律神経に作用する薬について理解する				講義	桂木	
9	各論 4 末梢神経薬		筋弛緩薬・局所麻酔薬について理解する				講義	桂木	
10	各論 5 抗高血圧薬		抗高血圧薬について理解する				講義	桂木	
11	各論 6 利尿薬		利尿薬について理解する				講義	桂木	
12	各論 7 抗凝固薬		抗凝固薬について理解する				講義	桂木	
13	各論 8 中枢神経作用薬		抗精神病薬・抗うつ薬などについて理解する				講義	桂木	
14	各論 9 ホルモン関連薬①		各種ホルモンに対する薬物について理解する①				講義	桂木	
15	各論 10 ホルモン関連薬②		各種ホルモンに対する薬物について理解する②				講義	桂木	
評価方法									
評価指標			中間試験	期末試験	－	－	－	－	合計
評価割合 (%)			50	50	－	－	－	－	100
教科書	吉岡充弘『系統看護学講座 専門基礎分野 3 薬理学（第 14 版）』医学書院，（2018 年）2300 円								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		各講義の前後。							
履修上の 注意点	人体の生体機能が基本となるので、1 年次に学習した生理学を復習すること。								

科目名	臨床心理学						理学療法科		
学年	2	分野	専門基礎	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	後期
評価 担当	平早水 希			担当 教員	平早水 希				
科目 概要	“心身一如” “心身相関”という言葉があるように、人間の心と身体は密接な関係があり、理学療法の対象者には、常に心身両面の配慮が必要である。本科目では、臨床心理学について学び、人間の心についての知識や理解を得る。								
到達 目標	1 臨床心理学の構造や歴史、基本理論についての知識を習得する。 2 心理臨床において用いられるアセスメント技法や介入方法についての知識を習得する。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	臨床心理学とは何か 1		構造と歴史				講義	平早水 希	
2	臨床心理学とは何か 2		基本理論				講義	平早水 希	
3	問題を理解する 1		アセスメントの目的と方法				講義	平早水 希	
4	問題を理解する 2		データの収集技法				講義	平早水 希	
5	問題を理解する 3		データの分析技法				講義	平早水 希	
6	問題を理解する 4		異常心理学				講義	平早水 希	
7	問題を理解する 5		ライフサイクルと心理学的問題				講義	平早水 希	
8	問題を理解する 6		発達過程で生じる障害や問題				講義	平早水 希	
9	問題に介入する 1		理論モデル				講義	平早水 希	
10	問題に介入する 2		個人への介入技法				講義	平早水 希	
11	問題に介入する 3		集団・社会への介入技法				講義	平早水 希	
12	問題に介入する 4		コミュニティにおける相談活動				講義	平早水 希	
13	臨床心理学研究		臨床心理学研究				講義	平早水 希	
14	社会的専門性		社会のなかでの臨床心理活動				講義	平早水 希	
15	まとめ		まとめと補足				講義	平早水 希	
評価方法									
評価指標			筆記試験	提出物・小テスト	出席・授業態度等状況				合計
評価割合 (%)			60	30	10				100
教科書	下山晴彦『よくわかる臨床心理学』ミネルヴァ書房, (2009 年) 3,000 円								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		講義前後を活用すること。							
履修上の 注意点	演習を中心とした授業のため、評価においては授業態度を重視する。								

科目名	臨床運動学Ⅰ					理学療法科			
学年	2 年	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	前期
評価 担当	田原 典嗣			担当 教員	田原 典嗣				
科目 概要	臨床運動学Ⅰでは、1年次の基礎運動学を元に動作分析、運動処方、運動学習に焦点を絞り、運動学Ⅰ・生理学・臨床心理学の復習を加えながら学習していく。 身体運動を生理的と心理的側面が関わる事を学術的に理解するために、最新の研究をも紹介しながら紹介していく予定である。								
到達 目標	1. 姿勢・動作のメカニズムが理解でき、書字にて表現することができる。 2. 体力に関わる、エネルギー代謝や酸素消費量などの運動生理学的側面を理解し、述べることができる。 3. 運動に関する心理面の理解、パフォーマンスと動機づけなどについて理解し、述べることができる。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	運動と動作の分析 1		運動分析に関わる用語 1・運動学Ⅰ復習				講義	田原	
2	運動と動作の分析 2		作業・動作の分析 1				講義	田原	
3	運動と動作の分析 3		作業・動作の分析 2（分析の実施 基本動作）				実技	田原	
4	運動と動作の分析 4		作業・動作の分析 3（分析の実施）				実技	田原	
5	運動と動作の分析 5		身体運動能力の検査 1				講義	田原	
6	運動と動作の分析 6		身体運動能力の検査 2（検査の実施）				講義	田原	
7	体力と運動処方 1		体力について・運動学Ⅰ・生理学の復習				講義	田原	
8	体力と運動処方 2		身体運動とエネルギー代謝				講義	田原	
9	体力と運動処方 3		運動処方（代表的疾患に対する）				実技	田原	
10	体力と運動処方 4		運動処方の実施・まとめ				講義	田原	
11	運動学習 1		学習と記憶・臨床心理学の復習				講義	田原	
12	運動学習 2		運動技能・学習の諸理論・臨床心理の復習				講義	田原	
13	運動学習 3		運動学習の諸理論				講義	田原	
14	運動学習 4		運動学習の神経生物学				講義	田原	
15	運動学習 5		練習と訓練				講義	田原	
評価方法									
評価指標		中間試験	期末試験	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)		50	50	-	-	-	-	100	
教科書	石井慎一郎『動作分析 臨床活用講座』メジカルビュー社，（2013 年）5,600 円								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		月曜から木曜日までの毎夕（16 時～18 時）							
履修上の 注意点	1. 学習した内容をしっかり予習をすること。 2. 教科書上だけでなく身体イメージをつけ、模倣など行い他者に説明できるように復習すること。 なお、上記の回数は補習も含む。								
専任教員の 実務経験	24 年間、病院やクリニックで理学療法を実施してきた経験があり、運動器・評価・バイオメカニクスに対する知識に精通している。								

科目名	理学療法評価学Ⅲ					理学療法科			
学年	2 年	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	前期
評価担当	仲濱 毅、中村 正恵			担当教員	仲濱 毅、中村 正恵				
科目概要	理学療法はまず対象者の様々な状態を把握することから始まる。このことを理学療法評価といい、情報収集・記録・統合と解釈の3つの要素から成り立つ。								
到達目標	1. 各検査法の目的・意義を理解する。 2. 各検査法の内容を理解する。 3. 各検査法を正常人に対し実施できる。								
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員		
1	徒手筋力テストの原理		段階づけシステム、段階を定める基準について患者がテストに及ぼす影響、臨床現場での応用			実技	仲濱、中村		
2	上肢の筋力テスト1		肩甲骨外転と上方回旋・肩甲骨挙上と内転肩甲骨内転と下制・肩甲骨内転と下方回旋及び下制			実技	仲濱、中村		
3	上肢の筋力テスト2		肩関節屈曲（前方挙上を含む）、肩関節伸展、肩関節外転、肩関節水平外転と水平内転			実技	仲濱、中村		
4	上肢の筋力テスト		肩関節外旋・内旋、肘関節屈曲と伸展、前腕回外・回外、手関節屈曲・伸展			実技	仲濱、中村		
5	上肢の筋力テスト4		指の中手指節関節屈曲、指の中手指節間関節および遠位指節関節の屈曲・伸展、指外転・内転母指			実技	仲濱、中村		
6	上肢の筋力テスト5		中手指節間関節および遠位間関節の屈曲・伸展母指外転・内転、対立運動			実技	仲濱、中村		
7	下肢の筋力テスト1		股関節屈曲・伸展			実技	仲濱、中村		
8	下肢の筋力テスト2		股関節外転・内転外旋・内旋			実技	仲濱、中村		
9	下肢の筋力テスト3		膝関節屈曲・伸展			実技	仲濱、中村		
10	下肢の筋力テスト4		足関節底屈・背屈内がえし・外がえし足指の屈曲・伸展			実技	仲濱、中村		
11	頸筋のテスト1		頸部伸展・複合伸展頸部屈曲・複合屈曲			実技	仲濱、中村		
12	頸筋のテスト2		頸部回旋体幹伸展・骨盤挙上			実技	仲濱、中村		
13	体幹筋と骨盤底テスト1		体幹屈曲・回旋			実技	仲濱、中村		
14	体幹筋と骨盤底テスト2		安静な吸気・強制呼気運動・骨盤底			実技	仲濱、中村		
15	後期末まとめ		全範囲まとめ			演習	仲濱、中村		
評価方法									
評価指標		中間試験	期末試験	小テスト	提出物	-	-	合計	
評価割合 (%)		40	40	10	10	-	-	100	
教科書	千住秀明『理学療法テキストⅡ 理学療法評価法（第3版）』神陵文庫，（2011年）4,500円 田崎義昭『ベッドサイドの神経の診かた（第18版）』南江堂，（2016年）7,200円								
教材・参考図書		その他適宜紹介する。							

オフィスアワー	月～金曜日の 14 : 00～18 : 00
履修上の 注意点	講義では専門用語が使用されているため、講義前に教科書を読んで予習をすること。また、講義後にノートと教科書を見比べて、しっかり復習をすること。 なお、上記の回数は補習も含む。

科目名	理学療法評価学Ⅳ					理学療法科			
学年	2	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	後期
評価 担当	重松 直人、田原 典嗣			担当 教員	重松 直人、田原 典嗣				
科目 概要	理学療法はまず対象者の様々な状態を把握することから始まる。このことを理学療法評価といい、情報収集・記録・統合と解釈の 3 つの要素から成り立つ。 本科目では、このうち情報収集法にあたる各検査法の知識および技術を修得するとともに、中枢神経障害と骨関節系の障害について、疾患別に評価の概要を学ぶ。								
到達 目標	1. 各検査法の目的・意義を理解する。 2. 各検査法の内容を理解する。 3. 各検査法を正常人に対し実施できる。 4. 疾患別に基本的な評価及び検査法について理解する。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	協調性検査 1		協調性運動とは				講義	重松、田原	
2	協調性検査 2		協調性検査の実際				講義	重松、田原	
3	高次脳機能検査 1		定義と概要				講義	重松、田原	
4	高次脳機能検査 2		評価の実際 ①				演習	重松、田原	
5	高次脳機能検査 3		評価の実際 ②、精神機能の概要と評価				演習	重松、田原	
6	意識障害		意識とは、程度分類				講義	重松、田原	
7	片麻痺機能検査 1		運動障害の特徴				講義	重松、田原	
8	片麻痺機能検査 2		Brunnstrom test ①				講義	重松、田原	
9	片麻痺機能検査 3		Brunnstrom test ②				実技	重松、田原	
10	片麻痺機能検査 4		Brunnstrom test ③				実技	重松、田原	
11	片麻痺機能検査 5		12 段階片麻痺機能検査				講義	重松、田原	
12	整形外科的検査 1		頸椎部、胸郭出口症候群				実技	重松、田原	
13	整形外科的検査 2		腰椎部、肩関節部				実技	重松、田原	
14	整形外科的検査 3		手、指、股関節				実技	重松、田原	
15	整形外科的検査 4		骨盤、膝				実技	重松、田原	
16	整形外科的検査 5		膝、足関節				実技	重松、田原	
17	電気検査 1		誘発筋電図				講義	重松、田原	
18	電気検査 2		強さ－時間曲線				講義	重松、田原	
19	痛み		痛みについて、痛み検査の一般的手順				講義	重松、田原	
20	骨関節系の障害 1		骨・関節疾患 ①				講義	重松、田原	
21			骨・関節疾患 ②				実技	重松、田原	
22	骨関節系の障害 2		腰痛症 ①				講義	重松、田原	
23			腰痛症 ②				実技	重松、田原	
24	骨関節系の障害 3		関節リウマチ ①				講義	重松、田原	
25			関節リウマチ ②				実技	重松、田原	

26	骨関節系の障害 4	末梢神経損傷 ①	講義	重松、田原			
27		末梢神経損傷 ②	実技	重松、田原			
28	骨関節系の障害 5	頸肩腕症候群 ①	講義	重松、田原			
29		頸肩腕症候群 ②	実技	重松、田原			
30	骨関節系の障害 6	切断	講義	重松、田原			
評価方法							
評価指標	前期試験	後期試験	小テスト	課題		-	合計
評価割合 (%)	40	40	10	10		-	100
教科書	千住秀明『理学療法テキストⅡ 理学療法評価法（第3版）』神陵文庫，（2011年）4,500円 田崎義昭『ベッドサイドの神経の診かた（第18版）』南山堂，（2016年）7,200円						
教材・参考図書	必要に応じて授業内で紹介する。						
オフィスアワー	各講義の前後。						
履修上の 注意点	講義では専門用語が使用されているため、講義前に教科書を読んで予習をすること。また、講義後にノートと教科書を見比べて、しっかり復習をすること。 なお、上記の回数は補習も含む。						

科目名		運動療法学Ⅱ					理学療法学Ⅱ		
学年	2	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	後期
評価 担当	大塚 和宏、山本 拓史			担当 教員	大塚 和宏、山本 拓史				
科目 概要	運動療法学Ⅱでは、運動療法Ⅰの発展として、科学的根拠に基づいた理学療法が実践できるために必要な病態及び障害の構造を理解し、対象者の状態を統合・解釈する認知スキルや実践的技能の獲得を目的とする。その中でも神経筋疾患、脊髄損傷に着目し、疾患の理解と対応を学習していく。								
到達 目標	1. 運動療法Ⅰの発展として、疾患別、障害別の病態を知り、各病態に適した運動療法を理解する。 2. 神経筋疾患、脊髄損傷の運動療法を実技も交えて理解する。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	神経疾患の運動療法 1		パーキンソン病の概念と病態の理解及び運動療法の実際				講義	大塚	
2	神経疾患の運動療法 2		脊髄小脳変性症の概念と病態の理解及び運動療法の実際				講義	大塚	
3	神経疾患の運動療法 3		筋萎縮性側索硬化症の概念と病態の理解及び運動療法の実際				講義	大塚	
4	神経疾患の運動療法 4		多発性硬化症の概念と病態の理解及び運動療法の実際				講義	大塚	
5	神経疾患の運動療法 5		ギラン・バレーの概念と病態の理解及び運動療法の実際				講義	大塚	
6	神経疾患の運動療法 6		筋ジストロフィーの概念と病態の理解及び運動療法の実際				講義	大塚	
7	脊髄の解剖		脊髄と脊髄節、脊髄損傷の原因・死亡率と死因				講義	山本	
8	理学療法評価 1		障害評価と評価とは				講義	山本	
9	理学療法評価 2		情報収集と評価項目				講義	山本	
10	理学療法評価 3		高位診断と高位診断の臨床応用				講義	山本	
11	理学療法評価 4		脊髄不全損傷の特殊型と脊髄完全損傷				講義	山本	
12	理学療法評価 5		自律神経障害・痙性麻痺(痙性の評価と治療)				講義	山本	
13	理学療法治療指導		急性期から回復期までの理学療法				講義	山本	
14	排尿・尿路・性機能障害		排尿の整理、尿路管理、脊髄損傷者の性機能				講義	山本	
15	脊髄損傷とスポーツ、総括		障害区分、主なスポーツ種目、まとめ				講義	山本	
評価方法									
評価指標		中間試験	期末試験	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)		50	50	-	-	-	-	100	
教科書	潮見泰蔵『ビジュアル実践リハ 脳・神経系リハビリテーション』羊土社, (2012 年) 5700 円 鈴木 俊明、中山 恭秀『Crosslink 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ 脳血管障害、頭部外傷、脊髄損傷』メジカルビュー社, (2019 年) 4,000 円								
教材・参考図書		その他適宜紹介する。							
オフィスアワー		各講義の前後に質問を受ける。							
履修上の 注意点	1. 解剖学に基づいた疾患別の理学療法となるため、1 年時に履修した解剖額を十分に復習しておくこと。 2. 生理学の知識をもとに脊髄損傷について学習していくため、十分に予習をすること。								

科目名	理学療法技術論Ⅰ						理学療法科		
学年	2	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	後期
評価 担当	藤井 和彦				担当 教員	藤井 和彦			
科目 概要	専門基礎科目において、対象者の健康状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践するために、学習した運動器疾患の病態や評価法、リスク管理についての知識を統合し、運動器疾患の理学療法を実践するための理療理論を学習する。								
到達 目標	1. 運動器疾患の評価法を理解し述べることができる。 2. 運動器疾患に対する理学療法の治療介入方法を理解する。 3. 運動器疾患の理学療法に際しリスク管理法を理解する。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	運動器疾患の概要			運動器疾患の評価法と理学療法アプローチ			講義	藤井	
2	肩関節疾患			脱臼、上腕骨近位端・骨幹部骨折、腱板断裂			講義	藤井	
3	肩関節疾患			周囲炎、RSD、腕神経叢麻痺			講義	藤井	
4	肘関節疾患			脱臼、上腕骨顆上・外顆・内側上顆骨折、前腕骨幹部骨折			講義	藤井	
5	肘関節疾患			肘内障、上腕骨外側上顆炎、OA、フォルクマン拘縮			講義	藤井	
6	手関節疾患			コーレス骨折、手指の骨折、腱断裂			講義	藤井	
7	上肢に関する理学療法			肩、肘、手関節に関する運動器疾患に関する理学療法			演習	藤井	
8	脊髄損傷と体幹外傷			脊髄損傷の概要、肋骨・鎖骨・骨盤骨折			講義	藤井	
9	頸、胸、腰部周辺疾患			頸肩腕症候群、脊椎疾患、腰痛症			講義	藤井	
10	股関節疾患			大腿骨頸部骨折、OA、大腿骨頭壊死、先股脱、ペルテス病			講義	藤井	
11	膝関節疾患			大腿骨骨幹部骨折、膝蓋骨骨折、OA、半月板・靱帯損傷			講義	藤井	
12	下腿部疾患			オスグット病、下腿骨骨折、コンパートメント症候群			講義	藤井	
13	足関節疾患			アキレス腱断裂、靱帯損傷、骨折			講義	藤井	
14	スポーツ外傷、末梢神経損傷			スポーツ障害、代表的ななっ粧神経損傷、骨粗鬆症			演習	藤井	
15	総合統括			本教科で学んだことの総括実施			演習	藤井	
評価方法									
評価指標			定期試験	小テスト	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)			80	20	-	-	-	-	100
教科書	中山彰一『理学療法テキストⅦ 運動器疾患の理学療法』神陵文庫，（2008 年）4,500 円 山下敏彦『PT・OTのための画像のみかた』金原出版，3,700 円 千住秀明『理学療法テキストⅡ 理学療法評価法』神陵文庫，4,500 円								
教材・参考図書		その他適宜紹介する。							
オフィスアワー		毎週木曜日の 8:50～12:00							
履修上の 注意点	講義に際しては事例を多用し、問題提起を促すことにより、能動的かつ積極的な思考を引き出す。よって、生徒には多くの失敗を経験することを期待する。								

科目名	理学療法技術論Ⅱ					理学療法科			
学年	2	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	前期・後期
評価 担当	中村 正恵			担当 教員	中村 正恵				
科目 概要	脳卒中リハビリテーションは、理学療法士にとって重要な領域であり、大きな役割を担っている。本講義では、主に脳出血や脳梗塞を中心とした脳血管障害に焦点を当て、1 年次に学習した解剖学や生理学の知識を基に、中枢神経系の機能や構造、階層性など基礎的な部分から、脳血管障害の病態や評価法、病理学的異常や臨床症状、リハビリテーションの進め方など、急性期から維持期までの各病期における特徴を踏まえて学ぶ。更に、中枢神経系の発達障害の中でも特に脳性麻痺に焦点を当て、脳性麻痺に対する理学療法の専門的知識や実践的技能を段階的に習得する。科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践できる能力を身に付けることを目的とする。								
到達 目標	1. 中枢神経系の機能や構造について理解し、説明が出来る。 2. 脳血管障害の病態や評価法、臨床症状について理解し、説明が出来る。 3. 脳血管障害の各病期におけるリハビリテーションの進め方を理解し、説明が出来る。 4. 脳性麻痺の障害や評価、リハビリテーションの進め方を理解し、説明が出来る。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	中枢神経系の機能・構造①		脳の機能と構造（大脳、小脳、間脳、脳幹）				講義	中村	
2	中枢神経系の機能・構造②		脳の栄養血管と支配領域、局所神経症状				講義	中村	
3	脳卒中総論①		脳血管障害の分類、臨床診断、全身状態の管理、二次的合併症（拘縮と異所性骨化、肩手症候群、起立性低血圧、肩関節亜脱臼）				講義	中村	
4	脳卒中総論②		神経徴候、重症度、臨床経過、病理学的病態と病因				講義	中村	
5	臨床症状と分類		麻痺の種類、分布様式・病巣別による分類と症状				講義	中村	
6	高次脳機能障害		失認、失行、失語症、その他の高次脳機能障害				講義	中村	
7	神経障害学①		中枢神経系の階層性と障害構造、中枢性麻痺の特徴、回復モデル、運動機能回復段階（Burnnstrom Stage）と連合反応、共同運動				講義	中村	
8	神経障害学②		局所障害後の代償・回復過程、再組織化、運動学習と大脳皮質の可塑性				講義	中村	
9	脳卒中障害学①		障害の構造と運動麻痺・感覚障害、機能回復のメカニズム				講義	中村	
10	脳卒中障害学②		急性期・回復期・維持期の障害の特徴、リハビリテーションの目的と進め方				講義	中村	
11	発達障害①		脳性麻痺（痙直型両麻痺）の運動障害、評価と治療計画				講義	中村	
12	発達障害②		脳性麻痺（アテトーゼ型）の運動障害、評価と治療計画				講義	中村	
13	発達障害③		脳性麻痺（痙直型片麻痺）の運動障害、評価と治療計画				講義	中村	
14	発達障害の評価		運動発達検査の概要、粗大運動能力分類システム（GMFCS）				講義	中村	
15	脳卒中・発達障害学総論		最近の治療の傾向、病態の捉え方				講義	中村	
評価方法									
評価指標		中間試験	期末試験	小テスト	演習への取り組み	－	－	合計	

評価割合 (%)		40	40	10	10	-	-	100
教科書	鈴木 俊明、中山 恭秀『Crosslink 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ 脳血管障害，頭部外傷，脊髄損傷』メジカルビュー社，（2019 年）4,000 円							
教材・参考図書	適宜、資料を配布する。							
オフィスアワー	火曜日、金曜日 16：00～17：00							
履修上の 注意点	・1 年次に学んだ解剖学、生理学、運動学の知識が必要となる。事前に復習しておく事。 ・各授業の確認問題や演習課題を適宜提示するので、積極的に取り組むことが望まれる。							

科目名	理学療法技術論Ⅲ					理学療法科				
学年	2 年	分野	専門	単位数	1 単位		時間数	30 時間	期間	後期
評価 担当	深堀 辰彦			担当 教員	深堀 辰彦					
科目 概要	理学療法技術論Ⅲでは、主に循環器、呼吸器、代謝性疾患など、超高齢社会の日本ではなくてはならない分野を行う。現在は、心臓や呼吸器に問題があるといった器質的疾患を合併する運動器疾患患者や脳血管疾患患者も増加しており、疾患の重症度を正確に把握することが求められる。この科目では、理学療法の効果を対象者の健康状態に応じて、最大限引き出せるように科学的根拠に基づいた専門知識・実践的技能を段階的に修得する。									
到達 目標	1. 虚血性心疾患の病態を理解し、リスク管理を踏まえた上で理学療法プログラムを作成することができる。 2. 代謝性疾患の病態を理解し、リスク管理を踏まえた上で理学療法プログラムを作成することができる。 3. 呼吸器疾患の成因・症状を理解し、適切な評価を選択し理学療法プログラムを作成することができる。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	心臓リハビリテーションの概要			心臓リハビリテーションの歴史、目的、効果、対象疾患および循環機能障害				講義	坂口	
2	虚血性心疾患の理学療法 1			心臓の機能解剖、虚血性心疾患、動脈硬化症				講義	坂口	
3	虚血性心疾患の理学療法 2			心筋梗塞、狭心症の病態生理				講義	坂口	
4	虚血性心疾患の理学療法 3			虚血性心疾患の医学的管理、虚血性心疾患の理学療法				講義	坂口	
5	心不全の理学療法 1			心不全の分類、心不全の病態生理①				講義	坂口	
6	心不全の理学療法 2			左心不全の病態生理②				講義	坂口	
7	心不全の理学療法 3			心不全の理学療法				講義	坂口	
8	大動脈疾患の理学療法 1			大動脈瘤・大動脈解離の分類・検査・治療				講義	坂口	
9	大動脈疾患の理学療法 2			大動脈瘤・大動脈解離の理学療法				講義	坂口	
10	運動処方			運動負荷試験、Borg スケール、6 分間歩行試験、運動処方作成				講義	坂口	
11	リスク管理 1			不整脈と心電図 1				講義	坂口	
12	リスク管理 2			不整脈と心電図 2				講義	坂口	
13	代謝性疾患の理学療法			糖尿病の病態生理				講義	坂口	
14	代謝性疾患の理学療法			糖尿病の病態生理				講義	坂口	
15	まとめ			まとめ				講義	坂口	
16	呼吸リハビリテーションの概要、			呼吸リハビリテーションの歴史、目的、効果、対象疾患				講義	深堀	
17	呼吸器の構造と呼吸調節機能			呼吸器の解剖、肺循環、呼吸筋				講義	深堀	

18	呼吸器機能評価の意義と方法 1	スパイログラム、最大呼気努力曲線、フローボリューム曲線、換気障害、肺活量の測定	講義	深堀				
19	呼吸器機能評価の意義と方法 2	聴診、運動負荷試験	演習	深堀				
20	呼吸器機能評価の意義と方法 3	血液ガスと呼吸機能、pH の意味	講義	深堀				
21	呼吸器疾患 1	慢性閉塞性肺疾患の病態生理	講義	深堀				
22	呼吸器疾患 2	慢性閉塞性肺疾患の画像所見・理学療法	講義	深堀				
23	呼吸器疾患 3	気管支喘息、肺水腫、間質性肺炎、睡眠時無呼吸症候群、その他	講義	深堀				
24	排痰法、気道内分泌物吸引法	体位排痰法、ハフティング、吸引の実際	講義	深堀				
25	人工呼吸管理、	人工呼吸管理の役割と理学療法、	講義	深堀				
26	包括的呼吸リハビリテーション、在宅酸素療法	禁煙・栄養・服薬、在宅酸素療法の目的	講義	深堀				
27	胸郭可動域練習、徒手の介助呼吸法	胸郭可動域練習、徒手の介助呼吸法	演習	深堀				
28	総括	呼吸リハビリテーション総括	演習	深堀				
29	がんのリハビリテーションの概要	がんのリハビリテーションの目的、分類	演習	深堀				
30	がんのリハビリテーションの実際	理学療法の実際、リンパ浮腫	講義	深堀				
評価方法								
評価指標		中間試験	期末試験	小テスト	－	－	－	合計
評価割合 (%)		40	40	20	－	－	－	100
教科書	高橋哲也『内部障害理学療法学（第2版）』医歯薬出版株式会社，（2017年）4,800円 山下敏彦『PT・OTのための画像のみかた』金原出版，（2019年）3,700円							
教材・参考図書		適宜紹介する。						
オフィスアワー		坂口：水・金曜日の14：00～17：00（その他は講義後に確認すること） 深堀：火～金曜日の14：00～18：00						
履修上の 注意点	各講義後の復習を勧める。							

科目名	物理療法学					理学療法科			
学年	2 年	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	前期
評価 担当	山本 拓史			担当 教員	山本 拓史				
科目 概要	我が国における物理療法の位置づけは「理学療法士法及び作業療法士法」の中にある定義として「主としてその基本動作能力の回復を図るため、治療体操その他の運動を行わせ、電気刺激、マッサージ、温熱その他の物理的手段を加えることをいう」と明記されているように、理学療法の治療過程の中では運動療法と同様、物理療法も大きな中核を担っている。 熱、電気、光などの物理的エネルギーを人体に用いて効果を得る治療法であり、機器を用いて鎮痛、身体的、精神的リラクセーション、循環の改善などが目的としている。各種物理療法機器の種類を学び、実際に起こる生体への影響を知った上で、対象者の状態に応じた正しい機器の使用方法やリスク管理について講義や実技を通して理解する。								
到達 目標	1. 理学療法において物理療法の位置づけと意義を理解する。 2. 各種物理療法機器の原理と生体への影響を理解する。 3. 各種疾患に対して、適切な物理療法機器が選択でき、正しい使用ができるようになる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	オリエンテーション 各種機器の紹介			物理療法の定義、意義、各種物理療法機器の紹介			講義	山本	
2	炎症・浮腫・疼痛			グループワーク：炎症・浮腫・疼痛の定義・機序について討論			講義	山本	
3	温熱療法総論			熱生理学 温熱療法の定義・分類・基礎及び生理学的作用			講義	山本	
4	温熱療法各論			ホットパック、パラフィン、極超短波、超音波の適応・禁忌・生理学的作用			講義	山本	
5	温熱療法実技			温熱療法各種機器の説明、実技指導			実技	山本	
6	寒冷療法総論			クリッカー、アイスパック、アイスマッサージの適応・禁忌・生理学的作用			講義	山本	
7	水治療法総論			水治療法 交代浴、過流浴の適応・禁忌・生理学的作用			講義	山本	
8	牽引療法			頸椎・腰椎牽引の基礎の適応・禁忌・説明、実技指導 生理学的作用			講義	山本	
9	電機療法総論			電機療法の基礎、身体に及ぼす影響についての説明 FES、TES、TENS の違い			講義	山本	
10	電機療法各論			低周波、干渉波の適応・禁忌・生理学的作用、電気診断および筋電図バイオフィードバックについて			講義	山本	
11	電機療法実技			各種機器に関する使用方法			実技	山本	
12	光線療法総論			光線療法の基礎、身体に及ぼす影響についての説明			講義	山本	
13	光線療法各論			紫外線と赤外線、レーザーの基礎、適応・禁忌・生理学的作用			講義	山本	
14	光線療法実技			各種機器に関する使用方法、適応疾患や禁忌の確認			実技	山本	
15	リスク管理			医療安全についての理解及び医療事故の事例を提示しての説明			講義	山本	
評価方法									
評価指標		筆記試験	小テスト	出席・提出物等	-	-	-	合計	

評価割合 (%)		60	20	20	-	-	-	100
教科書	奈良 勲『標準理学療法学 物理療法学（第5版）』医学書院，（2020年）4800円							
教材・参考図書	大地陸男『生理学テキスト（第8版）』文光堂，（2017年）5000円							
オフィスアワー	火曜日の14時～15時（その他は講義後に確認すること）							
履修上の 注意点	講義に際しては事例を多用し、問題提起を促すことにより、能動的かつ積極的な思考を引き出す。よって、生徒には多くの失敗を経験することを期待する。各物理療法が引き起こす身体への影響については事前に生理学を学習しておくこと。 実技に関しては事前に機器に関する知識や方法についてイメージを常に持って集中して臨むこと。 なお、上記の回数は補講も含む。							
専任教員の 実務経験	17年間病院やクリニックで理学療法に携わってきた経験があり、特に物理療法に対する知識に精通している。							

科目名	日常生活活動学					理学療法科			
学年	2 年	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	前期
評価 担当	深堀 辰彦			担当 教員	深堀 辰彦				
科目 概要	人の生活は、留まることなく 24 時間、365 日心身ともに常に変化するものである。また。その生活は環境によって影響を受ける。理学療法士は、疾患や身体的な側面からだけでなく、日常生活場面から問題点を把握する視点を養うことが重要である。 本講義では、日常生活活動における関わりを知り、対象者に合わせた日常生活動作指導を行う為の基礎を学ぶ。また、ADL と QOL の相互関係を明確にし、そのうえで各疾患別の一般的な特徴と ADL 及び QOL のあり方を熟考し、各疾患に合わせた生活指導を学ぶと同時に、基礎的な部分のみならず専門的知識の定着化を図る。								
到達 目標	1. 日常生活活動の定義や概念を理解し、説明できるようになる。 2. 代表的な ADL 評価方法を理解し、説明できるようになる。 3. 代表的な自助具や福祉機器について理解する。 4. 理学療法士の役割と視点から、基本的動作・日常生活活動の臨床観察ポイントを把握する。 5. 日常生活活動の基礎的な知識を踏まえ、各疾患別特有の身体機能及び日常生活活動を理解する。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	ADL の概念と範囲		リハビリテーションにおける ADL の位置づけ、ADL ・ QOL ・ IL 運動の概念				講義	深堀	
2	日常生活の評価 1		ADL 評価の目的及び留意点、日常生活活動評価				講義	深堀	
3	日常生活の評価 2		BI、FIM				講義	深堀	
4	基本動作 1		基本動作の定義、分類				講義	深堀	
5	基本動作 2		基本動作の実際				演習	深堀	
6	基本動作 3		基本動作の実際				講義	深堀	
7	複合動作指導 1		一本杖動作、松葉杖動作、車椅子介助				講義	深堀	
8	複合動作指導 2		一本杖動作・松葉杖動作・車椅子介助の実際				演習	深堀	
9	リハビリテーション支援機器		福祉機器と福祉用具、移動補助具				講義	深堀	
10	中枢神経・神経筋疾患 1		片麻痺患者の特徴				講義	深堀	
11	中枢神経・神経筋疾患 2		片麻痺患者の ADL の実際 1				演習	深堀	
12	中枢神経・神経筋疾患 3		パーキンソン病、頭部外傷				講義	深堀	
13	骨関節疾患		切断、関節リウマチ、腰痛症				講義	深堀	
14	その他障害		糖尿病・五感障害患者の ADL				講義	深堀	
15	老年期障害		高齢者の障害と ADL を理解する。				講義	深堀	
評価方法									
評価指標		中間試験	期末試験	小テスト					合計
評価割合 (%)		40	40	20					100
教科書	橋元隆『理学療法テキストⅤ 日常生活活動（ADL）（第 2 版）』神陵文庫，（2007 年）4500 円								
教材・参考図書		その他適宜紹介する。							
オフィスアワー		各講義の前後を活用すること。							
履修上の 注意点	本講義を通して、生活の中でどのように身体を動かしているのかを思考する習慣を身につけること。 各講義後の復習を勧める。								

担当教員の 実務経験	12 年間病院やクリニックで理学療法を行ってきた臨床経験があり、日常生活場面での評価や関わりに精通している。
-----------------------	--

科目名	ADL 実践演習						理学療法科		
学年	2	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	前期
評価 担当	中村 正恵、坂口 文宏				担当 教員	中村 正恵、坂口 文宏			
科目 概要	臨床実習に向けた準備を行い、見学実習Ⅱ（ADL）に備えるための知識・技術を身につける。姿勢と動作の基礎知識、起居・移動・移乗・段差・階段・歩行など日常生活動作を理解し、その介助法を学ぶ。また、高齢者や身体不自由者の身体的特性を考慮し、対象者に対して適切な動作指導や介助技術を習得する。								
到達 目標	1. 何を目的とした実習かを理解し、適切な態度や接遇を身につけることができる。 2. 各疾患や高齢者に対する介助方法を模倣することができる。 3. 車椅子や歩行補助具の特性を理解し安全に操作できる。 4. 対象者に対して日常生活における適切な動作指導を行える。								
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員
1	臨床実習に向けて 1			見学実習Ⅱ（ADL）の意味、実習の目的				講義	中村、坂口
2	臨床実習に向けて 2			姿勢や動作の基本知識				講義	中村、坂口
3	リハビリテーション支援機器			福祉機器と福祉用具、自助具等の確認				実技	中村、坂口
4	臨床実習演習 1			高齢者の ADL①				実技・講義	中村、坂口
5	臨床実習演習 2			高齢者の ADL②				実技・講義	中村、坂口
6	臨床実習演習 3			起居動作の理解と介助法				実技	中村、坂口
7	臨床実習演習 4			立ち上がり・移乗動作の理解と介助法 車椅子操作方法				演習	中村、坂口
8	臨床実習演習 5			実技（車椅子、歩行、階段昇降介助）				実技	中村、坂口
9	臨床実習演習 6			入浴、清拭、整容等の介助法				実技	中村、坂口
10	臨床実習演習まとめ			日常生活動作の介助指導				実技	中村、坂口
11	臨床実習演習まとめ			実技まとめ				演習	中村、坂口
12	臨床実習対策			見学実習Ⅱ（ADL）直前指導				講義	中村、坂口
13	臨床実習まとめ 1			見学実習Ⅱ（ADL）提出書類整理、反省				講義	中村、坂口
14	臨床実習まとめ 2			見学実習Ⅱ（ADL）に関するグループワーク、発表 1				演習	中村、坂口
15	臨床実習まとめ 3			見学実習Ⅱ（ADL）に関するグループワーク、発表 2				演習	中村、坂口
評価方法									
評価指標		実技試験		出席・発表等					
評価割合 (%)		60		40					
教科書	必要プリントを適宜配布する。								
教材・参考図書	橋元隆『理学療法テキストⅤ 日常生活活動（ADL）（第 2 版）』神陵文庫，（2007 年）4, 500 円								
オフィスアワー	授業前後を活用すること								
履修上の 注意点	1. 学習形態は、一斉指導等とする。								

科目名	義肢装具学					理学療法科			
学年	2 年	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	後期
評価 担当	重松 直人、久保田 勝徳			担当 教員	重松 直人、久保田 勝徳				
科目 概要	本講義では、義肢装具学の中からまず装具に焦点を当て、理学療法士として装具を用いて適切なアプローチが出来るようになるために、装具の目的、構造、処方、適合判定の専門的知識や実践を段階的に習得するための基礎を学ぶ。次いで義肢・義足に焦点を当て、理学療法士として義肢・義足を用いて適切なアプローチが出来るようになるために、義肢・義足の目的、構造、処方、適合判定の専門的知識や実践を段階的に習得するための基礎を学ぶ。また、臨床場面において装具の適応となる代表的な疾患について理解し、適切な装具が選択できるように学ぶ。								
到達 目標	1. 装具の目的、構造、種類の概略を説明できる。 2. 装具の適合状態とアライメントのチェック方法について具体的に説明することができる。 3. 義肢・義足の適合状態とアライメントのチェック方法について具体的に説明することができる。 4. 臨床に即した装具の適応となる疾患について理解し、適切な義肢装具の選択ができる。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	装具総論		障害と装具、装具の制作と材料、チームアプローチと専門職の役割				講義	重松	
2	下肢装具 1		下肢装具の種類と名称、構成要素、股継手・膝継手・足継手の基礎、調整や種類				講義	重松	
3	下肢装具 2		長・短下肢装具各論、膝装具・免荷装具				講義	重松	
4	上肢装具 1		手の構造、アライメントと機能・肩・肘装具、手・指装具				講義	重松	
5	装具まとめ		上下肢装具まとめ				講義	久保田、重松	
6	装具の実際		生活場面における装具の活用、疾患別装具とその適応				講義	久保田、重松	
7	靴・靴底の補正		足の構造と機能、足底装具、靴の補正				講義	重松	
8	体幹装具		頸椎装具、胸腰仙椎装具、側弯症装具				演習	重松	
9	義肢総論		義肢・義足の処方、切断者の動向、切断手技と断端管理、合併症				講義	重松	
10	義足 1		下腿義足ソケットの種類、機能、荷重・牽引方法				講義	重松	
11	義足 2		下腿義足のアライメント・異常歩行、大腿義足ソケットの種類、機能				講義	重松	
12	義足 3		大腿義足ソケットの荷重・牽引方法、ベンチアライメント、スタティックアライメント、ダイナミックアライメント、異常歩行				講義	重松	
13	義足装着練習の実際		股関節離断・片側骨盤切断・大腿切断・膝関節離断・下腿切断・両側下肢切断とその演習				講義	久保田、重松	
14	小児切断、義手		小児切断と理学療法、能動・筋電義手の種類・適応				講義	重松	
15	その他の装具、まとめ		脊髄損傷疾患の装具とその適応、糖尿病・リウマチ・その他の足部変形の装具とその適応				講義	久保田、重松	
評価方法									
評価指標		前期試験	後期試験	レポート	小テスト	－	－	合計	
評価割合 (%)		35	35	20	10	－	－	100	
教科書	伊藤利之『義肢装具のチェックポイント（第8版）』医学書院，（2014年）7,600円								

教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	火曜日の 14 : 00～15 : 00
履修上の 注意点	1. 義肢装具学は、解剖学、生理学、運動学、一般臨床医学各論の知識が必要である。 2. 1 年次に履修した基礎科目を見直し、予習復習を行うこと。
担当教員の 実務経験	15 年間病院やクリニックで理学療法を行ってきた臨床経験があり、義肢や装具に対する知識に精通している。

科目名	生活環境論					理学療法科			
学年	2	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	前期・後期
評価 担当	田中 和範			担当 教員	田中 和範				
科目 概要	生活環境論では、理学療法士として専門的な視点で、対象者を取り巻く生活環境をどのように捉えるのか、またどのように考えるのかを学ぶ。 理学療法では対象者に合わせた生活環境を設定するため、福祉用具・住環境整備に精通していることが求められる。本科目では、事例を通して理学療法士として求められる提案までの思考プロセスの一部を学習することも目的とする。								
到達 目標	1. 生活環境の概念と障害児・者や高齢者に関連する法制度に関して理解する。 2. 代表的な自助具や福祉機器について理解し、住環境整備に関する基礎知識が説明できる。 3. 地域環境も含めた生活環境整備における理学療法士の役割を学び、対象者の特徴に応じた福祉機器選定・環境整備を提案し、自己の意見を述べられるようになる。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	総論		生活環境論とは				講義	田中	
2	生活環境整備の留意点 1		肢体不自由、内部障害				講義	田中	
3	生活環境整備の留意点 2		感覚機能障害、高次脳機能障害				講義	田中	
4	生活環境整備の留意点 3		進行性疾患、認知症				講義	田中	
5	ROM と日常生活活動 1		ROM 障害と ADL 評価における考え方				講義	田中	
6	ROM と日常生活活動 2		上肢の ROM と ADL				講義	田中	
7	ROM と日常生活活動 3		下肢の ROM と ADL				講義	田中	
8	ROM と日常生活活動 4		普段の活動性と ROM				講義	田中	
9	バリアフリーの関連諸制度 1		障害者施策の展開とバリアフリー対策とハートビル法				講義	田中	
10	バリアフリーの関連諸制度 2		交通バリアフリー法、バリアフリーデザインとユニバーサルデザイン				講義	田中	
11	住環境についての考え方 1		住環境整備の意義、住環境整備の流れと注意点				講義	田中	
12	住環境についての考え方 2		住環境整備対策 1				講義	田中	
13	住環境についての考え方 3		住環境整備対策 2				講義	田中	
14	住環境についての考え方 4		住環境整備対策 3				講義	田中	
15	住環境についての諸制度 1		住まいに関する制度				講義	田中	
16	住環境についての諸制度 2		建築基準法とは、住まいづくりの融資				講義	田中	
17	福祉用具について 1		福祉用具の種類と機能 1				講義	田中	
18	福祉用具について 2		福祉用具の種類と機能 2				講義	田中	
19	福祉用具について 3		福祉用具の種類と機能 3				講義	田中	
20	福祉用具について 4		福祉用具の種類と機能 4				講義	田中	
21	福祉用具について 5		福祉用具に関する法律				講義	田中	
22	福祉用具について 6		福祉用具に関する制度				講義	田中	
23	障害別住宅改造例 1		脳卒中				講義	田中	

24	障害別住宅改造例 2	脊髄損傷	講義	田中
25	障害別住宅改造例 3	慢性関節リウマチ	講義	田中
26	障害別住宅改造例 4	進行性疾患	講義	田中
27	障害別住宅改造例 5	認知症	講義	田中
28	関連領域との連携 1	介護保険下における理学療法士の役割と問題点	講義	田中
29	関連領域との連携 2	住宅改修における関連領域との連携 1	講義	田中
30	関連領域との連携 3	住宅改修における関連領域との連携 2	講義	田中
評価方法				
評価指標	中間試験	期末試験	レポート	合計
評価割合 (%)	40	40	20	100
教科書	千住秀明『理学療法テキストX 生活環境論（第1版）』神陵文庫，（2006年）4,500円			
教材・参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日の14:00～15:00			
履修上の 注意点	講義中のスマートフォンの使用を禁止する。			

科目名	見学実習Ⅱ（ADL）						理学療法科		
学年	2 年	分野	専門	単位数	1 単位 (全 22 単位)	時間数	40 時間 (全 880 時間)	期間	2 学期
評価 担当	中村 正恵、坂口 文宏				担当 教員	中村 正恵、坂口 文宏			
科目 概要	見学実習Ⅱは、3 年時から始まる臨床実習への導入部と位置づけ、介護支援を実体験することにより施設利用者の ADL を中心とした活動制限の実態を把握する。そこから、応用的動作と基本的動作の関係及び活動制限と機能障害の関係について考えることを促す。 また態度、話し方などをはじめとする情意領域での気づきも本実習における重要な目的としている。								
到達 目標	1. 身体障害者の介護支援を通して、活動制限の実態を把握する。 2. 同一疾患でも、機能障害の違いにより活動制限が異なることを学ぶ。 3. 介助が必要な応用的動作に必要な基本的動作について考える。 4. 介助が必要な基本的動作の原因（機能障害）について考える。 5. 生活期の理学療法について概要を学ぶ。 6. 実習生としての基本的態度について学ぶ。								
講義計画・講義内容									
1. 実習は同一の臨床実習施設において 4 日間行われる。 2. 内容は、各施設における実習指導者の指導・監督の下、対象者との交流を通して基本動作の理解を深める。その際は、対象者の抱える苦悩に傾聴し、共感するような姿勢を学ぶ必要がある。 3. 学内においては実習終了後に実習報告会（発表）を行う。									
評価方法									
評価指標		学内評価	-	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)		100	-	-	-	-	-	-	100
教科書	椿原彰夫『PT・OT・ST・ナースを目指す人のための リハビリテーション総論（第 3 版）』診断と治療社，3,600 円								
教材・参考図書		配布した全ての教科書・参考書							
オフィスアワー		各指導教員に適宜確認すること。							
履修上の 注意点	1. 各実習施設に応じて準備すること。 2. 実習においては、施設の環境整備など積極的に参加すること。								

No.	科目名	単位数	時間
1	保健医療福祉概論Ⅰ	1単位	30時間
2	理学療法管理学Ⅰ	1単位	30時間
3	理学療法実践論Ⅰ	2単位	60時間
4	理学療法実践論Ⅱ	2単位	60時間
5	総合臨床実習Ⅰ	4単位	160時間
6	総合臨床実習Ⅱ	8単位	320時間
7	総合臨床実習Ⅲ	8単位	320時間

科目名	保健医療福祉概論Ⅰ						理学療法科		
学年	3	分野	専門基礎	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	前期・後期
評価 担当	田中 和範			担当 教員	田中 和範				
科目 概要	理学療法は、元来治療法であり医学的リハビリテーションの中に位置づけられ、活躍現場は病院（医療現場）が主であった。しかし、今日に至っては、急性期・回復期のみならず、生活期（福祉領域）に領域は拡大され、さらに、予防の観点から保健領域にまで職域は広がりつつある。 本講義では、社会と医療・保健・福祉との関係について学び、また、それらの領域の各専門職の役割を把握し、多職種連携のしくみと重要性を学ぶ。								
到達 目標	1. 社会福祉とその分野が理解できる。 2. 社会福祉サービスの提供主体と社会福祉の援助方法が理解できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	社会福祉とその分野 1			社会福祉とは			講義	田中	
2	社会福祉とその分野 2			社会福祉の歴史、制度、組織			講義	田中	
3	社会福祉とその分野 3			子ども・障害者・高齢者福祉			講義	田中	
4	社会福祉とその分野 4			介護保険制度と専門職の役割			講義	田中	
5	社会福祉とその分野 5			低所得者福祉			講義	田中	
6	社会福祉とその分野 6			地域福祉とその推進方法			講義	田中	
7	社会福祉とその分野 7			医療福祉			講義	田中	
8	社会福祉とその分野 8			精神保健福祉			講義	田中	
9	社会福祉の援助方法 1			社会福祉施設の役割			講義	田中	
10	社会福祉の援助方法 2			社会福祉を担う人々			講義	田中	
11	社会福祉の援助方法 3			相談援助の目的と方法			講義	田中	
12	社会福祉の援助方法 4			医療 SW と多職種連携			講義	田中	
13	社会福祉の援助方法 5			今後の課題とコメディカルに期待される役割			講義	田中	
14	理学療法領域の研究 1			研究とは何か			講義	田中	
15	理学療法領域の研究 2			研究方法論			講義	田中	
評価方法									
評価指標		筆記試験		授業態度・提出物等		-	-	-	合計
評価割合 (%)		80		20		-	-	-	100
教科書	石川 朗『理学療法管理学』中山書店，（2020 年）2,600 円								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		火曜日の 14:00～17:00（その他は講義後に確認すること）							
履修上の 注意点	課題の提出期日に遅れず提出すること。								

科目名	理学療法管理学Ⅰ					理学療法科			
学年	3	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	前・後期
評価 担当	山本 拓史			担当 教員	山本 拓史				
科目 概要	これまででも理学療法管理に関する知識は「理学療法概論」のなかで取り扱われていた。しかし、今回の指定規則の改正で新たな科目として加わってきたことを鑑み、本科目では狭義の管理にとどまらず、その概念と方法論とを広義に理解・認識することで、将来的に理学療法士として従事する際に役立つよう制度の理解、組織の運営、倫理等について理解を深めていくこととする。								
到達 目標	1. 病院・施設・在宅などでの対象者に対する課題の把握とリスク管理やマネジメントについて理解できる。 2. 個々の対象者に対して必要なマネジメントを構築し、短・中期プランを構築できる。 3. 教育・研究・地域領域においてリスク管理ができる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	管理・マネジメントの概観 1			理学療法士と管理・マネジメント			講義	山本	
2	管理・マネジメントの概観 2			管理の類似用語の意味と概念			講義	山本	
3	理学療法管理学とは 1			理学療法管理学で学ぶこと 1			講義	山本	
4	理学療法管理学とは 2			理学療法管理学で学ぶこと 2			講義	山本	
5	理学療法士の職業倫理 1			職業倫理とは			講義	山本	
6	理学療法士の職業倫理 2			理学療法士の職業倫理			講義	山本	
7	組織運営とマネジメント 1			組織とは			講義	山本	
8	組織運営とマネジメント 2			医療安全管理について			講義	山本	
9	組織運営とマネジメント 3			院内感染について			講義	山本	
10	理学療法士の職場管理 1			ヒト、人材、モノの管理			講義	山本	
11	理学療法士の職場管理 2			経済性、情報の管理			講義	山本	
12	理学療法士の職場管理 3			研究・教育の管理、自己管理			講義	山本	
13	理学療法業務のマネジメント 1			理学療法業務、診療録、処方箋について			講義	山本	
14	理学療法業務のマネジメント 2			理学療法診療記録について			講義	山本	
15	理学療法業務のマネジメント 3			医療機能の分化とチーム医療			講義	山本	
16	教育・研究マネジメント 1			理学療法教育に必要なマネジメント			講義	山本	
17	教育・研究マネジメント 2			ハラスメント対策			講義	山本	
18	教育・研究マネジメント 3			理学療法研究のマネジメント			講義	山本	
19	保健・医療・福祉を取り巻く諸制度とマネジメント 1			社会保障制度、社会保険制度			講義	山本	
20	保健・医療・福祉を取り巻く諸制度とマネジメント 2			医療保険制度			講義	山本	
21	保健・医療・福祉を取り巻く諸制度とマネジメント 3			介護保険制度			講義	山本	
22	保健・医療・福祉を取り巻く諸制度とマネジメント 4			年金制度、雇用制度、労働者災害補償制度、生活保護制度			講義	山本	

23	保健・医療・福祉を取り巻く諸制度とマネジメント 5	生活支援に関わる法的制度、健康増進法	講義	山本		
24	疾患別・病期別の理学療法マネジメント 1	疾患別のリスクマネジメント	講義	山本		
25	疾患別・病期別の理学療法マネジメント 2	急性期病院・回復期病院・介護老人保健施設での理学療法マネジメント	講義	山本		
26	疾患別・病期別の理学療法マネジメント 3	急性期病院・回復期病院・介護老人保健施設での理学療法マネジメント	講義	山本		
27	疾患別・病期別の理学療法マネジメント 4	急性期病院・回復期病院・介護老人保健施設での理学療法マネジメント	講義	山本		
28	生活期を支援する理学療法マネジメント 1	慢性脊髄損傷、慢性呼吸器疾患の理学療法のマネジメント	講義	山本		
29	生活期を支援する理学療法マネジメント 2	循環器疾患、重症心身障碍児・者のケア	講義	山本		
30	理学療法を専攻する学生へのメッセージ	総括	講義	山本		
評価方法						
評価指標	期末試験	課題	小テスト	授業態度		合計
評価割合 (%)	50	20	20	10		100
教科書	理学療法管理学 医歯薬出版株式会社 ¥3,800					
教材・参考図書	適宜紹介する。					
オフィスアワー	水・金曜日の 14：00～17：00（その他は講義後に確認すること）					
履修上の注意点	3 年次の履修のため臨床実習と並行して進めていくこととなる。臨床現場と重ねながら学修することで、よりリアルな学びとなることを期待する。講義の円滑な理解のため、予習・復習および臨床現場の実際を確認・意識しながら学修していくことをお勧めする。					
専任教員の実務経験	17 年間病院やクリニックで理学療法に携わってきた経験があり、理学療法管理・運営に対する知識に精通している。					

科目名	理学療法実践論Ⅰ					理学療法科			
学年	3	分野	専門	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	前期・後期
評価 担当	坂口 文宏、山本 拓史、重松 直人、深堀 辰彦、大塚 和宏、中村 正恵、仲濱 毅、田原 典嗣、田中 和範、藤井 和彦			担当 教員	坂口 文宏、山本 拓史、重松 直人、深堀 辰彦、大塚 和宏、中村 正恵、仲濱 毅、田原 典嗣、田中 和範、藤井 和彦				
科目 概要	各疾患ごとの臨床像に基づいた理学療法を実践する力を養います。実技を通じて各疾患に特異的な検査測定・運動療法を実施し、正確性や技術力を高めます。								
到達 目標	1. 各疾患の特異的な病態に基づいた検査測定を実施できる。 2. 各疾患の特異的な病態に基づいた運動療法を実施できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	運動器疾患			オリエンテーション・運動器疾患における理学療法（実践）			講義	藤井・田中・田原	
2	運動器疾患			運動器疾患における理学療法（実践）			講義	藤井・田中・田原	
3	運動器疾患			運動器疾患における理学療法（実践）			講義	藤井・田中・田原	
4	運動器疾患			運動器疾患における理学療法（実践）			講義	藤井・田中・田原	
5	運動器疾患			運動器疾患における理学療法（実践）			講義	藤井・田中・田原	
6	運動器疾患			運動器疾患における理学療法（実践）			講義	藤井・田中・田原	
7	運動器疾患			運動器疾患における理学療法（実践）			講義	藤井・田中・田原	
8	運動器疾患			運動器疾患における理学療法（実践）			講義	藤井・田中・田原	
9	運動器疾患			神経系疾患における理学療法（実践）			講義	藤井・田中・田原	
10	運動器疾患			神経系疾患における理学療法（実践）			講義	藤井・田中・田原	
11	運動器疾患			神経系疾患における理学療法（実践）			講義	藤井・田中・田原	
12	神経系疾患			神経系疾患における理学療法（実践）			講義	山本・大塚・中村・仲濱	
13	神経系疾患			神経系疾患における理学療法（実践）			講義	山本・大塚・中村・仲濱	
14	神経系疾患			神経系疾患における理学療法（実践）			講義	山本・大塚・中村・仲濱	
15	神経系疾患			神経系疾患における理学療法（実践）			講義	山本・大塚・中村・仲濱	
16	神経系疾患			神経系疾患における理学療法（実践）			講義	山本・大塚・中村・仲濱	
17	神経系疾患			神経系疾患における理学療法（実践）			講義	山本・大塚・中村・仲濱	

18	神経系疾患	神経系疾患における理学療法（実践）				講義	山本・大塚・中村・仲濱
19	神経系疾患	神経系疾患における理学療法（実践）				講義	山本・大塚・中村・仲濱
20	神経系疾患	神経系疾患における理学療法（実践）				講義	山本・大塚・中村・仲濱
21	循環器疾患	循環器疾患における理学療法（実践）				講義	深堀・坂口・重松
22	循環器疾患	循環器疾患における理学療法（実践）				講義	深堀・坂口・重松
23	循環器疾患	循環器疾患における理学療法（実践）				講義	深堀・坂口・重松
24	循環器疾患	循環器疾患における理学療法（実践）				講義	深堀・坂口・重松
25	循環器疾患	循環器疾患における理学療法（実践）				講義	深堀・坂口・重松
26	呼吸器疾患	呼吸器疾患における理学療法（実践）				講義	深堀・坂口・重松
27	呼吸器疾患	呼吸器疾患における理学療法（実践）				講義	深堀・坂口・重松
28	呼吸器疾患	呼吸器疾患における理学療法（実践）				講義	深堀・坂口・重松
29	呼吸器疾患	呼吸器疾患における理学療法（実践）				講義	深堀・坂口・重松
30	呼吸器疾患	呼吸器疾患における理学療法（実践）				講義	深堀・坂口・重松
評価方法							
評価指標		実技試験	小テスト				
評価割合 (%)		80	20				
教科書							
教材・参考図書		適宜紹介する。					
オフィスアワー		水曜日・木曜日の 16：00～18：00					
履修上の 注意点		基礎的な知識・技術をもとに授業が展開されるため、授業前後に 1 時間程度の予習、復習を行うこと。					

科目名	理学療法実践論Ⅱ					理学療法科			
学年	3	分野	専門	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	前期・後期
評価 担当	坂口 文宏、山本 拓史、重松 直人、深堀 辰彦、大塚 和宏、中村 正恵、仲濱 毅、田原 典嗣、田中 和範、藤井 和彦				担当 教員	坂口 文宏、山本 拓史、重松 直人、深堀 辰彦、大塚 和宏、中村 正恵、仲濱 毅、田原 典嗣、田中 和範、藤井 和彦			
科目 概要	各疾患の病態・臨床像を整理し、理学療法評価や理学療法アプローチについて立案および展開できる力を養います。演習を通じて自らの臨床思考過程を発表することで、その思考過程をさらに吟味し深めていきます。								
到達 目標	1. 各疾患の特異的な病態に基づいた統合と解釈ができる。 2. 自らの臨床思考を整理し報告することができる。 3. 他者の意見を取り入れ、自らの思考を批判的に吟味し再構成することができる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	運動器疾患			臨床推論とは・運動器疾患と臨床思考過程			講義	藤井・田中・田原	
2	運動器疾患			運動器疾患と臨床思考過程			講義	藤井・田中・田原	
3	運動器疾患			運動器疾患と臨床思考過程			講義	藤井・田中・田原	
4	運動器疾患			運動器疾患と臨床思考過程			講義	藤井・田中・田原	
5	運動器疾患			運動器疾患と臨床思考過程			講義	藤井・田中・田原	
6	運動器疾患			運動器疾患と臨床思考過程			講義	藤井・田中・田原	
7	運動器疾患			運動器疾患と臨床思考過程			講義	藤井・田中・田原	
8	運動器疾患			運動器疾患と臨床思考過程			講義	藤井・田中・田原	
9	運動器疾患			運動器疾患と臨床思考過程			講義	藤井・田中・田原	
10	運動器疾患			運動器疾患と臨床思考過程			講義	藤井・田中・田原	
11	運動器疾患			運動器疾患と臨床思考過程			講義	藤井・田中・田原	
12	神経系疾患			神経系疾患と臨床思考過程			講義	山本・大塚・中村・仲濱	
13	神経系疾患			神経系疾患と臨床思考過程			講義	山本・大塚・中村・仲濱	
14	神経系疾患			神経系疾患と臨床思考過程			講義	山本・大塚・中村・仲濱	
15	神経系疾患			神経系疾患と臨床思考過程			講義	山本・大塚・中村・仲濱	
16	神経系疾患			神経系疾患と臨床思考過程			講義	山本・大塚・中村・仲濱	
17	神経系疾患			神経系疾患と臨床思考過程			講義	山本・大塚・中村・仲濱	

18	神経系疾患	神経系疾患と臨床思考過程					講義	山本・大塚・中村・仲濱
19	神経系疾患	神経系疾患と臨床思考過程					講義	山本・大塚・中村・仲濱
20	神経系疾患	神経系疾患と臨床思考過程					講義	山本・大塚・中村・仲濱
21	循環器疾患	循環器疾患と臨床思考過程					講義	深堀・坂口・重松
22	循環器疾患	循環器疾患と臨床思考過程					講義	深堀・坂口・重松
23	循環器疾患	循環器疾患と臨床思考過程					講義	深堀・坂口・重松
24	循環器疾患	循環器疾患と臨床思考過程					講義	深堀・坂口・重松
25	循環器疾患	呼吸器疾患と臨床思考過程					講義	深堀・坂口・重松
26	呼吸器疾患	呼吸器疾患と臨床思考過程					講義	深堀・坂口・重松
27	呼吸器疾患	呼吸器疾患と臨床思考過程					講義	深堀・坂口・重松
28	呼吸器疾患	呼吸器疾患と臨床思考過程					講義	深堀・坂口・重松
29	呼吸器疾患	呼吸器疾患と臨床思考過程					講義	深堀・坂口・重松
30	呼吸器疾患	呼吸器疾患と臨床思考過程					講義	深堀・坂口・重松
評価方法								
評価指標		期末試験	小テスト					合計
評価割合 (%)		80	20					100
教科書								
教材・参考図書		適宜紹介する。						
オフィスアワー		水曜日・木曜日の 16：00～18：00						
履修上の 注意点		基礎的な知識・技術をもとに授業が展開されるため、授業前後に 1 時間程度の予習、復習を行うこと。						

科目名	総合臨床実習 I						理学療法科		
学年	3 年	分野	専門	単位数	4 単位 (全 22 単位)	時間数	160 時間 (全 880 時間)	期間	前期
評価 担当	田中 和範、重松 直人				担当 教員	田中 和範、重松 直人			
科目 概要	総合臨床実習 I では、既習範囲の基本的検査及び測定の実施法、選択、解釈について、実際の対象者等を通じて実践的技能に高めていく。同時に患者等へのアプローチや問診、検査方法（手順）等の技能及び態度を学ぶ。 また、臨床的問題を解決するために、理解している知識を総動員し、適切な情報を集め、問題を同定し仮説を証明するための計画を立てる。それによって得られた結果の解釈を分析・統合し、治療方針を決定できるようになる。対象者との信頼関係の構築や専門的知識の応用力を養う。								
到達 目標	1. 患者の問題点に対する解決法を自分自身で発見し、文献を調べ、スタッフに聞くなどして独立して行える。 2. 疾患、リスクの基本について理解する 3. 既習範囲の基本的な評価を行うことが出来る。								
講義計画・講義内容									
1. 実習は同一の臨床実習施設において 4 週間行われる。 2. 内容は、各施設における実習指導者の指導・監督の下、実際の症例に対して理学療法評価（情報収集・記録・統合と解釈）を行い、さらに治療計画を立案する。 3. 学内においては実習終了後に実習報告会（発表）を行う。									
評価方法									
評価指標		学内評価	－	－	－	－	－	－	合計
評価割合 (%)		100	－	－	－	－	－	－	100
教科書	理学療法評価法 神陵文庫 ¥4,500 ベッドサイドの神経の診かた 南山堂 ¥7,200								
教材・参考図書		配布した全ての教科書・参考書							
オフィスアワー		各指導教員に適宜確認すること。							
履修上の 注意点	1. 各実習施設に応じて準備すること。 2. 実習後は長期実習 I に備える準備を行うこと。								

科目名	総合臨床実習Ⅱ						理学療法科		
学年	3 年	分野	専門	単位数	8 単位 (全 22 単位)	時間数	320 時間 (全 880 時間)	期間	前期
評価 担当	田中 和範、重松 直人				担当 教員	田中 和範、重松 直人			
科目 概要	臨床実習指導者の指導・監督のもと、総合臨床実習Ⅰで修得した技術を基にプログラムを作成し、治療を実施することによって、臨床現場に必要な基礎能力を養い、その適否や有効性について考察できる能力を修得する。総合臨床実習Ⅰよりもさらに学びを深め、評価から治療までの系統的な理学療法を構築できる能力を養う。実習終了後には実習報告会（発表）を行う。								
到達 目標	1. 理学療法に対する解決法を自分自身で発見し、文献を調べ、スタッフに聞くなどして独立して行える。 2. 疾患、リスクについて理解できる。 3. 学習した評価が行える。学習していない評価であっても事前に学習し指導を受ければ行える。 4. 目標設定、治療計画の立案が出来る。 5. 指導を受ければ、患者治療が行える。 6. 指導を受ければ、患者記録が書ける。								
講義計画・講義内容									
1. 実習は同一の臨床実習施設において8週間行われる。 2. 内容は、各施設における実習指導者の指導・監督の下、実際の症例に対して理学療法評価（情報収集・記録・統合と解釈）を行い、治療計画を立案・実施する。 3. 治療を実施する中で、治療経過からその適否や有効性を考察し、必要に応じて変更できる能力を養う。 4. 学内においては実習終了後に実習報告会（発表）を行う。									
評価方法									
評価指標		学内評価	-	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)		100	-	-	-	-	-	-	100
教科書	理学療法評価法 神陵文庫 ¥4,500 ベッドサイドの神経の診かた 南山堂 ¥7,200								
教材・参考図書		配布した全ての教科書・参考書							
オフィスアワー		各指導教員に適宜確認すること。							
履修上の 注意点	1. 各実習施設に応じて準備すること。 2. 実習後は長期実習Ⅱに備える準備を行うこと。								

科目名	総合臨床実習Ⅲ						理学療法科		
学年	3 年	分野	専門	単位数	8 単位 (全 22 単位)	時間数	320 時間 (全 880 時間)	期間	後期
評価 担当	田中 和範、重松 直人				担当 教員	田中 和範、重松 直人			
科目 概要	臨床実習指導者の指導・監督のもと、総合臨床実習Ⅱで修得した評価から治療までの系統的な理学療法を構築できる能力を更に高め、その適否や有効性について考察できる能力を修得する。 実習終了後には実習報告会（発表）を行う。								
到達 目標	1. 理学療法に対する解決法を自分自身で発見し、文献を調べ、スタッフに聞くなどして独立して行える。 2. 疾患、リスクについて理解できる。 3. 学習した評価が行える。学習していない評価であっても事前に学習し指導を受ければ行える。 4. 目標設定、治療計画の立案が出来る。 5. 指導を受ければ、患者治療が行える。 6. 指導を受ければ、患者記録が書ける。								
講義計画・講義内容									
1. 実習は同一の臨床実習施設において 8 週間行われる。 2. 内容は、各施設における実習指導者の指導・監督の下、実際の症例に対して理学療法評価（情報収集・記録・統合と解釈）を行い、治療計画を立案・実施する。 3. 治療を実施する中で、治療経過からその適否や有効性を考察し、必要に応じて変更できる能力を養う。 4. 学内においては実習終了後に実習報告会（発表）を行う。									
評価方法									
評価指標		学内評価	－	－	－	－	－	－	合計
評価割合 (%)		100	－	－	－	－	－	－	100
教科書	理学療法評価法 神陵文庫 ¥4,500 ベッドサイドの神経の診かた 南山堂 ¥7,200								
教材・参考図書		配布した全ての教科書・参考書							
オフィスアワー		各指導教員に適宜確認すること。							
履修上の 注意点		各実習施設に応じて準備すること。							

No.	科目名	単位数	時間
1	解剖学Ⅰ	2単位	60時間
2	解剖学Ⅱ	2単位	60時間
3	生理学Ⅰ	2単位	60時間
4	生理学Ⅱ	2単位	60時間
5	病理学Ⅱ	1単位	30時間
6	一般臨床医学Ⅱ	1単位	30時間
7	精神医学Ⅱ	1単位	30時間
8	臨床運動学Ⅱ	2単位	60時間
9	理学療法評価学Ⅲ	1単位	30時間
10	運動療法学Ⅲ	2単位	60時間
11	理学療法技術論Ⅴ	1単位	30時間
12	地域理学療法学Ⅰ	1単位	30時間
13	地域理学療法学Ⅱ	1単位	30時間
14	臨床実習（長期実習Ⅱ）	7単位	315時間

科目名	解剖学 I					理学療法科 A 組				
学年	4 年	分野	専門基礎	単位数	2 単位 (全 4 単位)	時間数	60 時間 (全 120 時間)	期間	1～3 学期	
評価 担当	中村 正恵			担当 教員	中村 正恵					
科目 概要	戦後リハビリテーションの発展は、脳卒中リハビリテーションの発展とともにあった、と言っても過言ではない。従って理学療法領域における比重も当然のことながら、非常に重要な位置を占めている。 本講義では、3 年次に履修した脳卒中リハビリテーション学について、総ざらいすることを目的としている。臨床場면을想定した授業の進め方に徹しながらも、国家試験対策も同時に行っていきたい。									
到達 目標	1. 片麻痺(中枢性麻痺)と高次脳機能障害など典型的な障害像を説明できる。 2. 機能障害の評価(身体・認知・構音・摂食・嚥下・総合)を説明できる。 3. リハビリテーションの開始時期による重要性の違いと必要性を説明できる。									
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員		
1	脳卒中の障害学 1		脳卒中の病態・特徴				講義	中村		
2	脳卒中の障害学 2		中枢性麻痺の本態				講義	中村		
3	脳卒中の障害学 3		共同運動パターンと連合反応				講義	中村		
4	脳卒中の障害学 4		姿勢反射と平衡反応				講義	中村		
5	脳卒中の障害学 5		痙性と筋緊張異常				講義	中村		
6	脳卒中の障害学 6		伝導路の復習(錐体路)				講義	中村		
7	1 学期 期末まとめ		1～7 回のまとめ				講義	中村		
8	脳卒中の障害学 7		伝導路の復習(錐体外路他)				講義	中村		
9	二次的合併症 1		拘縮・異所性骨化・起立性低血圧				講義	中村		
10	二次的合併症 2		肩関節亜脱臼・肩手症候群				講義	中村		
11	高次脳機能障害 1		失語				講義	中村		
12	高次脳機能障害 2		失行				講義	中村		
13	高次脳機能障害 3		失認				講義	中村		
14	2 学期 中間まとめ		8～13 のまとめ				講義	中村		
15	脳卒中の画像の診かた 1		CT				講義	中村		
16	脳卒中の画像の診かた 2		MRI1				講義	中村		
17	脳卒中の画像の診かた 3		MRI2				講義	中村		
18	脳卒中の画像の診かた 4		その他画像				講義	中村		
19	脳卒中の画像の診かた 5		まとめ				講義	中村		
20	片麻痺の機能回復 1		Brunnstrom ステージと回復過程				講義	中村		
21	片麻痺の機能回復 2		Brunnstrom ステージと機能訓練				講義	中村		
22	2 学期 期末まとめ		15～21 のまとめ				講義	中村		
23	片麻痺のリスク管理と ADL1		急性期リハビリテーションでの注意と訓練				講義	中村		
24	片麻痺のリスク管理と ADL2		回復期・維持期リハビリテーションでの注意と訓練				講義	中村		

25	片麻痺のリスク管理と ADL3	まとめ	講義	中村			
26	頭部外傷 1	頭部外傷の種類と特徴	講義	中村			
27	頭部外傷 2	脳外傷の種類と特徴	講義	中村			
28	頭部外傷 3	頭部外傷の高次脳機能障害	講義	中村			
29	3 学期 期末まとめ	23～28 のまとめ	講義	中村			
30	総合	総合まとめ	講義	中村			
評価方法							
評価指標	試験	小テスト	－	－	－	－	合計
評価割合 (%)	90	10	－	－	－	－	100
教科書	全国柔道整復学校協会 解剖学 医歯薬出版 ¥7,800						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	各講義の前後。						
履修上の 注意点	講義は教科書・参考書を主体とし、追加資料などで捕捉を行う。3 年次に履修した内容であるため、事前の予習・復習を行うこと。						

科目名	解剖学Ⅱ					理学療法科 A 組			
学年	4 年	分野	専門基礎	単位数	2 単位 (全 4 単位)	時間数	60 時間 (全 120 時間)	期間	1～3 学期
評価 担当	長門 俊一			担当 教員	長門 俊一				
科目 概要	ここでは、これまでの集大成としての「解剖学」と言った位置づけで、授業を進めていきたい。わけても、1 年次に履修した内臓系、内分泌系、神経系、感覚器系と言った一連の領域を微細に再確認していく予定である。 対象者の心身能力を精確に評価する客観性を担保するには、この一連の領域をしっかりと身につけておく必要がある。この講義を遺漏なく理解すれば、国家試験対策として充分対応可能であると同時に、ハイレベルの知識も習得できる。								
到達 目標	1. 内臓系の位置と構造を三次元的にイメージし、その基本的な働きを理解する。 2. 神経系と内分泌系の構造を理解し、他の組織とのつながりを説明できる。 3. 感覚器系の構造と働きを理解する。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	細胞および組織・発生 (1)		細胞の形態と内部構造				講義	長門	
2	細胞および組織・発生 (2)		組織分類と特性				講義	長門	
3	細胞および組織・発生 (3)		人体の発生				講義	長門	
4	消化器 (1)		口、口腔腺、咽頭、食道				講義	長門	
5	消化器 (2)		胃、十二指腸、空腸				講義	長門	
6	消化器 (3)		回腸、大腸、肝臓				講義	長門	
7	1 学期 期末まとめ		1～7 回のまとめ				講義	長門	
8	消化器 (4)		胆道、膵臓、腹膜				講義	長門	
9	呼吸器 (1)		外鼻、副鼻腔、咽頭				講義	長門	
10	呼吸器 (2)		喉頭、気管、気管支				講義	長門	
11	呼吸器 (3)		肺、胸膜、縦隔				講義	長門	
12	泌尿器 (1)		腎臓				講義	長門	
13	泌尿器 (2)		尿管、膀胱、尿道				講義	長門	
14	2 学期 中間まとめ		8～13 のまとめ				講義	長門	
15	生殖器 (1)		精巣、精管、精囊				講義	長門	
16	生殖器 (2)		付属生殖器、陰茎と陰囊				講義	長門	
17	生殖器 (3)		卵巣、卵管、子宮、膣				講義	長門	
18	生殖器 (4)		外陰部、会陰、周期的変化、胎盤				講義	長門	
19	神経系 (1)		神経組織、中枢神経の区分、脳室系、髄膜				講義	長門	
20	神経系 (2)		終脳、間脳、中脳、橋、延髄				講義	長門	
21	神経系 (3)		小脳、脊髄、伝導路、脳神経				講義	長門	
22	2 学期 期末まとめ		15～21 のまとめ				講義	長門	
23	神経系 (4)		脊髄神経後枝、頸神経叢、腕神経叢、胸神経				講義	長門	

24	神経系（5）	腰神経叢、仙骨神経叢、陰部神経叢、尾骨神経				講義	長門
25	神経系（6）	デルマトーム、自律神経				講義	長門
26	感覚器（1）	皮膚、深部感覚				講義	長門
27	感覚器（2）	視覚器、聴覚器				講義	長門
28	感覚器（3）	平衡感覚器、味覚器、嗅覚器				講義	長門
29	3 学期 期末まとめ	23～28 のまとめ				講義	長門
30	総合	総合まとめ				講義	長門
評価方法							
評価指標		試験	小テスト	－	－	－	合計
評価割合（％）		90	10	－	－	－	100
教科書	全国柔道整復学校協会 解剖学 医歯薬出版 ¥7,800						
教材・参考図書		適宜紹介する。					
オフィスアワー		火曜日 13:00～15:00(その他は講義後に確認すること)					
履修上の 注意点		講義は教科書を主体とし、追加資料やレジュメは学生に配布しない。1 年次に履修した内容であるため、事前の予習・復習を行うこと。板書を多用し、図を描くことも多いので、色ペン、色鉛筆を準備しておくことが望ましい。					

科目名		生理学 I					理学療法科 A 組				
学年	4 年	分野	専門基礎	単位数	2 単位 (全 4 単位)		時間数	60 時間 (全 120 時間)		期間	1～3 学期
評価 担当	坂口 文宏				担当 教員	坂口 文宏					
科目 概要	本講義では、整形外科領域における生理学と言った位置づけで授業を進めていく。また本講義の意図は、整形外科領域における基礎的思考を十分に身につけて頂きたい点にある。 より具体的な内容は、1 年次に履修した生理学のうち、整形外科領域における体液の循環、呼吸、消化・吸収、腎機能、代謝について生理的機能発現機序を重点的に再検討していく予定である。また付随し本講義は、一方において国家試験対策にも利するよう工夫している。										
到達 目標	1. 骨の構造、生理、化学を理解する。 2. 骨の病態生理について理解する。 3. 関節の行動と生化学について理解する。 4. 関節の病態生理について理解する。 5. 筋・神経の構造、生理、化学を理解する。 6. 代謝のメカニズムについて理解する。										
回数	単元項目			授業内容					形態	担当教員	
1	骨の構造、生理、化学①			細胞とその機能					講義	坂口	
2	骨の構造、生理、化学②			骨の細胞外基質					講義	坂口	
3	骨の構造、生理、化学③			骨の構造及び種類					講義	坂口	
4	骨の構造、生理、化学④			骨の血管と神経支配					講義	坂口	
5	骨の構造、生理、化学⑤			骨の吸収—形成連関機能とミネラル恒常性					講義	坂口	
6	骨の構造、生理、化学⑥			骨とビタミン					講義	坂口	
7	骨の構造、生理、化学⑦			骨とホルモン					講義	坂口	
8	骨の構造、生理、化学⑧			骨の発生、成長、維持					講義	坂口	
9	骨の病態生理①			骨の生物学的反応					講義	坂口	
10	骨の病態生理②			成長軟骨板の生物学的反応					講義	坂口	
11	関節の構造と生化学①			関節と関節軟骨					講義	坂口	
12	関節の構造と生化学②			関節包と靱帯					講義	坂口	
13	関節の構造と生化学③			滑膜と滑液					講義	坂口	
14	関節の構造と生化学④			半月板と滑液包					講義	坂口	
15	関節の構造と生化学⑤			椎間板及びこれまでのまとめ					講義	坂口	
16	関節の病態生理①			関節軟骨の生物学的反応					講義	坂口	
17	関節の病態生理②			滑膜の生物学的反応					講義	坂口	
18	関節の病態生理③			関節包と靱帯の生物学的反応					講義	坂口	
19	骨・軟骨の損傷修復と再生			骨と軟骨					講義	坂口	
20	筋・神経の構造、生理、化学①			骨格筋の構造と機能					講義	坂口	
21	筋・神経の構造、生理、化学②			神経組織の構造と機能					講義	坂口	
22	疾患総論①			軟部組織・骨・関節の感染症					講義	坂口	

23	疾患総論②	関節リウマチとその類縁疾患	講義	坂口			
24	疾患総論③	慢性関節疾患（退行性、代謝性）	講義	坂口			
25	疾患総論④	四肢循環障害と阻血壊死性疾患	講義	坂口			
26	疾患総論⑤	先天性骨系疾患	講義	坂口			
27	疾患総論⑥	先天異常症候群	講義	坂口			
28	疾患総論⑦	代謝性骨疾患	講義	坂口			
29	疾患総論⑧	神経疾患、筋疾患	講義	坂口			
30	総括	全体のまとめ	講義	坂口			
評価方法							
評価指標	試験	小テスト	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	90	10	-	-	-	-	100
教科書	標準整形外科学 医学書院 ¥9,400						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	水・金曜日 14：00～17：00（その他は講義後に確認してください）						
履修上の 注意点	この講義は皆さんが1年次に学習した内容についての復習と、更に理解を深めて病態生理学への発展を望む。講義前には整形外科領域の生化学を予習すること。また、講義後にノートと教科書を見比べて、しっかり復習をすること。						

科目名	生理学Ⅱ					理学療法科 A 組				
学年	4 年	分野	専門基礎	単位数	2 単位 (全 4 単位)	時間数	60 時間 (全 120 時間)	期間	1～3 学期	
評価 担当	加藤 健一			担当 教員	加藤 健一					
科目 概要	生理学は人体の機能を明らかにし、その機能がどのような機序で現れるかを追求する学問である。現在の生理学は、解剖学的知識や実験などにより得られた科学的証拠に基づき構築されている。その成果は臨床医学の領域で病気の治療に不可欠な知識を提供している。									
到達 目標	各臓器や組織の役割と働きを理解し、人体の恒常性とその維持機能について説明することができる。基本的事項から外傷・障害の治療への応用に至るまでを理解し、説明することができる。国家試験へ向けて基本事項～応用に至るまでの理解を深めていく中で、生理学と関連性の大きい種々の疾患を理解し、説明することができるようになる。									
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員		
1	生理学の基礎		人体を構成する要素～輸送				講義	加藤		
2	体液の生理学		体液の区分、イオン組成、恒常性維持のしくみ				講義	加藤		
3	神経系の基本的機能(1)		静止膜電位と活動電位、閾刺激、不応期				講義	加藤		
4	神経系の基本的機能(2)		興奮の伝導と伝達				講義	加藤		
5	神経系の機能(1)		神経系の成り立ち				講義	加藤		
6	神経系の機能(2)		内臓機能調節、視床下部による調節				講義	加藤		
7	神経系の機能(3)		姿勢と運動の調節				講義	加藤		
8	神経系の機能(4)		高次機能				講義	加藤		
9	感覚の生理学(1)		感覚の種類、一般的性質、体性感覚と内臓感覚				講義	加藤		
10	感覚の生理学(2)		特殊感覚				講義	加藤		
11	内分泌系の機能(1)		内分泌とは、ホルモンの性質・種類・作用				講義	加藤		
12	内分泌系の機能(2)		視床下部、下垂体、甲状腺、副腎皮質のホルモン				講義	加藤		
13	内分泌系の機能(3)		副腎髄質、膵臓、性腺のホルモン				講義	加藤		
14	骨の生理学		構造、形成と成長、再吸収と再形成、ビタミン D				講義	加藤		
15	生殖		性分化、生殖器、月経周期、妊娠分娩、乳汁分泌				講義	加藤		
16	筋肉の機能(1)		種類とその特徴、骨格筋の構造、収縮、興奮				講義	加藤		
17	筋肉の機能(2)		筋長と張力、収縮エネルギー、平滑筋、心筋				講義	加藤		
18	血液の生理学(1)		血液の役割と組成				講義	加藤		
19	血液の生理学(2)		免疫機能、血液型、血液凝固				講義	加藤		
20	循環の生理学(1)		心臓の機能、血管系、リンパ管系				講義	加藤		
21	循環の生理学(2)		循環の調節、局所循環、脳脊髄液循環				講義	加藤		
22	呼吸の生理学(1)		換気、ガス交換、ヘモグロビンの役割				講義	加藤		
23	呼吸の生理学(2)		二酸化炭素の運搬、呼吸の調節、呼吸の異常				講義	加藤		
24	消化と吸収(1)		消化器系の働き、運動とその調節、消化液				講義	加藤		
25	消化と吸収(2)		消化、吸収、消化管ホルモン、肝臓と胆道系				講義	加藤		
26	栄養と代謝①		代謝、中間代謝				講義	加藤		

27	栄養と代謝②	エネルギー代謝				講義	加藤
28	体温とその調節	体温、熱産生と熱放散、体温調節、うつ熱と発熱				講義	加藤
29	尿の生成と排泄(1)	腎の構造と機能、糸球体ろ過				講義	加藤
30	尿の生成と排泄(2)	尿細管の再吸収と分泌、尿の成分、排尿				講義	加藤
評価方法							
評価指標		試験	小テスト	-	-	-	合計
評価割合 (%)		90	10	-	-	-	100
教科書	生理学テキスト 文光堂 ¥4,800						
教材・参考図書		必要に応じて授業内で紹介する。					
オフィスアワー		金曜日 15 時～17 時					
履修上の 注意点		講義は教科書を主体とし、追加資料やレジュメは基本的に学生に配布しない。1 年次に履修した内容であるため、事前の予習・復習を最低 1 時間ずつは行うこと。板書を多用し、図を描くことも多いので、色ペン、色鉛筆を準備しておくことが望ましい。					

科目名	病理学Ⅱ					理学療法科 A 組			
学年	4 年	分野	専門基礎	単位数	1 単位 (全 3 単位)	時間数	30 時間 (全 90 時間)	期間	1～3 学期
評価 担当	谷口 邦久			担当 教員	谷口 邦久				
科目 概要	病理学は疾病の原因、成立過程、及びその結果など疾病の基本概念の病理学総論が重要である。 病理学概論は、医療チームを構成する全ての職種に共通する必須科目であり、これを学ぶことで臨床科目を深く理解することに繋がる。 ここでは、臨床に向けて 2 年次に履修した内容を統合、整理すると共に、国家試験対策を行っていく。								
到達 目標	1. 病理を研究する方法を知り、その観察方法について理解する。疾病一般について意義・分類を理解する。 2. 細胞傷害・循環障害・進行性病変・炎症・腫瘍などのマクロ・ミクロの形態変化を知見として理解する。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	病理学とは			形態学における観察方法			講義	谷口	
2	疾病の一般			疾病の経過・予後・転帰			講義	谷口	
3	病因論			内因・外因			講義	谷口	
4	退行性病変			変性・萎縮・壊死			講義	谷口	
5	代謝異常 1			蛋白質・アミノ酸代謝異常・脂質代謝異常			講義	谷口	
6	代謝異常 2			糖代謝異常・無機質代謝異常・色素代謝異常			講義	谷口	
7	1 学期まとめ			期末まとめ			講義	谷口	
8	進行性病変 1			肥大・過形成			講義	谷口	
9	進行性病変 2			化生・異形成			講義	谷口	
10	進行性病変 3			再生と創傷治癒			講義	谷口	
11	循環障害 1			体液循環の異常・全身循環の異常			講義	谷口	
12	循環障害 2			局所循環の異常			講義	谷口	
13	免疫 1			免疫の仕組み・免疫不全・後天性免疫不全			講義	谷口	
14	2 学期まとめ			中間まとめ			講義	谷口	
15	免疫 2			自己免疫疾患・アレルギー・移植			講義	谷口	
16	炎症・感染症 1			炎症の原因・種類			講義	谷口	
17	炎症・感染症 2			感染症の原因・成立			講義	谷口	
18	炎症・感染症 3			微生物の感染経路・日和見感染			講義	谷口	
19	腫瘍 1			腫瘍の定義・腫瘍の組織構造			講義	谷口	
20	腫瘍 2			発癌の原因・腫瘍の分類（良性腫瘍・悪性腫瘍）			講義	谷口	
21	腫瘍 3			悪性腫瘍（癌・肉腫）、悪性腫瘍の進展（転移）			講義	谷口	
22	2 学期まとめ			期末まとめ			講義	谷口	
23	放射性障害 1			放射線の種類と単位・放射性障害の分子細胞生物学的機序			講義	谷口	
24	放射性障害 2			放射線による臓器障害・放射線と発癌・医療における放射線			講義	谷口	

25	老化 1	生理的老化と寿命	講義	谷口			
26	老化 2	加齢に伴って増加する各臓器の疾患	講義	谷口			
27	先天性異常・奇形 1	先天異常・遺伝性疾患	講義	谷口			
28	先天性異常・奇形 2	染色体異常・奇形	講義	谷口			
29	3 学期まとめ	期末まとめ	講義	谷口			
30	病理総合	総合まとめ	講義	谷口			
評価方法							
評価指標	試験	小テスト	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	90	10	-	-	-	-	100
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 医学書院 ¥4,600						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	火曜日の 15 時～17 時						
履修上の 注意点	講義は教科書を主体とし、追加資料やレジュメは基本的に学生に配布しない。2 年次に履修した内容であるため、事前の予習・復習を最低 1 時間ずつは行うこと。						

科目名	一般臨床医学Ⅱ					理学療法科 A 組			
学年	4 年	分野	専門基礎	単位数	1 単位 (全 3 単位)	時間数	30 時間 (全 90 時間)	期間	1～3 学期
評価 担当	坂 逸平			担当 教員	坂 逸平				
科目 概要	2・3 年次に履修した一般内科学及び神経疾患を中心に、代表疾患の概要を学び、様々な内部障害の所見と考えられる疾患を理解し、臨床で活かせるようその知識を再度整理する。また、同時に一層高度になる国家試験対策にも対応できるよう指導する。								
到達 目標	1. 内科及び神経疾患の基礎的な知識（概念、原因、症状）を身に付ける。 2. 理学療法士の業務上必要な単元を念頭に置くべきところの臨床症状をつかみ、鑑別できるようにする。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	主要な疾患			総論			講義	坂	
2	主要な疾患			脳卒中			講義	坂	
3	主要な疾患			運動麻痺			講義	坂	
4	主要な疾患			意識障害 認知症			講義	坂	
5	主要な疾患			パーキンソン病			講義	坂	
6	主要な疾患			運動ニューロン疾患			講義	坂	
7	1 学期 期末まとめ			1～6 回まとめ			講義	坂	
8	主要な疾患			脊髄損傷			講義	坂	
9	主要な疾患			末梢神経障害			講義	坂	
10	主要な疾患			炎症性神経疾患			講義	坂	
11	主要な疾患			神経外傷 てんかん			講義	坂	
12	主要な疾患			めまい 頭痛			講義	坂	
13	主要な疾患			運動失調 不随意運動			講義	坂	
14	2 学期 中間まとめ			8～13 回まとめ			講義	坂	
15	主要な疾患			感染性神経疾患			講義	坂	
16	診察概論			診察の意義			講義	坂	
17	視診			視診の意義と方法			講義	坂	
18	視診			身体各部の視診			講義	坂	
19	打診・触診・生命徴候			打診と触診の意義と方法			講義	坂	
20	打診・触診・生命徴候			生命徴候			講義	坂	
21	感覚検査 反射検査			感覚検査の意義と方法			講義	坂	
22	2 学期 期末まとめ			15～21 回まとめ			講義	坂	
23	感覚検査 反射検査			反射検査の意義と種類			講義	坂	
24	代表的な臨床症状			発熱 出血傾向			講義	坂	
25	代表的な臨床症状			リンパ節腫脹 意識障害			講義	坂	

26	代表的な臨床症状	チアノーゼ 関節痛	講義	坂			
27	代表的な臨床症状	浮腫 肥満 やせ	講義	坂			
28	検査法	生命徴候の測定 生理機能検査 運動機能検査	講義	坂			
29	3 学期 期末まとめ	23～28 回まとめ	講義	坂			
30	総合	総合まとめ	講義	坂			
評価方法							
評価指標	試験	小テスト	－	－	－	－	合計
評価割合 (%)	90	10	－	－	－	－	100
教科書	1. わかりやすい内科学 文光堂 ¥9,000						
	2. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 医学書院 ¥4,600						
	3. 神経内科学の講義がそのまま本になりました 医学教育出版社 ¥4,200						
教材・参考図書		必要に応じて授業内で紹介する。					
オフィスアワー		各講義の前後。					
履修上の 注意点		講義は教科書を主体とし、追加資料やレジュメは基本的に学生に配布しない。2・3 年次に履修した内容であるため、事前の予習・復習を最低 1 時間ずつは行うこと。					

科目名	精神医学Ⅱ					理学療法科 A 組				
学年	4 年	分野	専門基礎	単位数	1 単位 (全 2 単位)	時間数	30 時間 (全 60 時間)	期間	1～3 学期	
評価 担当	田中 和範			担当 教員	田中 和範					
科目 概要	1. 3 年次に履修した内容の再確認と理解を深める。 2. 代表的な精神疾患を広くとりあげて解説し治療の基本的な流れを理解することを目指す。 3. 理学療法を安全に実施するために、精神疾患の対象者の健康状態を理解する。									
到達 目標	1. 代表的な精神疾患に対する様々な治療法を理解す。 2. 近年の医療技術者の医療水準を踏まえ、理学療法士の職域として必要な精神医学分野を理解習得する。									
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員		
1	精神医学とは			精神医学の定義・概念・歴史・学ぶ意義			講義	田中和		
2	脳器質性精神障害 1			脳器質性精神障害の概念・認知症・各原因疾患			講義	田中和		
3	脳器質性精神障害 2			各論（変性疾患・血管性・感染症・外傷・中毒・腫瘍・代謝障害）			講義	田中和		
4	症状性精神障害 1			症状性精神障害の概念・基本症状			講義	田中和		
5	症状性精神障害 2			各論（代謝及び栄養障害・高原病・内分泌障害）			講義	田中和		
6	精神作用物質による精神 および行動の障害 1			定義・概念・各論（アルコール）			講義	田中和		
7	精神作用物質による精神 および行動の障害 2			各論（薬物依存）・家族の問題・治療			講義	田中和		
8	1 学期 期末まとめ			関連分野を含めたまとめ			講義	田中和		
9	てんかん 1			定義・発作症状・精神症状			講義	田中和		
10	てんかん 2			国際分類・代表的なてんかん			講義	田中和		
11	てんかん 3			経過と予後・薬物治療			講義	田中和		
12	統合失調症 1			定義・概要・疫学・特徴			講義	田中和		
13	統合失調症 2			病型と基本症状・社会生活場面			講義	田中和		
14	統合失調症 3			経過と予後、治療とリハビリテーション			講義	田中和		
15	気分感情障害 1			定義・概念・主な病型			講義	田中和		
16	2 学期 中間まとめ			統合失調症までの範囲で、関連分野を含めたまとめ			講義	田中和		
17	気分感情障害 2			各論（うつ病・躁うつ病・持続性気分障害） 治療と援助・リハビリテーション			講義	田中和		
18	神経症性障害 1			定義・概念・各論（神経症・強迫・ストレス）			講義	田中和		
19	神経症性障害 2			各論（身体表現性障害・解離・その他の神経症性障害）・治療と援助			講義	田中和		
20	生理的障害および身体的 要因に関連した障害			生理的レベルと身体的レベルの障害・性関連			講義	田中和		
21	パーソナリティの障害			人格・行動・性の障害			講義	田中和		
22	精神遅滞			概要・定義・分類・各種疾患			講義	田中和		
23	心理発達の障害 1			概要・特異的発達障害			講義	田中和		

24	2 学期 期末まとめ	気分障害から心理発達までのまとめ	講義	田中和			
25	心理発達の障害 2	広汎性発達障害	講義	田中和			
26	ライフサイクルにおける精神医学 1	概要・小児期・青年期の精神医学	講義	田中和			
27	ライフサイクルにおける精神医学 2	成人期・老年期の精神医学	講義	田中和			
28	リエゾン精神医学・心身医学	概要・心身症	講義	田中和			
29	精神障害の治療とリハビリテーション	精神障害とリハビリテーション・インフォームドコンセントの原則	講義	田中和			
30	3 学期 期末まとめ	関連分野を含めたまとめ	講義	田中和			
評価方法							
評価指標	試験	小テスト	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	90	10	-	-	-	-	100
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 医学書院 ¥4,400						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	火曜日の 14：00～15：00						
履修上の 注意点	1. 精神医学を身近な問題としてとらえ、主体的に学習すること。 2. 3 年次に履修した内容を復習し理解すること。 3. 事前に予習復習すること。 なお、上記の回数は補習も含む。						

科目名	臨床運動学Ⅱ					理学療法科 A 組			
学年	4 年	分野	専門	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	1～3 学期
評価 担当	藤井 和彦			担当 教員	藤井 和彦				
科目 概要	理学療法の目的は基本的動作能力の回復である。動作を理解し、改善を図るには運動学を身に付けることは必須となる。卒業し臨床に出るにあたり、理学療法を行ううえでまず必要な運動学を、1～3 年次に学んだ順に再度知識を整理して習得する。また、同時に国家試験対策も行っていく。								
到達 目標	1. 力学の基礎を理解し説明できる。 2. 人体の運動について理解し説明できる。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	力学の基礎①		単位①				講義	藤井	
2	力学の基礎②		単位②				講義	藤井	
3	力学の基礎③		仕事・仕事率・力学的エネルギー				講義	藤井	
4	力学の基礎④		ベクトル（合成・分解）				講義	藤井	
5	力学の基礎⑤		てこ①				講義	藤井	
6	力学の基礎⑥		てこ②				講義	藤井	
7	力学の基礎⑦		モーメント①				講義	藤井	
8	力学の基礎⑧		モーメント②				講義	藤井	
9	力学の基礎⑨		モーメント③				講義	藤井	
10	関節学総論		関節の形状分類				講義	藤井	
11	筋学総論		筋収縮のメカニズム・筋収縮の様態				講義	藤井	
12	神経学総論		伸長反射・運動単位				講義	藤井	
13	四肢・体幹の運動①		上肢の運動①				講義	藤井	
14	四肢・体幹の運動②		上肢の運動②				講義	藤井	
15	四肢・体幹の運動③		上肢の運動③				講義	藤井	
16	四肢・体幹の運動④		下肢の運動①				講義	藤井	
17	四肢・体幹の運動⑤		下肢の運動②				講義	藤井	
18	四肢・体幹の運動⑥		頭部（顔面）の運動				講義	藤井	
19	四肢・体幹の運動⑦		頸部の運動				講義	藤井	
20	四肢・体幹の運動⑧		体幹の運動				講義	藤井	
21	四肢・体幹の運動⑨		呼吸運動				講義	藤井	
22	姿勢・歩行①		立位①				講義	藤井	
23	姿勢・歩行②		立位②				講義	藤井	
24	姿勢・歩行③		その他の姿勢				講義	藤井	
25	姿勢・歩行④		正常歩行①				講義	藤井	

26	姿勢・歩行⑤	正常歩行②	講義	藤井			
27	姿勢・歩行⑥	異常歩行①	講義	藤井			
28	姿勢・歩行⑦	異常歩行②	講義	藤井			
29	復習①	総復習	講義	藤井			
30	復習②	総復習	講義	藤井			
評価方法							
評価指標	試験	小テスト	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	90	10	-	-	-	-	100
教科書	基礎運動学 医歯薬出版 ￥6,800						
教材・参考図書	その他適宜紹介する。						
オフィスアワー	木曜日の 10:35～12:05						
履修上の 注意点	教科書上だけでなく身体イメージをつけ、模倣など行い他者に説明できるように復習すること。						

科目名	理学療法評価学Ⅲ					理学療法科 A 組			
学年	4 年	分野	専門	単位数	1 単位 (全 2 単位)	時間数	30 時間 (全 60 時間)	期間	1～3 学期
評価 担当	仲濱 毅				担当 教員	仲濱 毅			
科目 概要	評価学の集大成と言った位置づけで、本講義は進めていく。 再検討する内容は、国家試験対策として十分な知識を得ることができるため、各人が復習を丹念に実施するよう心掛けていただきたい。								
到達 目標	各人が、各疾患別の臨床像を想定した評価の在り方を再考し体得する。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	徒手筋力テストの実際 その 1			上肢の MMT の実際			講義	仲濱	
2	徒手筋力テストの実際 その 2			下肢の MMT の実際			講義	仲濱	
3	徒手筋力テストの実際 その 3			代償運動を考える			講義	仲濱	
4	関節可動域測定法の実際 その 1			上肢の ROM の実際 1			講義	仲濱	
5	関節可動域測定法の実際 その 2			上肢の ROM の実際 2			講義	仲濱	
6	関節可動域測定法の実際 その 3			下肢の ROM の実際			講義	仲濱	
7	形態測定			四肢長・周径の実際			講義	仲濱	
8	感覚検査			感覚検査の実際			講義	仲濱	
9	反射・反応			腱反射及び病的反射と理学療法の相互関係			講義	仲濱	
10	Brunnstrom 法 1			理学療法の中の Brunnstrom 法 その 1			講義	仲濱	
11	Brunnstrom 法 2			理学療法の中の Brunnstrom 法 その 2			講義	仲濱	
12	協調性検査			運動失調をめぐる評価の在り方			講義	仲濱	
13	認知症検査			理学療法遂行上の認知症検査（HDS-R）の在り方			講義	仲濱	
14	粗大運動能力分類システム その 1			総論			講義	仲濱	
15	粗大運動能力分類システム その 1			年齢区分別の特徴 2 歳まで及び 2 歳～4 歳まで			講義	仲濱	
16	粗大運動能力分類システム その 1			年齢区分別の特徴 4 歳～6 歳まで及び 6 歳～12 歳まで			講義	仲濱	
17	粗大運動能力分類システム その 1			年齢区分別の特徴 12 歳～18 歳まで			講義	仲濱	
18	呼吸機能検査			肺音聴診、スパイロメータの実際			講義	仲濱	
19	神経筋疾患			運動神経伝導速度の測定の実際			講義	仲濱	
20	発達障害の評価 その 1			遠城寺式乳幼児分析的発達検査の実際			講義	仲濱	
21	発達障害の評価 その 2			改訂日本版デンバー式発達クリーニング検査の実際			講義	仲濱	

22	バイタルチェック	リスク管理とバイタルチェック	講義	仲濱			
23	整形外科検査法 その1	各検査法の特徴1	講義	仲濱			
24	整形外科検査法 その2	各検査法の特徴2	講義	仲濱			
25	整形外科検査法 その3	各検査法の特徴3	講義	仲濱			
26	理学療法評価と研究法 その1	オッズ比を理解する。	講義	仲濱			
27	理学療法評価と研究法 その2	前方研究及び広報研究を理解する。	講義	仲濱			
28	理学療法評価と研究法 その3	感度と特異度を理解する。	講義	仲濱			
29	理学療法評価と研究法 その4	コホート研究とケースコントロール研究を理解する。	講義	仲濱			
30	まとめ		講義	仲濱			
評価方法							
評価指標	試験	小テスト	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	90	10	-	-	-	-	100
教科書	PT/OT 国家試験必須ポイント 基礎PT学 医学書院 ¥4,700						
教材・参考図書	適宜資料を配布する。						
オフィスアワー	月曜から金曜日までの毎夕（16時～18時）						
履修上の 注意点	評価をめぐる理論と実際の齟齬を考えること。						

科目名	運動療法学Ⅲ					理学療法科 A 組			
学年	4 年	分野	専門	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	第 1～3 学期
評価 担当	大塚 和宏			担当 教員	大塚 和宏				
科目 概要	運動療法の総仕上げとして、運動療法の基本から総復習をするとともに、卒業し臨床現場で各疾患に対して適切な運動療法が行えるよう、特に神経筋疾患を中心に学習する。同時に、国家試験への対応力を身に付ける。								
到達 目標	1. 基本的運動療法の目的・対象・注意点を説明できる。 2. 各種神経筋疾患の病態・特徴・障害を説明できる。 3. 各種神経筋疾患に対する適切な運動療法を説明できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	関節可動域運動（1）			関節可動域運動の実際と注意点（上肢）			講義	大塚	
2	関節可動域運動（2）			関節可動域運動の実際と注意点（下肢・体幹）			講義	大塚	
3	筋力維持増強運動（1）			筋力に影響する因子、一般的原則			講義	大塚	
4	筋力維持増強運動（2）			強度、持続時間、頻度、期間、種類			講義	大塚	
5	持久力増強運動（1）			筋持久力、全身持久力、無酸素性作業閾値			講義	大塚	
6	持久力増強運動（2）			評価、運動処方			講義	大塚	
7	協調性回復運動（1）			フレンケル体操、重り負荷、			講義	大塚	
8	協調性回復運動（2）			弾性緊縛帯、運動学習			講義	大塚	
9	全身調整運動			コンディショニング、目的、方法			講義	大塚	
10	神経筋再教育			神経筋再教育とは、原理、方法、基本条件			講義	大塚	
11	神経生理学的アプローチ			基本概念、生理学的基础、			講義	大塚	
12	神経筋疾患の運動療法（1）			パーキンソン病の概念と特徴			講義	大塚	
13	神経筋疾患の運動療法（2）			パーキンソン病の運動療法の実際			講義	大塚	
14	神経筋疾患の運動療法（3）			脊髄小脳変性症の概念と病態			講義	大塚	
15	神経筋疾患の運動療法（4）			脊髄小脳変性症の運動療法の実際			講義	大塚	
16	神経筋疾患の運動療法（5）			筋萎縮性側索硬化症の概念と病態			講義	大塚	
17	神経筋疾患の運動療法（6）			筋萎縮性側索硬化症の運動療法の実際			講義	大塚	
18	神経筋疾患の運動療法（7）			多発性硬化症の概念と病態			講義	大塚	
19	神経筋疾患の運動療法（8）			多発性硬化症の運動療法の実際			講義	大塚	
20	神経筋疾患の運動療法（9）			ギラン・バレー症候群の概念と病態			講義	大塚	
21	神経筋疾患の運動療法（10）			ギラン・バレー症候群の運動療法の実際			講義	大塚	
22	神経筋疾患の運動療法（11）			筋ジストロフィーの概念と病態			講義	大塚	
23	神経筋疾患の運動療法（12）			筋ジストロフィーの運動療法の実際			講義	大塚	
24	神経筋疾患の運動療法（13）			多発神経炎（ポリニューロパチー）の概念と病態			講義	大塚	
25	神経筋疾患の運動療法（14）			多発神経炎（ポリニューロパチー）の運動療法			講義	大塚	
26	高齢者の運動療法（1）			高齢者の概念と特徴の理解			講義	大塚	

27	高齢者の運動療法（2）	高齢者の運動療法の実際					講義	大塚
28	総復習（1）	復習					講義	大塚
29	総復習（2）	復習					講義	大塚
30	総復習（3）	復習					講義	大塚
評価方法								
評価指標		試験	小テスト	－	－	－	－	合計
評価割合（％）		90	10	－	－	－	－	100
教科書	標準理学療法学 専門分野 運動療法学 各論 医学書院 ¥5,800							
教材・参考図書		PT/OT 国家試験必須ポイント 障害別 PT 治療学 医歯薬出版 ¥4,700						
オフィスアワー		火曜日の 14 時～15 時（その他は講義後に確認してください）						
履修上の 注意点		1. 授業は授業以外の時間でも復習と予習をしておくこと。 2. 授業は過去の国家試験問題を基準に行うので、過去問は解いておくこと。						

科目名	理学療法技術論Ⅴ					理学療法科 A 組			
学年	4 年	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	1～3 学期
評価 担当	重松 直人			担当 教員	重松 直人				
科目 概要	人間発達学や小児の理学療法といった基礎を発展させ、病態に応じた理学療法アプローチが実践できるようになる。また同時に国家試験への対応力を身につける。								
到達 目標	1. 発達に関する原則を理解し、発達過程を順序立てて考えることができるようになる。 2. 小児における疾患毎の特徴や病態を理解し、基礎的な理学療法アプローチを実施することができる。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	発達 1		導入・進化に見る脳の発達				講義	重松	
2	発達 2		発達区分と原則				講義	重松	
3	運動発達 1		胎児の行動				講義	重松	
4	運動発達 2		背臥位の発達				講義	重松	
5	運動発達 3		腹臥位の発達				講義	重松	
6	運動発達 4		座位姿勢の発達				講義	重松	
7	運動発達 5		立位と歩行の発達				講義	重松	
8	運動発達 6		移動の発達				講義	重松	
9	運動発達 7		上肢機能の発達				講義	重松	
10	反射と反応 1		脊髄レベルの反射				講義	重松	
11	反射と反応 2		脳幹レベルの反射				講義	重松	
12	反射と反応 3		大脳皮質レベルの反射				講義	重松	
13	反射と反応 4		反射と統合時期				講義	重松	
14	発達障害 1		脳性麻痺（痙直型両麻痺）の運動障害				講義	重松	
15	発達障害 2		脳性麻痺（痙直型両麻痺）の評価と治療計画				講義	重松	
16	発達障害 3		脳性麻痺（アテトーゼ型）の運動障害				講義	重松	
17	発達障害 4		脳性麻痺（アテトーゼ型）の評価と治療計画				講義	重松	
18	発達障害 5		脳性麻痺（痙直型片麻痺）の運動障害				講義	重松	
19	発達障害 6		脳性麻痺（痙直型片麻痺）の評価と治療計画				講義	重松	
20	発達障害 7		筋ジストロフィーの運動障害				講義	重松	
21	発達障害 8		筋ジストロフィーの評価と治療計画				講義	重松	
22	発達障害 9		二分脊椎の特徴と理学療法				講義	重松	
23	発達障害 10		重症心身障害児の特徴と理学療法				講義	重松	
24	発達障害 11		ダウン症候群の特徴と理学療法				講義	重松	
25	発達障害 12		低出生体重児の特徴と理学療法				講義	重松	
26	評価 1		運動発達検査の概要				講義	重松	

27	評価 2	改訂日本版デンバー式発達スクリーニング検査	講義	重松			
28	評価 3	遠城寺式乳幼児分析的発達検査	講義	重松			
29	評価 4	粗大運動能力分類システム（GMFCS）	講義	重松			
30	社会的療育	障害のある子供の療育に関する法律	講義	重松			
評価方法							
評価指標	試験	小テスト	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	90	10	-	-	-	-	100
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 医学書院 ¥4,400						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	火曜日の 14：00～15：00						
履修上の 注意点	1～3 年次に履修した基礎科目を見直し、予習復習を行うこと。単純記憶によるものではなく、発達の過程を解剖学的、生理学的背景と結び付け、順序立てて理解できるように、知識の整理を行うこと。						

科目名	地域理学療法学Ⅰ					理学療法科 A 組			
学年	4 年	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	1～3 学期
評価 担当	深堀 辰彦			担当 教員	深堀 辰彦				
科目 概要	地域の実情を踏まえ、対象者の日常生活を推考することは、在宅を基本とした理学療法を進めるうえで必須とされる。ここでは、より実践的場面を想定し、対象者の状況把握をどのように進めるべきかについて紹介する。 受講する皆さんが、理学療法士にとって地域リハビリテーションがある意味「主戦場」になる点を考えていただけるよう心掛けていく。								
到達 目標	1. 客観的なデータに基づき、高齢社会の実業を正確に把握する。 2. その際のデータ収集方法を具体的に活用できる。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	地域社会の実情①		老人福祉法から介護保険へその 1				講義	深堀	
2	地域社会の実情②		老人福祉法から介護保険へその 2				講義	深堀	
3	地域社会の実情③		応能負担の特徴と応益負担の特徴その 1				講義	深堀	
4	地域社会の実情④		応能負担の特徴と応益負担の特徴その 2				講義	深堀	
5	地域社会の実情⑤		介護保険の中の地域包括ケアシステムの特徴 1				講義	深堀	
6	地域社会の実情⑥		介護保険の中の地域包括ケアシステムの特徴 2				講義	深堀	
7	地域社会の実情⑦		介護保険の中の地域包括ケアシステムの特徴 3				講義	深堀	
8	地域社会の実情⑧		介護保険と生活保護の中の生活扶助の特徴 1				講義	深堀	
9	地域社会の実情⑨		介護保険と生活保護の中の生活扶助の特徴 2				講義	深堀	
10	地域社会の実情⑩		介護保険と生活保護の中の生活扶助の特徴 3				講義	深堀	
11	生活支援の実情①		法制度面からみた高齢者の生活支援その 1				講義	深堀	
12	生活支援の実情②		法制度面からみた高齢者の生活支援その 2				講義	深堀	
13	生活支援の実情③		法制度面からみた高齢者の生活支援その 3				講義	深堀	
14	生活支援の実情④		法制度面からみた高齢者の生活支援その 4				講義	深堀	
15	生活支援の実情⑤		法制度面からみた高齢者の生活支援その 5				講義	深堀	
16	生活支援の実情⑥		補装具の側面からみた高齢者の生活支援その 1				講義	深堀	
17	生活支援の実情⑦		補装具の側面からみた高齢者の生活支援その 2				講義	深堀	
18	生活支援の実情⑧		補装具の側面からみた高齢者の生活支援その 3				講義	深堀	
19	生活支援の実情⑨		補装具の側面からみた高齢者の生活支援その 4				講義	深堀	
20	生活支援の実情⑩		補装具の側面からみた高齢者の生活支援その 5				講義	深堀	
21	生活支援の実情⑪		補装具の側面からみた高齢者の生活支援その 6				講義	深堀	
22	生活支援の実情⑫		補装具の側面からみた高齢者の生活支援その 7				講義	深堀	
23	生活支援の実情⑬		補装具の側面からみた高齢者の生活支援その 8				講義	深堀	
24	生活支援の実情⑭		補装具の側面からみた高齢者の生活支援その 9				講義	深堀	
25	生活支援の実情⑮		補装具の側面からみた高齢者の生活支援その 10				講義	深堀	

26	地域調査の手法①	疫学調査の実情	講義	深堀			
27	地域調査の手法②	記述疫学の特徴	講義	深堀			
28	地域調査の手法③	分析疫学の特徴	講義	深堀			
29	地域調査の手法④	介入研究の特徴	講義	深堀			
30	総括	地域包括ケアシステムの展望 ―総括にかえて―	講義	深堀			
評価方法							
評価指標	試験	小テスト	－	－	－	－	合計
評価割合 (%)	90	10	－	－	－	－	100
教科書	PT/OT 国家試験必須ポイント 基礎 PT 学 医学書院 ¥4,700						
教材・参考図書	適宜資料を配布する。						
オフィスアワー	月・水・金曜日の 14：00～17：00（その他は適宜確認してください）						
履修上の 注意点	講義は板書を中心とするため、各自ノートの用意をお願いします。 なお、本講義は補習を含む。						

科目名	地域理学療法学Ⅱ					理学療法科 A 組			
学年	4 年	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	1～3 学期
評価 担当	仲濱 毅			担当 教員	仲濱 毅				
科目 概要	卒業後臨床に出るにあたり、1.2 年次に履修した ADL・生活環境論・リハビリテーション概論・リハビリテーション医学・理学療法概論の学習をとおして、種々の法律・概要、ADL 評価、リハ関連機器を理解する。さらに、それらを系統立てて理解し応用することで国家試験に対応できる力を身につける。1 年生で履修した内容の復習と国家試験対策を中心に進める。								
到達 目標	1. ADL と生活環境論、リハビリテーション医学、リハビリテーション概論の 1.2 年次の復習を行う。 2. ADL と生活環境論、リハビリテーション医学、リハビリテーション概論の過去問が解答可能となるよう理解をする。 3. ADL と生活環境論、リハビリテーション医学、リハビリテーション概論の応用問題が解答可能となるよう理解をする。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	リハビリテーション医学		廃用症候群				講義	仲濱	
2	リハビリテーション医学		高齢者・老化現象				講義	仲濱	
3	リハビリテーション医学		介護保険法				講義	仲濱	
4	ADL と生活環境論		ADL の概念と分類				講義	仲濱	
5	ADL と生活環境論		ADL 評価 Barthel Index				講義	仲濱	
6	ADL と生活環境論		ADL 評価 FIM				講義	仲濱	
7	ADL と生活環境論		ADL 評価 種々の評価法				講義	仲濱	
8	リハビリテーション概論		ICF				講義	仲濱	
9	リハビリテーション医学		褥瘡の発生要因、意識障害、クリニカルパス				講義	仲濱	
10	リハビリテーション医学		個人情報保護法				講義	仲濱	
11	リハビリテーション医学		EBM、インフォームド・コンセント				講義	仲濱	
12	ADL と生活環境論		リハ関連機器 車椅子の名称と採寸				講義	仲濱	
13	ADL と生活環境論		リハ関連機器 車椅子・歩行器・杖				講義	仲濱	
14	リハビリテーション医学		院内感染症対策、標準予防策				講義	仲濱	
15	リハビリテーション医学		種々の感染症				講義	仲濱	
16	ADL と生活環境論		生活環境論 自助具、生活環境整備				講義	仲濱	
17	ADL と生活環境論		車椅子介助法				講義	仲濱	
18	ADL と生活環境論		疾患別 ADL 指導①				講義	仲濱	
19	ADL と生活環境論		疾患別 ADL 指導②				講義	仲濱	
20	リハビリテーション概論		ユニバーサルデザイン				講義	仲濱	
21	リハビリテーション概論		ノーマライゼーション				講義	仲濱	
22	リハビリテーション概論		身体障害者福祉法				講義	仲濱	
23	リハビリテーション概論		障害者基本法				講義	仲濱	
24	リハビリテーション概論		身体障害者程度等級				講義	仲濱	

25	リハビリテーション概論	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律	講義	仲濱			
26	リハビリテーション医学	介護保険法	講義	仲濱			
27	リハビリテーション概論	ICF	講義	仲濱			
28	ADL と生活環境論	問題演習	講義	仲濱			
29	リハビリテーション医学	問題演習	講義	仲濱			
30	リハビリテーション概論	問題演習	講義	仲濱			
評価方法							
評価指標	試験	小テスト	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	90	10	-	-	-	-	100
教科書	PT/OT 国家試験必須ポイント 基礎 PT 学 医学書院 ¥4,700						
教材・参考図書	適宜資料を配布する。						
オフィスアワー	火曜日の 14：00～15：00						
履修上の 注意点	ADL・生活環境論・リハビリテーション概論・リハビリテーション医学・理学療法概論に関連するテキスト並びにノートは必ず持参のこと。						

科目名	臨床実習（長期実習Ⅱ）						理学療法科 A 組		
学年	4 年	分野	専門	単位数	7 単位 (全 18 単位)	時間数	315 時間 (全 810 時間)	期間	1 学期
評価 担当	仲濱 毅、深堀 辰彦				担当 教員	仲濱 毅、深堀 辰彦			
科目 概要	臨床実習指導者の指導・監督のもと、検査測定・評価実習で修得した技術を基にプログラムを作成し、治療を実施することによって、臨床現場に必要な基礎能力を養い、その適否や有効性について考察できる能力を修得する。 実習終了後には実習報告会（発表）を行う。								
到達 目標	1. 理学療法に対する解決法を自分自身で発見し、文献を調べ、スタッフに聞くなどして独立して行える。 2. 疾患、リスクについて理解できる。 3. 学習した評価が行える。学習していない評価であっても事前に学習し指導を受ければ行える。 4. 目標設定、治療計画の立案が出来る。 5. 指導を受ければ、患者治療が行える。 6. 指導を受ければ、患者記録が書ける。								
講義計画・講義内容									
1. 実習は同一の臨床実習施設において 8 週間行われる。 2. 内容は、各施設における実習指導者の指導・監督の下、実際の症例に対して理学療法評価（情報収集・記録・統合と解釈）を行い、治療計画を立案・実施する。 3. 治療を実施する中で、治療経過からその適否や有効性を考察し、必要に応じて変更できる能力を養う。 4. 学内においては実習終了後に実習報告会（発表）を行う。									
評価方法									
評価指標		実習施設 評価	学内評価	－	－	－	－	合計	
評価割合 (%)		70	30	－	－	－	－	100	
教科書	理学療法評価法 神陵文庫 ¥4, 500 ベッドサイドの神経の診かた 南山堂 ¥7, 200								
教材・参考図書		配布した全ての教科書・参考書							
オフィスアワー		各指導教員に適宜確認すること。							
履修上の 注意点	各実習施設に応じて準備すること。								